

TEAC

PD-301

CDプレーヤー/FMチューナー
CD PLAYER/FM TUNER



日本語

ENGLISH

FRANÇAIS

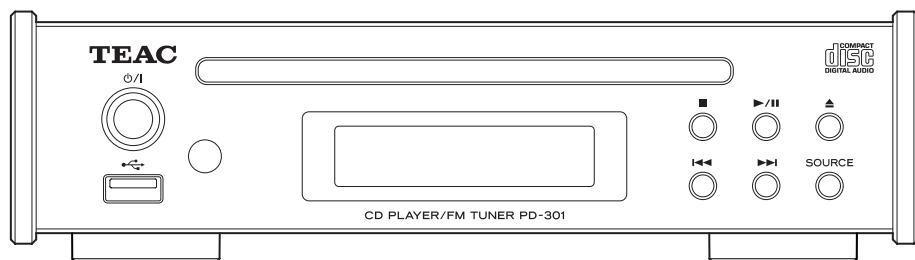
ESPAÑOL

取扱説明書

OWNER'S MANUAL

MODE D'EMPLOI

MANUAL DEL USUARIO



ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。

また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。

末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。

安全にお使いいただくために.....	4
付属品	7
ユーザー登録について.....	7
お使いになる前に	7
ディスクについて	8
USB メモリーについて.....	9
接 続.....	10
リモコンの使い方	11
各部の名前とはたらき (リモコン)	12
各部の名前とはたらき (本体).....	14
基本操作.....	15
画面表示.....	17
CD/USB を聴く.....	18
FM ラジオを聴く	24
設定	25
困ったときは	27
仕 様.....	28
保証とアフターサービス.....	29

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	警告	以下の内容が無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
	電源プラグをコンセントから抜く	万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落としたり、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (123 ページに記載) に修理をご依頼ください。
	禁止	AC アダプターのコードを傷つけない AC アダプターのコードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない AC アダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、AC アダプターのコードが破損したら (芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (123 ページに記載) をご依頼ください。 付属の AC アダプターや電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。 交流 100 ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧 (交流 100 ボルト) 以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流 (DC) 電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。 この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し (5cm 以上) 離して置く ラックなどに入れるときは、機器の天面から 5cm 以上、背面から 10cm 以上のすきまをあける すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。 この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。 この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。 イヤホンやヘッドホンからの過度の音圧は、聴覚障害の原因となります。聴覚障害の可能性を防ぐために、長時間、高音量で聴かないで下さい。
	指示	AC アダプターの電源プラグにほこりをためない AC アダプターの電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。定期的 (年 1 回くらい) に AC アダプターの電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
	禁止	機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。



警告

以下の内容が無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



分解禁止

この機器のカバーは絶対に外さない

カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。

内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（123 ページに記載）にご依頼ください。

この機器を改造しない

火災・感電の原因となります。



注意

以下の内容が無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



電源プラグをコンセントから抜く

移動させる場合は、電源をスタンバイにし、必ず AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す
コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。

旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜き
通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。



指示

オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する
また、接続は指定のケーブルを使用する

電源を入れる前には、音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

この機器はコンセントの近くに設置し、AC アダプターの電源プラグは簡単に手が届くようにする

異常が起きた場合は、すぐに AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。

この機器には、付属の AC アダプターや電源コードを使用する

それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない

湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない

火災・感電やけがの原因となることがあります。

AC アダプターの電源プラグを抜くときは、AC アダプターの電源コードを引っ張らない
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

濡れた手で AC アダプターの電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

安全にお使いいただくために（続き）

電池の取り扱いについて

本製品は電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れなどの原因となりますので、以下の注意事項を必ず守ってください。



警告

乾電池に関する警告



禁止

乾電池は絶対に充電しない。
破裂、液漏れにより、火災・けがの原因となります。



警告

電池に関する警告



強制

電池を入れるときは、極性表示（プラス ⊕ とマイナス ⊖ の向き）に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れる。
間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

長時間使用しないときは電池を取り出しておく。
液が漏れて火災、けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液が漏れた場合は、電池ケースに付いた液を良く拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一漏れた液が身体に付いたときは、水で良く洗い流してください。



禁止

指定以外の電池は使用しない。
新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない。
破裂、液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損することがあります。
炎天下の車内や暖房器具のそばなど、温度が高くなるところで保管しない
本体の変形によるショートや発火、故障、電池の劣化の原因となります。



注意

電池に関する注意



禁止

金属製の小物類と一緒に携帯、保管しない。
ショートして液漏れや破裂などの原因となることがあります。

電池を熱したり、火または水に投げ入れたりしない
電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



分解禁止

分解しない。
電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。



愛情点検

電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったり、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5年に1度は、販売店またはティアック修理センター（123 ページに記載）に内部の点検をご依頼ください。費用についてはお問い合わせください。

付属品

万一付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社 AV お客様相談室（123 ページに記載）にご連絡ください。

AC アダプター (GPE015A-120125-D) x 1

AC アダプター用電源コード x 1

RCA オーディオケーブル x 1

リモコン (RC-1323) x 1

リモコン用乾電池（単4）x 2

FM アンテナ x 1

取扱説明書（本書、保証書付き）x 1

ユーザー登録について

TEAC のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<https://teac.jp/jp/signup>

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

音のエチケット

楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、隣近所に迷惑をかけてしまうことがあります。

適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、お互いに快適な生活環境を守りましょう。

このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



お使いになる前に

△ 設置の注意

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。
- AI-301 または UD-301 との重ね置きは問題ありません。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。

化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

△ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

- ご使用になったカセットテープ、CD、SD カード、USB フラッシュメモリー等の記録媒体（以下「媒体」といいます）が原因で本機が故障した場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。
※長年ご使用になっていない、または、すでに長時間使用された媒体、カビ・汚れ・ベタつき・折れ・捻じれなどが見られる媒体のご使用は、避けてください。
- 媒体に起因して生じた製品または媒体の破損、テープの巻き込み、データの喪失等につきましても、弊社では一切の責任を負いかねます。また、その他の逸失利益、間接的・派生的な損害、その他特殊な事情から生じた損害につきましても、同様です。
※万が一の場合に備えて、あらかじめデータのバックアップの作成等、お客様にてデータの保存や保護措置を講じられることをお勧めいたします。

ディスクについて

本機で再生できるディスク

「Compact Disc Digital Audio」ロゴマークのある CD(12cm)



- ロゴマークは、ディスクレーベルやパッケージに表示してあります。
- 8cm CD は再生できません。

音楽 CD フォーマットで正しく記録され、ファイナライズされた CD-R および CD-RW。
または、MP3 または WMA ファイルが記録され、ファイナライズされた CD-R。

- Multi-Session には対応していません。

上記以外のディスクは再生できません。

⚠ 上記以外のディスクを再生すると、大音量のノイズを発生してスピーカーを破損したり、聴覚を傷付ける恐れがあります。上記以外のディスクは絶対に再生しないでください。

- WMA ファイルについて
Windows Media オーディオプロ並びに Windows Media オーディオロスレスには対応していません。
- ディスクの品質、録音の状態によっては、再生できないことがあります。
- 以下のディスクは本機で読み、再生ができません。
ビデオ CD
スーパーオーディオ CD
DVD ビデオ
DVD オーディオ
DVD-ROM

⚠ DVD ビデオ、DVD オーディオ、DVD-ROM などを本機にセットすると、ディスクを読み込もうとして高速回転します。万が一これらのディスクを入れてしまった場合は、ディスクを傷つけるおそれがありますので、必ず回転が終わってから取り出してください。

- コピーコントロール CD や Dual Disc など、CD の標準規格に準拠していない特殊なディスクは正常に再生できないことがあります。本機で特殊なディスクを使用した際の動作や音質については保証致しかねます。特殊なディスクの再生に支障がある場合は、該当するディスクの発売元にお問い合わせください。

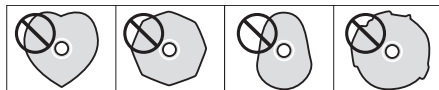
CD-R/CD-RW について

本機は音楽用 CD フォーマット (CD-DA) で記録された CD-R/CD-RW と MP3 または WMA フォーマットで記録された CD-R を再生することができます。

- CD レコーダーで作成したディスクを再生するときは、忘れずにファイナライズしてください。
- ディスクの品質、録音の状態によっては、再生できないことがあります。詳しくはお手持ちの機器の説明書をお読みください。
- CD-R や CD-RW ディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクの発売元にお問い合わせください。

使用上の注意

- ヒビが入ったディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。
- ディスクにはラベルなどを貼らないでください。ディスクにセロハンテープやレンタル CD のシールなどを貼ったあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本機にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷つけて再生ができなくなる場合があります。
- 市販の CD 用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となります。
- ハート形や八角形など特殊形状の CD は、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手でさむように持ってください。信号記録面を手で触らないでください。

ディスクがうまく入らないとき

ディスクが引っかかるなど、押しにくい時は、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いて取り出しボタン(▲)を押してから、再度入れ直してください。(無理に押し込むと、製品を破損する場合があります。)

ディスクの保存について

- 使用後のディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
- 直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。ディスクが変形・変質して、再生できなくなるおそれがあります。
- CD-R/CD-RW は、通常の CD と比べて熱や紫外線の影響を受けやすいため、直射日光が当たる場所や熱を発生する器具の近くなどに長時間放置しないでください。
- ディスクの汚れは音飛びや音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。

お手入れ

- 信号記録面に指紋やほこりがついていない場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。



- レコードクリーナー、帯電防止剤、シンナーなどで絶対に拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。

本機では USB メモリーを使用できます。

- USB メモリーのフォーマットは、FAT16、FAT32 に対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付き USB 機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。

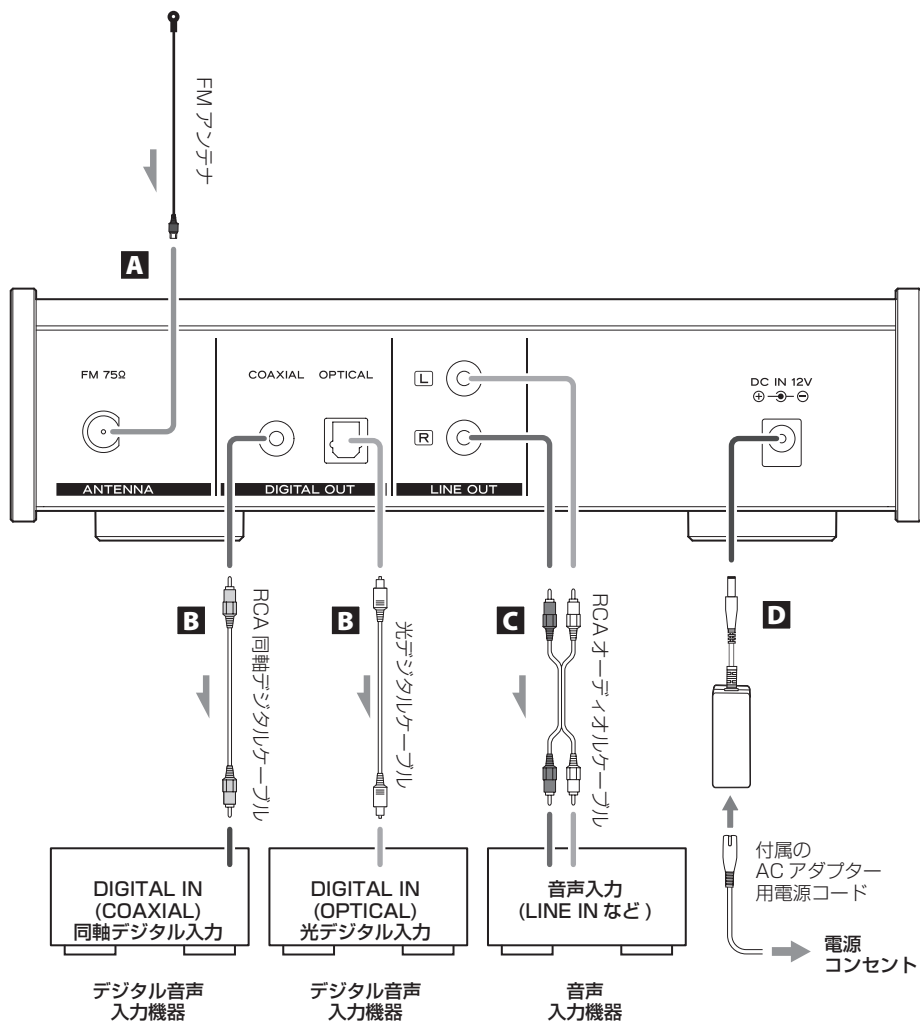
注意

- 接続したメディアが対応していない場合、本機の表示部に「Media Error!」というメッセージが表示されます。
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- 本機の USB 端子にパソコンを接続しないでください。
本機の USB 端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USB カードリーダーに挿したメディアは使えないことがあります。
- USB メモリーやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USB メモリーによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USB メモリーの使用に際して、データの損失や変更、USB メモリーの故障などが発生しても当社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- USB メモリーに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- 本機はセキュリティ機能付き USB メモリーに対応していません。

接 続

⚠ 全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。

- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因となるので、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。
- 各プラグはしっかりと差し込んでください。



リモコンの使い方

A FM アンテナ

FM 放送の受信中にこのアンテナを伸ばして、受信状態が一番良い位置を探してください。
本機を移動した場合は、位置を再調整してください。

B デジタル音声出力端子

デジタル音声を出力します。音声入力機器のデジタル音声入力端子と接続してください。

COAXIAL : RCA 同軸デジタルケーブル

OPTICAL : 光デジタルケーブル (TOS)

C アナログ音声出力端子

2 チャンネルのアナログ音声を出力します。ステレオアンプまたはアンプ内蔵スピーカーと接続してください。

接続には RCA オーディオケーブルをお使いください。

本機の R 端子とアンプなどの R 端子、本機の L 端子とアンプなどの L 端子をそれぞれ接続してください。

D DC 入力端子 (DC IN 12V)

他の全ての接続が終わったら、付属の AC アダプター (GPE015A-120125-D) をこのジャックに接続し、AC アダプター用電源コードのコネクターを接続してください。

次に、AC アダプター用電源コードの電源プラグを交流 100V の電源コンセントに差し込んでください。

- ⚠ 付属の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

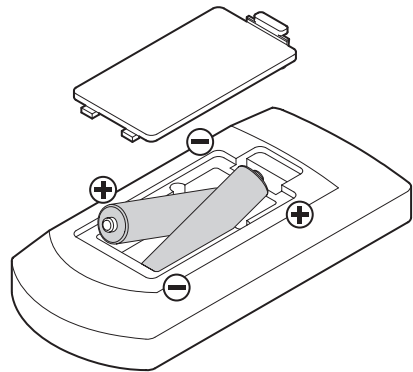
使用上の注意

- ⚠ 乾電池を誤って使用すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。6 ページの注意をよく読んでお使いください。

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて、5 メートル以内の距離で操作してください。本体とリモコンの間には障害物を置かないでください。
- 本体のリモコン受光部に日光や照明があたると、リモコン操作ができないことがあります。その場合は本機を移動してみてください。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますのでご注意ください。

電池の入れ方

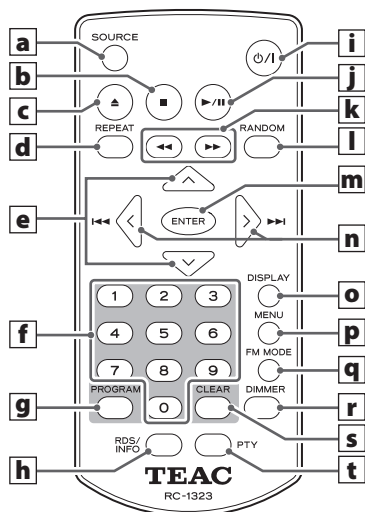
リモコン裏面のフタを外し、ケースの ⊕ と ⊖ の表示に合わせて乾電池 (単 4 形) 2 本を入れて、フタを閉めてください。



電池の交換時期

操作範囲が狭くなったり、操作ボタンを押しても動作しない場合は、2 本とも新しい電池に交換してください。使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法もしくは各市町村指定の廃棄方法に従って捨ててください。

各部の名前とはたらき (リモコン)



本体とリモコンに同じ機能のボタンがある場合、この取扱説明書ではいずれかのボタンを使って説明していますが、記載されていない方のボタンも同様に使えます。

a 再生ソース切換ボタン (SOURCE)

このボタンを押すたびに再生ソースが切り換わります。

b ストップボタン (■)

再生中に押すと停止します。

c 取り出しボタン (▲)

ディスクが途中まで排出されます。ディスクの側面を持って引き抜いてください。
10秒間押し続けると、強制排出を行います。(No Disc 状態でも取り出し動作を行います。)

d リピートボタン (REPEAT)

リピート再生に使用します。

e スクロールボタン (へ/∨)

再生ソースが USB でフォルダーモードのとき、フォルダを選択します。
再生ソースが FM のとき、プリセット番号を変更します。

f 数字ボタン

選曲、プログラムなどに使用します。

g プログラムボタン (PROGRAM)

再生ソースが CD のとき、プログラム再生に使用します。
再生ソースが FM のとき、放送局のプリセットに使用します。

h RDS/INFO ボタン

本機では使用しません。

i スタンバイ / オンボタン (⏻/⏻)

電源のスタンバイ / オンを切り換えます。電源がオンのときは、本体のスタンバイ / オンボタンの周囲が青く点灯します。

j 再生 / 一時停止ボタン (▶/⏸)

停止中または一時停止中に押すとディスクの再生をします。
ディスクの再生中に押すと一時停止します。

k サーチボタン (◀◀/▶▶)

再生ソースが CD/USB のとき、再生中にサーチボタンを押すと、早戻し / 早送りができます。
再生ソースが FM のとき、サーチボタンを押すと、オート選局が始まります。

l ランダムボタン (RANDOM)

ランダム再生に使用します。

m 決定ボタン (ENTER)

トラック番号入力後、決定する時に使用します。

n スキップボタン (◀◀/▶▶) 方向ボタン (</>)

再生ソースが CD/USB でファイルモードのとき、前または次の曲にスキップします。
再生ソースが USB でフォルダーモードのときはファイルを選択するのに使います。
再生ソースが FM のとき、受信周波数を下 / 上に変更します。
1 秒以上押し続けるとオート選局が始まります。

o ディスプレーボタン (DISPLAY)

ディスプレイの表示を切り換えます。

p メニューボタン (MENU)

設定モードになります。

q FM モードボタン (FM MODE)

FM 放送受信時、ステレオとモノラルを切り換えます。
受信状態が悪い場合にはモノラルに設定すると FM 放送が聴き取りやすくなる場合があります。

r ディマーボタン (DIMMER)

ディスプレイの明るさを調節します。

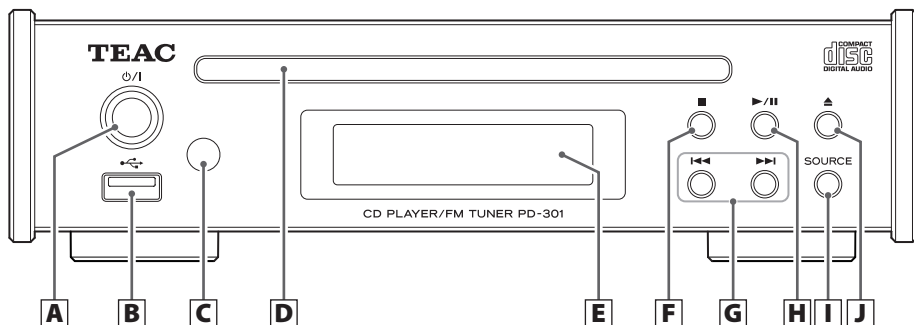
s クリアボタン (CLEAR)

プログラムした曲を削除します。

t PTY ボタン

本機では使用しません。

各部の名前とはたらき（本体）



A スタンバイ / オンボタン (⏻/I)

電源のスタンバイ / オンを切り換えます。電源がオンのときは、ボタンの周囲が青く点灯します。

- 本機はスタンバイ（オフ）のとき、待機電力が消費されるので「オフ」と記載せず、「スタンバイ」または「スタンバイ状態」と記載します。

B USB 端子

USB メモリーを接続します。

- 本機の USB 端子にパソコンなどを接続しないでください。本機の USB 端子にはパソコンから音声を入力できません。

C リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。リモコンを使用するときは、リモコンの先端をリモコン受光部に向けて操作してください。

D ディスク挿入口

ディスクを挿入します。ディスクの一部を挿入すると自動的に引き込まれます。

E ディスプレー

各種情報を表示します。

F 停止ボタン (■)

再生中に押すと停止します。
再生ソースが FM のとき、周波数モードとプリセットモードを切替えます。

G スキップボタン (⏮/⏭)

前または次の曲にスキップします。再生中に押し続けると早送り / 早戻しができます。

H 再生 / 一時停止ボタン (▶/⏸)

停止中または一時停止中に押すと再生を開始します。
再生中に押すと一時停止します。

I 再生ソース切替ボタン (SOURCE)

このボタンを押すたびに再生ソースが切り換わります。

J 取り出しボタン (▲)

ディスクが途中で排出されます。ディスクの側面を持って引き抜いてください。
10 秒間押し続けると、強制排出を行います。（No Disc 状態でも取り出し動作を行います。）

基本操作

再生ソースを選択する

- 1 スタンバイ / オンボタン (⏻/⏻) を押して電源をオンにする。

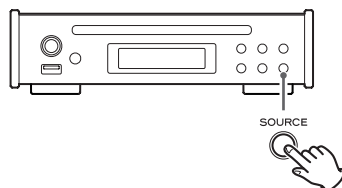
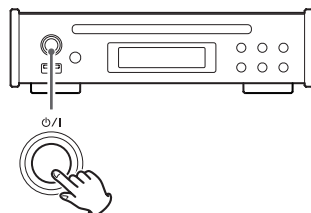
電源をオンにすると、ボタンの周囲が青く点灯します。

注意

突然大きな音が鳴ることを防ぐため、一番最後にアンプの電源をオンにしてください。

- 2 再生ソース切換ボタン (SOURCE) を押して、再生ソースを選ぶ。

再生ソース切換ボタンを押すたびに、以下のように再生するソースが切り換わります。



CD を再生する

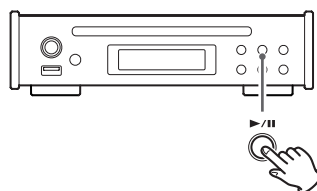
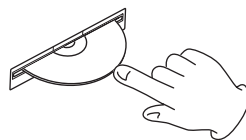
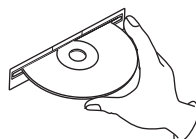
- 1 レーベル面を上にしてディスクの側面を持って、途中までディスクを挿入してください。

- 2 さらにディスクを押していくと、ディスクが挿入口に隠れる直前で自動的に引き込まれます。

ディスクが引っかかるなど、押しにくい時は、無理に押し込まずに一度ディスクを抜いて取り出しボタン (▲) を押してから、再度入れ直してください。(無理に押し込むと、製品を破損する場合があります。)

- 再生ソースがCDに切り換わります。(USB再生時を除く)

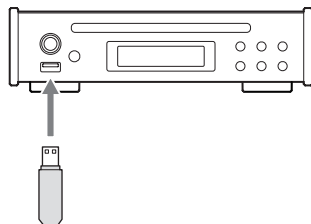
- 3 再生 / 一時停止ボタン (▶/⏸) を押す。



基本操作（続き）

USB メモリーを再生する

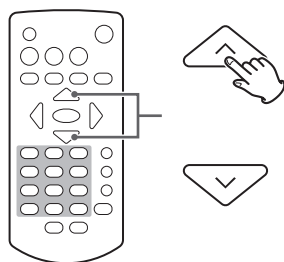
- 1 USB 端子に USB メモリーを接続する。
- 2 スキップボタン (◀◀/▶▶) で曲を選択する。
- 3 再生 / 一時停止ボタン (▶ / ||) を押す。



FM を選局する

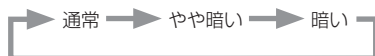
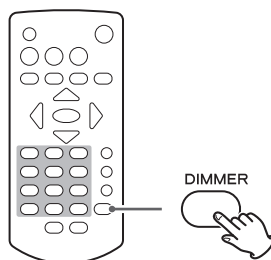
リモコンのスクロールボタン (へ/ゝ) を押して、プリセットされた放送局を選びます。

現在プリセットされている放送局が、ご使用の地域の放送局と一致しないときは、24 ページの「オートプリセット」を実行してください。



ディマー

リモコンのディマー (DIMMER) ボタンを押すたびに、ディスプレイの明るさが変わります。



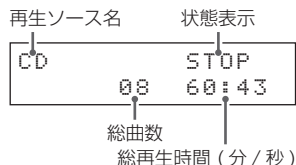
画面表示

画面左上に再生ソース名が表示されます。
ディスプレイボタン (DISPLAY) を押すとディスプレイに表示される情報が変わります。

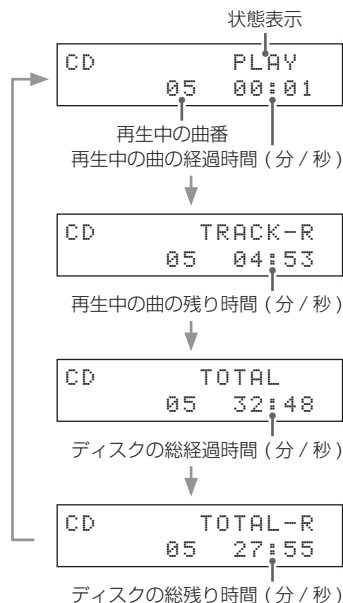
- 下記画面の内容は、表示例です。

オーディオ CD

停止中



再生中



音楽ファイルが記録されたディスク / USB

USB メモリー使用時の表示例を示します。

停止中



再生中



- フォルダー名、ファイル名、ID3 タグは、見出しを含めて最大 62 文字をスクロール表示します。

CD/USB を聴く

各メディアで再生できるフォーマットは以下の通りです。

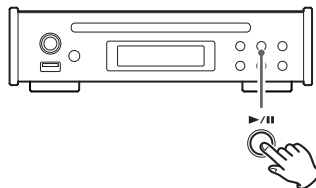
CD： CD-DA (オーディオ CD)、MP3、WMA

USB： WAV、MP3、WMA、AAC

再生する

再生 / 一時停止ボタン (▶/||) を押します。

再生中は、ディスプレイの上の行に「PLAY」が表示されます。

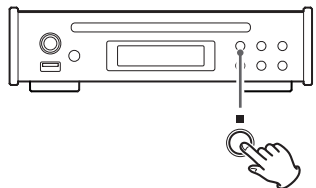


再生を一時停止する

再生 / 一時停止ボタン (▶/||) を押すと再生が一時停止します。

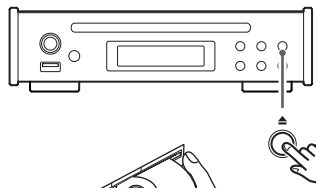
再び再生 / 一時停止ボタン (▶/||) を押すと一時停止したところから再生が始まります。

一時停止中は、ディスプレイの上の行に「PAUSE」が表示されます。



再生を停止する

停止ボタン (■) を押すと再生が停止します。



ディスクを取り出す

停止中に取り出しボタン (▲) を押します。

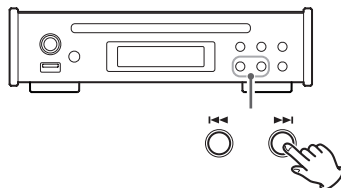
ディスクが途中でまで排出されます。ディスクの側面を持って引き抜いてください。



聴きたい曲を探す (スキップ)

スキップボタン (◀◀/▶▶) を押すと、前または次の曲にスキップします。

- 再生中は、◀◀ を 1 回押すと再生中の曲の始めに戻ります。それより前の曲を再生したいときは、希望する曲になるまで ◀◀ を繰り返し押してください。
- プログラム再生中は、プログラムの前または後ろの曲が再生されます。



聴きたい部分を探す (サーチ)

スキップボタン (◀◀/▶▶) を押し続けている間、早戻し / 早送りされます。聴きたいところで指をはなしてください。

リモコンで操作する場合は、サーチボタン (◀◀/▶▶) を押し続けている間、早戻し / 早送りされます。聴きたいところで指をはなしてください。

曲番を入力して再生する

(オーディオ CD のみ)

スキップボタン (◀◀/▶▶) で曲を選択する以外に曲番を入力して再生することができます。

再生中または停止中に、リモコンの数字ボタンを押して曲番を選ぶことが出来ます。曲番入力後、再生が始まります。

- プログラム再生中、またはランダム再生中は数字ボタンでの選曲はできません。
- 存在しない番号は入力できません。
- 曲番入力中に 5 秒間放置すると、その曲番で再生が始まります。

曲番 7 を入力するとき



曲番 23 を入力するとき



CD/USB の曲を選択、再生する

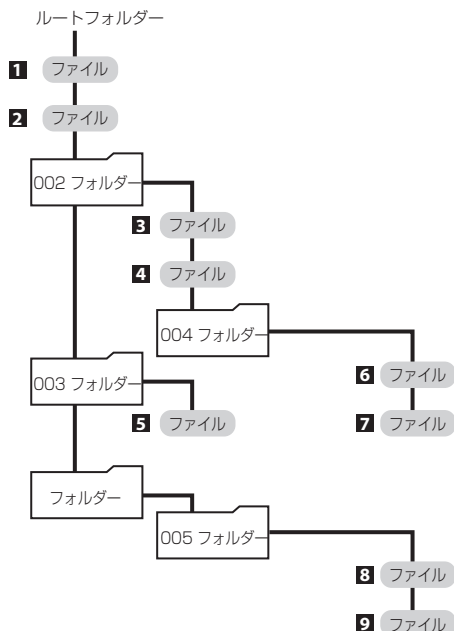
CD はファイルモードで曲を選択します。

USB はファイルモードまたはフォルダーモードで曲を選択します。

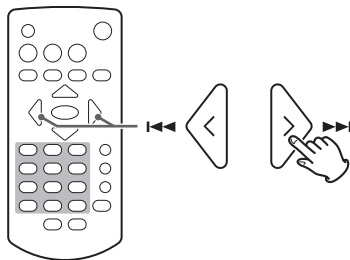
- モードの選択は、25 ページの「USB モード (USB Mode)」をご覧ください。また、再生ソースが USB のときに、停止ボタン (■) を長押しすると、モードを切り換えることができます。

ファイルモード

すべてのフォルダーが同列に扱われ、階層には関係なくファイルを選びます。



ファイルの選択

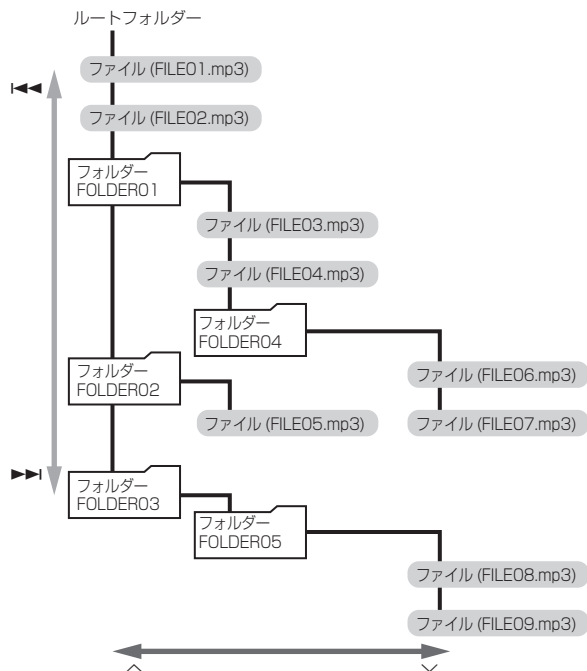


1 ~ 9 は CD 挿入時、または USB 接続時のファイルの再生順序。

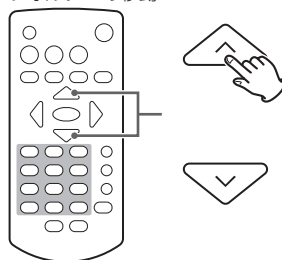
フォルダーモード

フォルダーの階層にしたがって順にフォルダーを選択し、ファイルを選びます。

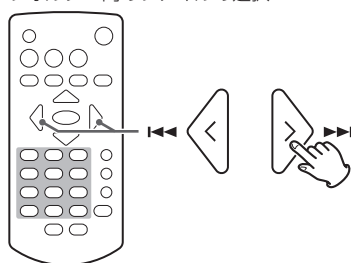
フォルダーモード時は右下にフォルダーアイコン () が表示されます。また、フォルダー名の先頭にもフォルダーアイコン () が表示されます。



フォルダーの移動



フォルダー内のファイルの選択



フォルダーモードの操作例

- 前ページのファイル/フォルダー構成の操作例です。

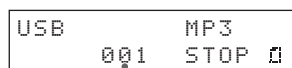
メモ

再生ソースを USB に切り換えると、ファイル名は表示されませんが、FILE01.mp3 が選択されます。

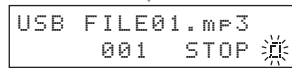
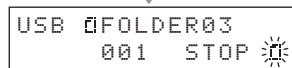
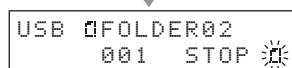
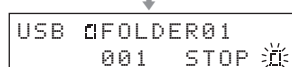
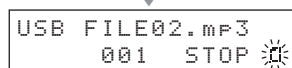
同一階層のファイル/フォルダーを選択する

スキップボタン (▶▶) を押すごとに、下図のようにファイル/フォルダーが選択されます。スキップボタン (◀◀) を押すと、反対の順に選択されます。

- 画面の内容は、表示例です。



選択されているフォルダーの中のファイル番号

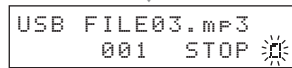
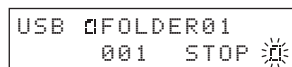


□ は点灯を表します。

⬢ は点滅を表します。

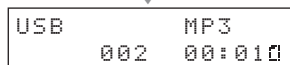
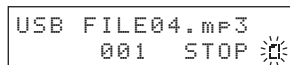
フォルダーの階層を移動する

フォルダーを選択し、スクロールボタン (↕) または決定ボタン (ENTER) を押すと、そのフォルダー内のファイル/フォルダーを表示します。スクロールボタン (↕) を押すと上の階層に移動し、フォルダー内のファイル/フォルダーを表示します。



再生する

上の行にファイルが表示されている状態でスクロールボタン (↕) または決定ボタン (ENTER) を押すと、そのファイルが選択され再生します。



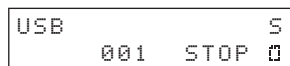
メモ

- ファイル/フォルダー選択中はフォルダーアイコンが点滅します。
- ファイル/フォルダー選択を中止するには、クリアボタン (CLEAR) を押します。
- 音楽ファイルがないフォルダーを選択すると、NO FILE と表示されますが、この時にスキップボタン (◀◀/▶▶) を押すと、現在選択されているファイルのファイル名が表示され、移動できなくなることがあります。この場合にはクリアボタン (CLEAR) を押して選択を中止し、やり直してください。

スキップモード

フォルダーモードで、決定ボタン (ENTER) を 5 秒間押し続けると、スキップモードになり一行目の右側に「S」が表示されます。

スキップモードの表示例



このモードでは、スキップボタン (◀◀/▶▶) の動作がファイルの選択ではなくスキップに変わり、決定ボタン (ENTER) を押さなくても再生します。もう一度、決定ボタン (ENTER) を 5 秒間押し続けると「S」が消え通常のフォルダーモードに戻ります。

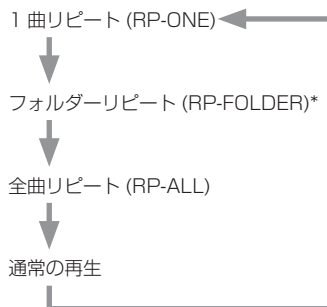
メモ

- ファイル番号は選択されているフォルダーの中の番号を表示するため、スキップでフォルダーが変わった時には番号がスキップ前と連続した番号になりません。

リピート再生

リピートボタン (REPEAT) を押すたびに、右図のようにリピートのモードが切り換わります。

- プログラム再生中にリピート再生はできません。
- ランダム再生と同時に使用できません。
- 「フォルダーモード」設定時は、[フォルダーリピート] と [全曲リピート] のいずれもフォルダー内のファイルのみをリピート対象とし、同じ動作となります。
メモリー内のすべてのファイルをリピート再生する場合は、動作モードを「ファイルモード」に変更し、リピートモードを [全曲リピート] に設定したうえで再生してください。



*USB のフォルダーモード以外ではフォルダーリピートは、表示されません。

ランダム再生

ランダムボタン (RANDOM) を押すと、ランダム再生のオン / オフ が切り換わります。

ON の時はディスクの曲がランダムに再生されます。

ストップボタン (■) が押されるまで、再生は止まりません。

- リピート再生と同時に使用できません。

プログラム再生

オーディオ CD のみプログラム再生が可能です。

プログラムする

1 プログラムボタン (PROGRAM) を押す。

「MEM」と曲番が点滅します。



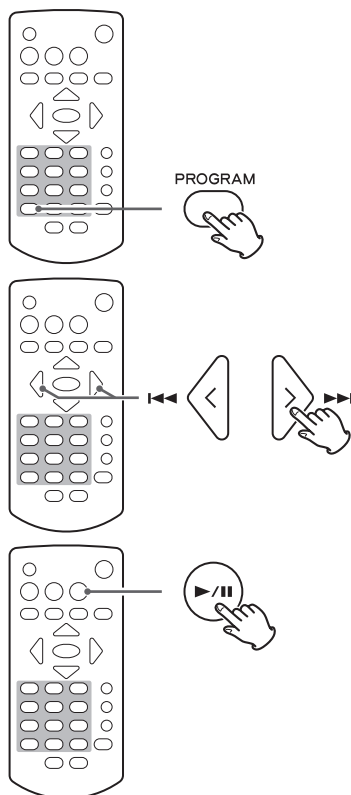
- 停止中に押してください。

2 スキップボタン (◀◀/▶▶) または、数字ボタンで曲を選択し、プログラムボタン (PROGRAM) または決定ボタン (ENTER) を押して曲を登録する。

プログラムしたい曲を全て登録してください。

- 20 秒間操作しないとプログラムはキャンセルされます。

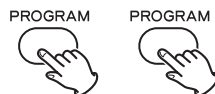
3 再生 / 一時停止ボタン (▶/||) を押してプログラム再生を開始する。



プログラムの確認と修正

1 プログラムボタン (PROGRAM) を 2 回押す。

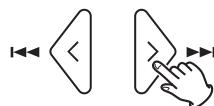
「MEM」とプログラム番号が点滅します。



2 スキップボタン (◀◀/▶▶) を押して、プログラム番号を変更し、曲番を確認する。

プログラムを修正するには

1. 修正したいプログラム番号を表示させる。
2. プログラムボタン (PROGRAM) を押す。
3. 曲を選択し、プログラムボタン (PROGRAM) を押して曲を登録する。



プログラムを消去するには

1. 消去したいプログラム番号を表示させる。
2. クリアボタン (CLEAR) を押す。

3 再生 / 一時停止ボタン (▶/||) を押してプログラム再生を開始する。



プログラムの追加

1 プログラムボタン (PROGRAM) を押す。

「MEM」と曲番が点滅します。

2 曲を選択し、プログラムボタン (PROGRAM) を押して曲を登録する。

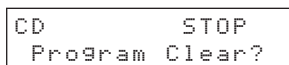
複数の曲を登録するには、この操作を繰り返してください。

3 再生 / 一時停止ボタン (▶/||) を押してプログラム再生を開始する。

プログラムの内容を全て消去するには

1 停止中にクリアボタン (CLEAR) を長押しする。

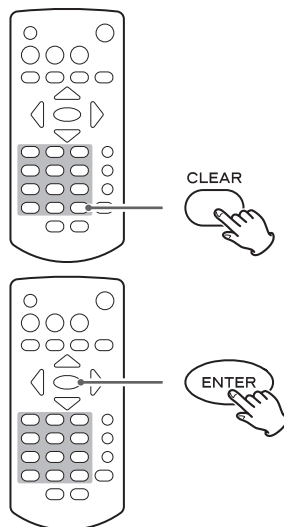
2 「Program clear?」が表示されたら、決定ボタン (ENTER) を押してプログラムを消去する。



中止する場合は、ストップボタン (■) または、クリアボタン (CLEAR) を押してください。

以下のいずれかを行ったときも、プログラムの内容は全て消去されます。

- ディスクを排出した場合
- スタンバイ / オンボタン (⏻/⏻) でスタンバイにした場合



FM ラジオを聴く

FM モード

FM モードボタン (FM MODE) を押すたびに、ステレオ受信とモノラル受信が切り換わります。

STEREO(ステレオ)

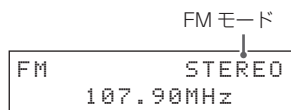
FM ステレオ放送をステレオで受信します。

- 受信状態が悪い場合は、Mono(モノラル) で受信してください。

MONO(モノラル)

FM 放送をモノラルで受信します。FM 放送の受信状態が悪いときにこのモードを選ぶと、音はモノラルになりますがノイズが減少し、聴きやすくなります。

表示例



受信周波数を変える

プリセット番号が表示されている場合は、停止ボタン (■) を押して周波数選択モードにします。

受信周波数を上げる

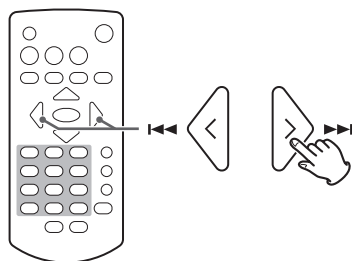
方向ボタン (>) を押すと、受信周波数が 1 ステップ上がります。
サーチボタン (▶▶) を押すと、周波数の高い方へ自動サーチします。

受信周波数を下げる

方向ボタン (<) を押すと、受信周波数が 1 ステップ下がります。
サーチボタン (◀◀) を押すと、周波数の低い方へ自動サーチします。

本体で周波数を変えるには

ストップボタン (■) を押して周波数選択モード (プリセット番号が表示していない状態) でスキップボタン (◀◀/▶▶) を押します。プリセット番号が表示されているときは、スキップボタン (◀◀/▶▶) を押すとプリセット番号が変わります。



放送局のプリセット

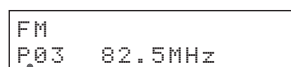
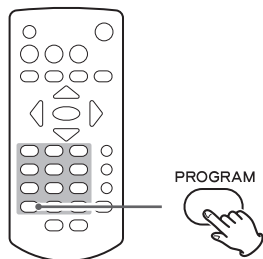
FM 放送局を 20 局までプリセットできます。

オートプリセット

リモコンの PROGRAM ボタンを長押しする。
自動的に放送局を探して、プリセット 01(P01) から順に放送局をセットします。プリセットが 20 を超えるか、受信周波数の範囲を探し終えると、オートプリセットを終了します。

マニュアルプリセット

- 1 プリセットしたい放送局を受信する。
- 2 プログラムボタン (PROGRAM) を押す。
- 3 プリセットする番号を方向ボタン (</>) で選択し、決定ボタン (ENTER) を押す。

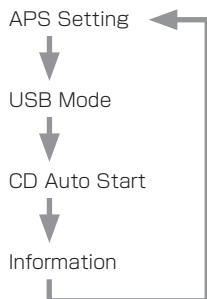


プリセット番号

設定

- 1 メニューボタン (MENU) を押す。
- 2 方向ボタン (</>) を押して設定項目を選択し、決定ボタン (ENTER) を押す。

▶▶ ボタンを押す毎に以下のように項目が変わります。



◀◀ ボタンを押すと、反対の順で項目が変わります。

- 3 方向ボタン (</>) を押して設定を変更し、決定ボタン (ENTER) を押して確定する。

確定後、元の画面に戻ります。

- 設定を中止するときは、メニューボタン (MENU) を押してください。

表示例

```
Menu
< APS Setting >
```

表示例

```
APS Setting
< APS ON >
```

オートパワーセーブ機能の設定 (APS Setting)

- 製品出荷時の設定は OFF に設定されています。

ON

再生ソースが CD/USB のとき、停止または一時停止の状態が 30 分続くと、スタンバイ状態になります。

OFF

スタンバイ状態になりません。

表示例

```
APS Setting
< APS ON >
```

電源 ON 時にオートパワーセーブ機能の設定が表示されます。

表示例

```
TEAC PD-301
APS ON
```

USB モード (USB Mode)

- 製品出荷時の設定は File (ファイルモード) に設定されています。

File (ファイルモード)

すべてのフォルダーが同列に扱われ、階層には関係なくファイルを選びます。

Folder (フォルダーモード)

フォルダーの階層にしたがって順にフォルダーを選択し、ファイルを選びます。

表示例

```
USB Mode
< File >
```

設定（続き）

CD Auto Start

表示例

- 製品出荷時は Stop(OFF) に設定されています。

```
CD Auto Start
< Stop(OFF) >
```

Stop(OFF)

CD を挿入すると停止状態になります。

Playback(ON)

CD 挿入時、ソースが CD になったとき、自動的に再生を開始します。

情報表示 (Information)

表示例

現在のファームウェアのバージョンを表示します。

```
Information
Ver 1.00
```

困ったときは

一般

電源が入らない

(スタンバイ/オンボタン(○/I)のLEDが点灯しない)

- ➔ 電源コードがきちんと電源に接続されているか、差し込みが不完全ではないか確認してください。コンセントがスイッチ式の場合、オンになっているか確認してください。
- ➔ コンセントに他の電気機器を接続して、電気が供給されているか確かめてください。

リモコンで操作できない

- ➔ リモコンは本体の正面から5メートル以内の距離で、本体の方を向けて操作してください。
- ➔ 本体とリモコンの間に障害物があると操作できませんので、位置を調整してください。
- ➔ 電池が消耗していたら、新しい電池に交換してください。

テレビなどが誤動作する

- ➔ ワイヤレスリモコン機能を持つテレビの一部には、本機のリモコン操作により誤動作するものがあります。その場合は本体のボタンをお使いください。

音が出ない。または小さな音しか出ない。

- ➔ アンプとの接続を確認してください。
- ➔ スピーカーや他の機器との接続を確認してください。

雑音が出る

- ➔ テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。

ラジオ

受信できない。受信状態が悪い

- ➔ 放送局を選局してください。
- ➔ 受信状態が悪いときは、アンテナを張り直してみてください。
- ➔ テレビが近くにあるときは、テレビの電源をオフにしてください。
- ➔ ラジオ受信中は、本機からUSBメモリーを抜いておいてください。雑音等の原因になる場合があります。

ステレオ放送なのにモノラルになる

- ➔ リモコンのFMモードボタン(FM MODE)を押して、ステレオ受信に切り換えてください。

CD プレーヤー

再生できない

- ➔ ディスクが裏返しになっている場合は、ディスクのレーベル面を上にして入れ直してください。
- ➔ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
- ➔ ディスクの品質や録音状態によっては、CD-R/

CD-RW を再生できないことがあります。

- ➔ ファイナライズされていないCD-R/CD-RW は再生できません。

音飛びする

- ➔ 震動を与えるとき音飛びする場合があります。本機は安定した場所に設置してください。
- ➔ ディスクが汚れている場合は、ディスクを拭いてください。
- ➔ 傷が付いたり、ヒビが入っているディスクは使わないでください。

MP3、WMA、AAC、WAV ファイル

再生できない

- ➔ ファイルの拡張子を確認してください。MP3 ファイルの認識はファイル拡張子「.mp3」、WMA ファイルは「.wma」、AAC ファイルは「.m4a」、WAV ファイルは「.wav」、で行います。
- ➔ MP3/WMA/AAC/WAV ファイルが破損している可能性があります。
- ➔ ファイルのフォーマットを確認してください。本機で再生できるのは、MP3/WMA/AAC/WAV ファイルです。また、CD では WAV/AAC ファイルは再生できません。(28 ページ)

「NO USB」と表示され、USBメモリーを認識できない

- ➔ USBメモリーをパソコンでフォーマットしてみてください。FAT 情報が書き直されて、本機で認識できるようになることがあります。(注：フォーマットを行うと USBメモリーのファイルは消去されます。)

曲名、アーティスト名、アルバム名が表示されない

- ➔ ファイルにID3 タグが入っていません。パソコンなどでID3 タグを編集した MP3/WMA/AAC ファイルを作成し直してください。WAV ファイルではID3 タグは使用できません。

正しく表示されない文字がある

- ➔ ファイル名に日本語や中国語などの全角文字(2 バイト文字)が使われている場合、再生は可能ですがディスプレイに正しく表示できません。

No Music file と表示される

- ➔ ディスクまたは USBメモリー内に再生可能な音楽ファイルがありません。再生可能な音楽ファイルの入ったディスクまたは USBメモリーをご用意ください。

本機はマイコンを使用しておりますので、外部からの雑音やノイズ等によって正常な動作をしなくなることがあります。このような場合は一旦電源プラグをコンセントから抜き、しばらくしてから再び電源を入れて操作しなおしてください。

CD プレーヤー部

再生メディア CD-DA、CD-ROM/R/RW*
 12cm ディスクのみ使用可能
 フォーマット ISO9660 LEVEL 1/2/JOLIET
 最大ファイル数 300 (フォルダー含む)
 最大フォルダー数 50
 再生可能フォルダー階層 16
 (階層ただしフルパスがファイル名を含み260字以内)
 * CD-RW は CD-DA フォーマットのみ対応

USB 部

対応 USB 機器
 USB マスストレージデバイスクラス
 インターフェース USB2.0 (Full speed)
 USB1.1 (High speed)
 USB3.0 互換
 ファイルシステム FAT16、FAT32
 最大ファイル数 300 (フォルダー含む)
 最大フォルダー数 50
 USB 出力電圧 DC 5 V
 USB 供給電流 最大 500 mA

再生可能音楽フォーマット

WAV (USB のみ)
 拡張子 「.wav」、 「.WAV」
 量子化ビット数 16 ビット
 サンプリング周波数 44.1、48 kHz
 MP3
 拡張子 「.mp3」、 「.MP3」
 ビットレート 32k ~ 320kbps および VBR
 サンプリング周波数
 16k、22.05k、24k、32k、44.1k、48kHz
 対応規格 MPEG1/2 Audio Layer-3
 WMA
 拡張子 「.wma」、 「.WMA」
 ビットレート 32k ~ 320kbps および VBR
 サンプリング周波数
 8k、11.025k、16k、
 22.05k、32k、44.1k、48k
 対応規格 WMA ver.9 standard
 (DRM 非対応)
 AAC (USB のみ)
 拡張子 「.m4a」、 「.M4A」
 ビットレート ... 8 kbps ~ 320 kbps and VBR
 サンプリング周波数
 8k、16k、32k、11.025k、
 22.05k、44.1k、12k、24k、48kHz
 対応規格 ... MPEG4 AAC-LC (Audio stream)

チューナー部

受信周波数
 FM 76.0MHz ~ 108.0MHz

アナログ音声出力

端子 RCA 端子 (2 チャンネル) × 1
 出力インピーダンス 470 Ω以下
 最大出力レベル (1 kHz、フルスケール、10k Ω負荷時)
 2.0 Vrms
 周波数特性 20 Hz ~ 20 kHz (- 3 dB)
 S/N 比 113 dB
 歪率 0.005%(1 kHz)

デジタル音声出力

同軸デジタル端子 × 1
 出力インピーダンス 75 Ω
 出力レベル 0.5 Vp-p
 光デジタル端子 × 1
 TOS (JEITA RC-5720C)
 サンプリング周波数 44.1 kHz
 量子化ビット数 16 ビット

一般

電源 100V AC 50 - 60 Hz
 消費電力 8W
 外形寸法 215mm x 61mm x 232mm
 (WxHxD、突起部を含む)
 質量 2.1kg
 許容動作温度 + 5℃ ~ + 35℃
 許容動作湿度 5% ~ 85% (結露のないこと)
 許容保管温度 - 20℃ ~ + 55℃

付属品

AC アダプター (GPE015A-120125-D) × 1
 AC アダプター用電源コード × 1
 RCA オーディオケーブル × 1
 リモコン (RC-1323) × 1
 リモコン用乾電池 (単 4) × 2
 FM アンテナ × 1
 取扱説明書 (本書、保証書付き) × 1

仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

よくお読みください

■保証書

取扱説明書の123ページが保証書になっています。保証書は、お買い上げの際に販売店が所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。保証期間はお買い上げ日より1年です。

■補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）、もしくは代替製品を製造後8年間保有しています。

■ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（123ページに記載）にお問い合わせください。

■修理を依頼されるときは

27ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（123ページに記載）にご連絡ください。なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。

測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。

その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

その他：製品を送るために必要な送料／梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：CDプレーヤー/FMチューナー PD-301

シリアルナンバー：

お買い上げ日：

販売店名：

お客様のご連絡先

故障の状況（できるだけ詳しく）

■廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。

この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じて、当社は一切の責任を負いません。

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

CAUTION

- DO NOT REMOVE THE EXTERNAL CASES OR CABINETS TO EXPOSE THE ELECTRONICS. NO USER SERVICEABLE PARTS ARE INSIDE.
- IF YOU ARE EXPERIENCING PROBLEMS WITH THIS PRODUCT, CONTACT THE STORE WHERE YOU PURCHASED THE UNIT FOR A SERVICE REFERRAL. DO NOT USE THE PRODUCT UNTIL IT HAS BEEN REPAIRED.
- USE OF CONTROLS OR ADJUSTMENTS OR PERFORMANCE OF PROCEDURES OTHER THAN THOSE SPECIFIED HEREIN MAY RESULT IN HAZARDOUS RADIATION EXPOSURE.

- 1) Read these instructions.
- 2) Keep these instructions.
- 3) Heed all warnings.
- 4) Follow all instructions.
- 5) Do not use this apparatus near water.
- 6) Clean only with dry cloth.
- 7) Do not block any ventilation openings. Install in accordance with the manufacturer's instructions.
- 8) Do not install near any heat sources such as radiators, heat registers, stoves, or other apparatus (including amplifiers) that produce heat.
- 9) Do not defeat the safety purpose of the polarized or grounding-type plug. A polarized plug has two blades with one wider than the other. A grounding type plug has two blades and a third grounding prong. The wide blade or the third prong are provided for your safety. If the provided plug does not fit into your outlet, consult an electrician for replacement of the obsolete outlet.
- 10) Protect the power cord from being walked on or pinched particularly at plugs, convenience receptacles, and the point where they exit from the apparatus.
- 11) Only use attachments/accessories specified by the manufacturer.
- 12) Use only with the cart, stand, tripod, bracket, or table specified by the manufacturer, or sold with the apparatus. When a cart is used, use caution when moving the cart/apparatus combination to avoid injury from tip-over.



- 13) Unplug this apparatus during lightning storms or when unused for long periods of time.
- 14) Refer all servicing to qualified service personnel. Servicing is required when the apparatus has been damaged in any way, such as power-supply cord or plug is damaged, liquid has been spilled or objects have fallen into the apparatus, the apparatus has been exposed to rain or moisture, does not operate normally, or has been dropped.
- The apparatus draws nominal non-operating power from the AC outlet with its POWER or STANDBY/ON switch not in the ON position.
- The mains plug is used as the disconnect device, the disconnect device shall remain readily operable.
- Caution should be taken when using earphones or headphones with the product because excessive sound pressure (volume) from earphones or headphones can cause hearing loss.

CAUTION

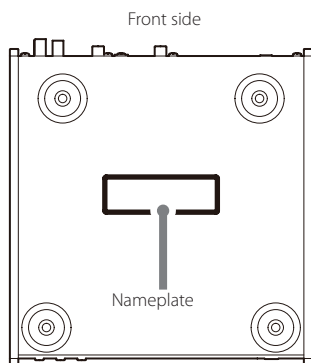
- Do not expose this apparatus to drips or splashes.
- Do not place any objects filled with liquids, such as vases, on the apparatus.
- Do not install this apparatus in a confined space such as a book case or similar unit.
- The apparatus should be located close enough to the AC outlet so that you can easily reach the power cord plug at any time.
- If the product uses batteries (including a battery pack or installed batteries), they should not be exposed to sunshine, fire or excessive heat.
- CAUTION for products that use replaceable lithium batteries: there is danger of explosion if a battery is replaced with an incorrect type of battery. Replace only with the same or equivalent type.

Precautions concerning batteries

Misuse of batteries could cause them to rupture or leak leading to fire, injury or the staining of nearby things. Please read and observe the following precautions carefully.

- Be sure to insert the batteries with correct positive (+) and negative (-) orientations.
- Use batteries of the same type. Never use different types of batteries together.
- If the remote control is not used for a long time (more than a month), remove the batteries to prevent them from leaking.
- If the batteries leak, wipe away the leakage inside the battery compartment and replace the batteries with new ones.
- Do not use batteries of types other than those specified. Do not mix new batteries with old ones or use different types of batteries together.
- Do not heat or disassemble batteries. Never throw batteries into fire or water.
- Do not carry or store batteries with other metallic objects. The batteries could short circuit, leak or explode.
- Never recharge a battery unless it is confirmed to be a rechargeable type.
- Do not expose batteries to extremely low air pressure as it could result in an explosion or leakage of flammable liquids or gases.

The nameplate is located on the bottom of the unit as shown below.



Laser information

This laser product is a consumer laser product according to EN 50689:2021 and complies with all consumer laser product requirements except child appealing products.

This product contains a laser system and is classified as a CLASS 1 LASER PRODUCT according to IEC 60825-1:2014. This class does not require special attention in normal use. Do not take apart to prevent being exposed to the laser beam.

Laser:

Type: EP-C250L

Manufacturer: GUANGDONG EVER BRIGHT GROUP CO.,LTD

Laser output: Less than 0.30 mW on the objective lens

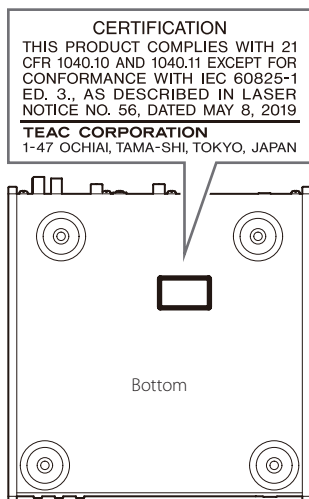
Wavelength: 792 +8 nm / -12 nm

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS (continued)

Model for USA

This product has been designed and manufactured according to FDA regulations "title 21, CFR, chapter 1, subchapter J, based on the Radiation Control for Health and Safety Act of 1968", and is classified as class **I** laser product. There is not hazardous invisible laser radiation during operation because invisible laser radiation emitted inside of this product is completely confined in the protective housings.

The label required in this regulation is as follows:



Model for USA

Supplier's Declaration of Conformity

Model number: PD-301

Trade name: TEAC

Responsible party:

Please contact us from the address below.

<https://teac.jp/int/support/usa/contact>

This device complies with Part.15 of FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.



Information

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the equipment and/or the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

CAUTION

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Model for Canada

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

For European Customers

Disposal of electrical and electronic equipment and batteries and/or accumulators

- (a) All electrical/electronic equipment and waste batteries/accumulators should be disposed of separately from the municipal waste stream via collection facilities designated by the government or local authorities.
- (b) By disposing of electrical/electronic equipment and waste batteries/accumulators correctly, you will help save valuable resources and prevent any potential negative effects on human health and the environment.
- (c) Improper disposal of waste electrical/electronic equipment and batteries/accumulators can have serious effects on the environment and human health because of the presence of hazardous substances in the equipment.

- (d) The Waste Electrical and Electronic Equipment (WEEE) symbols, which show wheeled bins that have been crossed out, indicate that electrical/electronic equipment and batteries/accumulators must be collected and disposed of separately from household waste.



If a battery or accumulator contains more than the specified values of lead (Pb) and/or cadmium (Cd) as defined in the Battery Regulation (EU) 2023/1542, then the chemical symbols for those elements will be indicated beneath the WEEE symbol.



Pb, Cd

- (e) Return and collection systems are available to end users. For more detailed information about the disposal of old electrical/electronic equipment and waste batteries/accumulators, please contact your city office, waste disposal service or the shop where you purchased the equipment.

Model for EEA (European Economic Area)



Hereby, TEAC Corporation declares that the radio equipment type is in compliance with Directive 2014/53/EU., and the other Directives, and Commission Regulations.

The full text of the EU declaration of conformity is available at the following internet address. Please contact us by e-mail. <https://teacsupport.aqipa.com/>

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

Other company names, product names and logos in this document are the trademarks or registered trademarks of their respective owners.

Table of contents

Thank you for choosing TEAC.

Read this manual carefully to get the best performance from this unit. After reading it, keep it in a safe place for future reference.

IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS	30
Included accessories.....	34
Before use.....	34
Using the TEAC International Site	34
Notes about discs	35
Notes about USB flash drives.....	36
Names and functions of parts (main unit)	37
Connections.....	38
Using the remote control.....	39
Names and functions of parts (remote control).....	40
Basic operation	42
Display information.....	44
Listening to files on a CD or USB flash drive	45
Listening to FM radio	52
RDS (European model only).....	54
Settings	56
Troubleshooting.....	58
Specifications.....	59

- In case of the failure of the Product caused by the tapes or other media ("Media") you used, the repair for the failure shall not be covered by the warranty of the Product and must be done at your own expense.
 - It is highly recommended that you shall avoid using the Media such as those not used for years or used after a long period of use or those with mold, blots, stickiness, folds, creases or twists.
- TEAC shall never be responsible for any damages due to the Media including but not limited to the corruption or breakage of the Product or the Media, dragging the tapes into the Product, and/or loss of data in whole or in part that arises out of or related to the use of the Media. That is the same for any damages such as lost profit, indirect or consequential damages, and/or special damages.

It is highly recommended that you shall take appropriate measures to prepare for the unexpected loss of data along with the Copyright Act of your country or region.

Included accessories

Check to be sure the box includes all the supplied accessories shown below.

Please contact the store where you purchased this unit if any of these accessories are missing or have been damaged during transportation.

AC adapter (GPE015A-120125-D) × 1

Power cord for AC adapter × 1

RCA audio cable × 1

Remote control (RC-1323) × 1

FM antenna × 1

Owner's manual (this document) × 1

- See page 121 for information about the warranty.

Before use



Placement precautions

- Avoid placing it in high temperature environments such as in direct sunlight or close to a source of heat. Moreover, do not place the unit on an amplifier or any other device that generates heat. Doing so could cause discoloration, deformation or malfunction.

Maintenance

Wipe dirt from the top cover and other panel surfaces using a soft cloth that has been slightly dampened with a diluted neutral cleanser.

Do not use chemically-treated wipes, thinner or similar substances because they could damage the surface of the unit.



For safety, disconnect the power cord from the outlet before cleaning.

Using the TEAC International Site

You can download updates for this unit from the TEAC International Site:

<https://teac.jp/int/>

Click LANGUAGE at the top right of the page and select the desired language to access a page in the corresponding language.

Types of discs that can be played by this unit

CDs (12cm) with the Compact Disc Digital Audio logo



- This logo appears on disc labels and packaging.

- This unit cannot play 8cm CDs.

CD-R and CD-RW discs that have been properly recorded and finalized using the audio CD format. CD-R discs that have been written with MP3 or WMA files and finalized.

- Multi-session discs are not supported.

This unit cannot play discs of types other than those above.

⚠ If you try to play any other type of disc with this unit, loud noises that damage speakers or harm hearing could occur. Never try to play any type of disc other than those shown above.

- WMA files
Windows Media Audio Professional (WMA Pro) and Windows Media Audio Lossless (WMA Lossless) formats are not supported.
- Depending on the quality of the disc and the condition of the recording, playback might not be possible.
- This unit cannot read or play the following types of discs.
Video CDs
Super Audio CDs
DVD video discs
DVD audio discs
DVD-ROM discs

⚠ If you load a DVD video, DVD audio, DVD-ROM or similar disc into this unit, the unit will try to play it and spin at high speed. If you accidentally load such a disc, the disc could be damaged, so do not try to remove it until it stops spinning.

- This unit might not be able to properly play Copy Control CDs, Dual Discs or other special CDs that do not conform to the Red Book CD standard. Operation and sound quality cannot be guaranteed when special discs are used in this unit. If playback of a special disc should cause trouble, contact the seller of the disc.

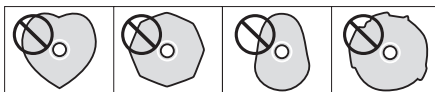
CD-R/CD-RW discs

This unit can play CD-R/CD-RW discs that have been recorded in audio CD format (CD-DA) and CD-R discs that contain MP3 or WMA format files.

- In order to play a disc created by a CD recorder, be sure to finalize it.
- Depending on the quality of the disc and the condition of the recording, playback might not be possible. For details, see the operation manual for the device you are using.
- If you have any questions about how to handle a CD-R or CD-RW disc, contact the seller of the disc directly.

Precautions for use

- Do not use cracked discs because they could damage the unit.
- Do not apply labels or other materials to discs. Do not use discs that have had tape, stickers or similar materials removed from them as they may have left a sticky residue on the disc's surface. Other discs to avoid are ones that have exposed glue around the edges of stickers, for example. Using such a disc in this unit could cause the disc to become stuck or could damage the unit.
- When writing something on the label side of a disc, use a felt tip permanent marker. The use of a ballpoint pen or other pen with a hard tip could damage the disc, making it unplayable.
- Never use commercially-available CD stabilizers. Doing so could make the disc unplayable or damage the unit.
- Never use discs with irregular shapes, including heart-shaped and octagonal discs, because they could damage the unit.



- To remove a disc from its case, while pressing down on the center of the case, hold the disc by its edges. Do not touch the side of the disc that has the data encoded on it (unlabeled side).

Notes about discs (cont'd)

If a disc will not load properly

If a disc becomes caught or is otherwise difficult to insert, do not push it in forcefully. Press the EJECT (▲) button and remove the disc once before trying to reinsert it. (Pushing a disc forcefully could damage the unit.)

Storing discs

- Discs should be stored in their cases when not being used. Failure to do so could result in warping and scratches.
- Do not leave discs in places that are exposed to direct sunlight or that are very humid or hot. Doing so could cause discs to become deformed or degraded, making them unplayable.
- CD-R and CD-RW discs are more susceptible to the impacts of heat and ultraviolet rays than ordinary CDs. For this reason, do not leave them for long times in places that are exposed to direct sunlight or near devices that generate heat, for example.
- Always clean discs before storing them. Leaving a disc in an unclean state might result in skipping or degraded sound quality.

Cleaning discs

- If the side of the disc that has the data encoded on it (unlabeled side) becomes dirty with fingerprints or dust, use a soft cloth to wipe the surface from the center directly toward the edge.



- Never use record cleaners, antistatic treatments, thinners or similar chemicals to clean discs. Such chemicals could harm the surface of the disc.

Notes about USB flash drives

This unit can use USB flash drives.*

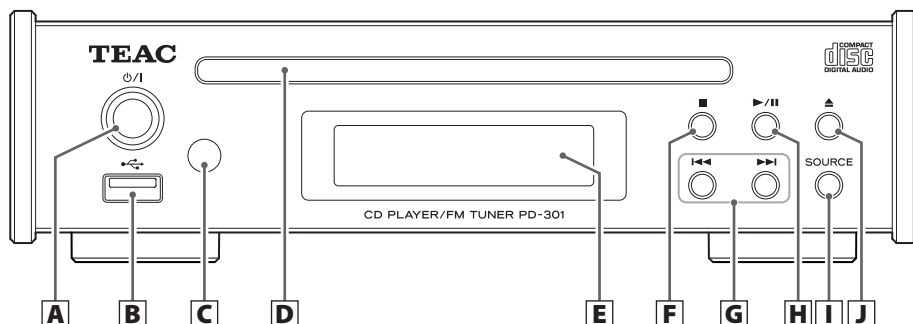
*The USB ports on this unit only support USB flash drives (also known as “thumb drives” and “jump drives”). They do not support standard USB hard drives.

- FAT16 and FAT32 formats are supported for USB flash drives.
- This unit does not support USB hubs or devices with USB hub functions. Never connect such devices to this unit.

ATTENTION

- If the connected media is not supported, “Media Error!” appears on this unit’s display.
- This unit cannot play back audio files if copyright protection is used.
- Do not connect computers to this unit’s USB ports. Audio from computers cannot be input through this unit’s USB ports.
- This unit might not be able to use media that is loaded into a USB card reader.
- Depending on the USB flash drive and its contents, reading data from it might take some time.
- Depending on the USB flash drive, the unit might not be able to read its data correctly or supply power properly.
- During the use of USB flash drives, please be aware that our company will take no responsibility should data be lost or changed, a USB flash drive become damaged or other harm occur.
- We recommend backing up data saved on a USB flash drive before using it with this unit.
- This unit does not support USB flash drives with security functions.

Names and functions of parts (main unit)



A Standby/on (⏻/I) button

Press this button to turn the unit on and put it in standby. When the unit is ON, the ring around the button lights blue.

- When this unit is in standby mode, it consumes standby power. For this reason, we use the term "standby" rather than "off".

B USB port

Connect a USB flash drive to the unit.

- Do not connect this unit's USB port to a computer or similar device. Audio from computers cannot be input through this USB port.

C Remote control signal receiver

This receives signals from the remote control. When using the remote control, point the remote control here.

D Disc slot

Insert a disc here. After a disc is inserted partway, the unit will automatically draw it in.

E Display

This shows a variety of information.

F Stop (■) button

Press during playback to stop playback. When the input source is FM, use to switch between frequency and preset modes.

G Skip (⏮/⏭) buttons

Use to skip to the previous or next track. During playback, press and hold to search backward/forward.

H Play/pause (▶/⏸) button

Press when stopped or paused to start playback. Use this button to pause playback during playback.

I SOURCE button

Use this button to select the input source.

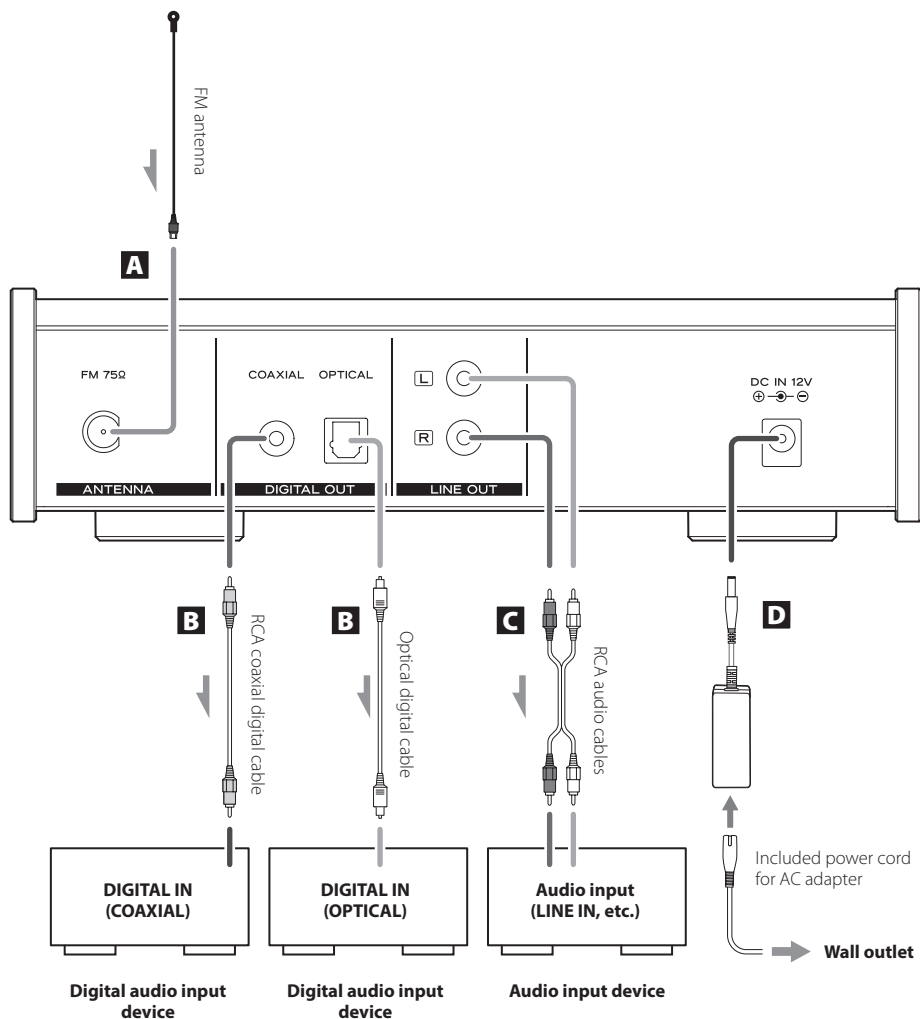
J Eject (⏏) button

Press to partially eject the disc. Hold the disc by its edges and pull it out.

Connections

⚠ After all connections are complete, connect the power cord's plug to the AC wall outlet.

- Read the instructions of each device that you intend to use with this unit.
- Do not bundle connecting cables with power cords. Doing so could cause noise.
- Be sure to connect each plug securely.



A FM antenna

When receiving an FM broadcast, extend this antenna and position it for the best reception. After moving this unit, readjust the position again.

B Digital audio output connectors

These output digital audio. Connect these to the audio input connectors of devices capable of receiving digital audio.

COAXIAL: RCA coaxial digital cable

OPTICAL: Optical digital cable (TOS)

C Analog audio output connectors

These output 2 channels of analog audio. Connect a stereo amplifier or powered speakers to them.

Use RCA audio cables for connections.

Connect the R connector of this unit to the right (R) connector (or equivalent) of the amplifier and the L connector of this unit to the left (L) connector (or equivalent) of the amplifier.

D DC power connector (DC IN 12V)

After all other connections have been completed, connect the included GPE015A-120125-D AC adapter to this connector and connect the AC adapter power cord to the adapter.

Then, connect the AC adapter power cord plug to an AC power outlet.

⚠ Do not use any power cord other than the one included with this unit. Use of other power cords could result in fire or electric shock. Unplug the cord from the outlet when not using the unit for a long time.

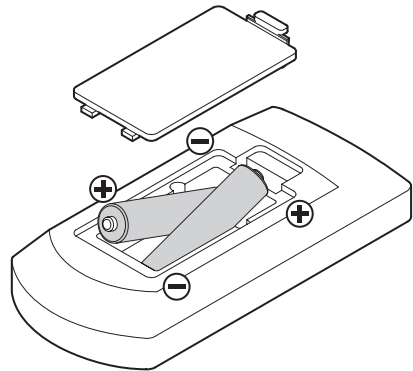
Precautions for use

⚠ Misuse of batteries could cause them to rupture or leak leading to fire, injury or the staining of items nearby. Please read and observe the precautions on page 31 carefully.

- When using the remote control, point it toward the remote control signal receiver on the main unit from a distance of 5 m (16 ft) or less. Do not place obstructions between the main unit and the remote control.
- The remote control might not work if the remote control signal receiver on the main unit is exposed to sunlight or bright lights. In this case, try moving the main unit.
- Beware that use of this remote control could cause the unintentional operation of other devices that can be controlled by infrared rays.

Installing batteries

Remove the cover on the back of the remote control, and insert 2 AAA batteries into the case, aligning them with the ⊕ and ⊖ indications. Replace the cover.

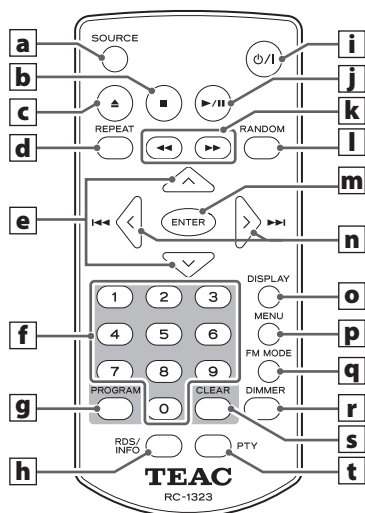


When to replace batteries

If the operation range of the remote control decreases, the batteries have become exhausted. In this case, replace the batteries with new ones.

Dispose of the used batteries according to the instructions on them or requirements set by your local municipality.

Names and functions of parts (remote control)



When both the main unit and the remote control have buttons with the same functions, the instructions in this manual refer only to one, but the other can be used in the same way.

a SOURCE button

Use this button to select the input source.

b Stop (■) button

Press during playback to stop playback.

c Eject (▲) button

Press to partially eject the disc. Hold the disc by its edges and pull it out.

d REPEAT button

Use for repeat playback.

e Scroll (▲/▼) buttons

When the input source is USB and folder mode is enabled, use to select folders.

When the input source is FM, use to change preset numbers.

f Number buttons

Use to select and program tracks, for example.

g PROGRAM button

When the input source is CD, use with program playback.

When the input source is FM, use with radio station presets.

h RDS/INFO button

When the input source is FM, use this button to select an RDS mode. Please ignore "INFO" on the remote control unit. (INFO function does not work on this unit.) This button does not work at all on the USA/Canadian model.

i Standby/on (⏻) button

Press this button to turn the unit on or put it in standby. When the unit is ON, the ring around the main unit standby/on button lights blue.

j **Play/pause (▶/II) button**

Press when stopped or paused to start or resume playback.

Press during playback to pause.

k **Search (◀◀/▶▶) buttons**

When the input source is CD/USB, press during playback to search backward/forward.

When the input source is FM, press to start automatic station selection.

l **RANDOM button**

Use for random playback.

m **ENTER button**

Use to confirm after entering a track number.

n **Skip (◀◀/▶▶) buttons**

Direction (</>) buttons

When the input source is CD/USB and file mode is enabled, use to skip to the previous or next track.

When the input source is USB and folder mode is enabled, use to select files.

If the input source is FM, use to decrease/increase the frequency received.

Press and hold for at least one second to begin automatically selecting stations.

o **DISPLAY button**

Press to change what is shown on the display.

p **MENU button**

Press to enter setting mode.

q **FM MODE button**

When receiving an FM broadcast, use to switch between stereo and mono.

r **DIMMER button**

Use to adjust the display brightness.

s **CLEAR button**

Use to clear programmed tracks.

t **PTY button**

Use to search for stations by program type (PTY).

This button does not work at all on the USA/Canadian model.

Selecting the input source

1 Press the standby/on (⏻/I) button to turn the unit on.

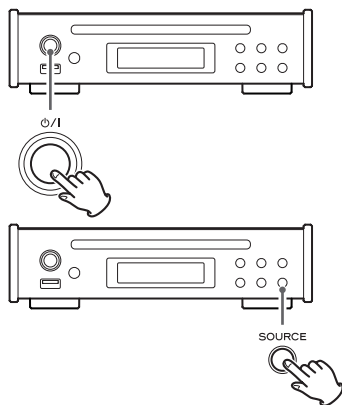
When the unit is ON, the ring around the button lights blue.

CAUTION

In order to prevent sudden loud noises, turn the amplifier ON last.

2 Press the SOURCE button to select the input source.

Press the SOURCE button repeatedly to cycle through the inputs as shown below.



Playing a CD

1 Hold the disc by its edges with the labeled side up and insert it partway.

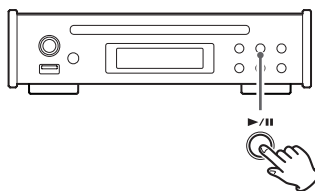
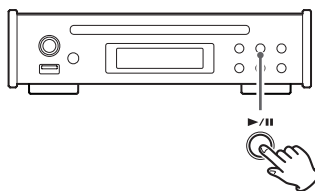
2 Push the disc in further until just before it disappears.

It will automatically be drawn in to the slot.

If a disc becomes caught or is otherwise difficult to insert, do not push it in forcefully. Press the EJECT (▲) button and remove the disc once before trying to reinsert it. (Pushing a disc forcefully could damage the unit.)

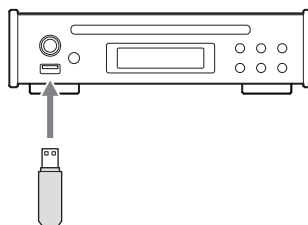
- The input source will change to CD (unless USB playback is active).

3 Press the play/pause (▶/II) button.



Playing files from a USB flash drive

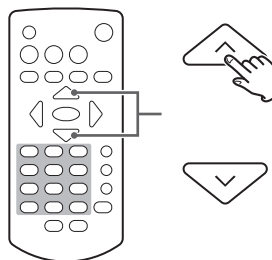
- 1** Connect a USB flash drive to the USB port.
- 2** Use the skip (|◀/▶|) buttons to select a track.
- 3** Press the play/pause (▶/||) button.



Selecting FM stations

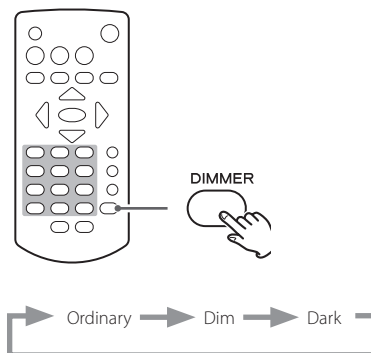
Use the remote control scroll (∧/∨) buttons to select preset stations.

If the current preset stations do not match the stations in your area, follow the instructions in "Setting presets automatically" on page 53.



Dimmer

Press the remote control DIMMER button to cycle through display brightness levels.



Display information

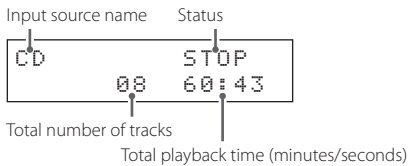
The name of the input source appears at the top left of the display.

Press the DISPLAY button to change the information shown on the display.

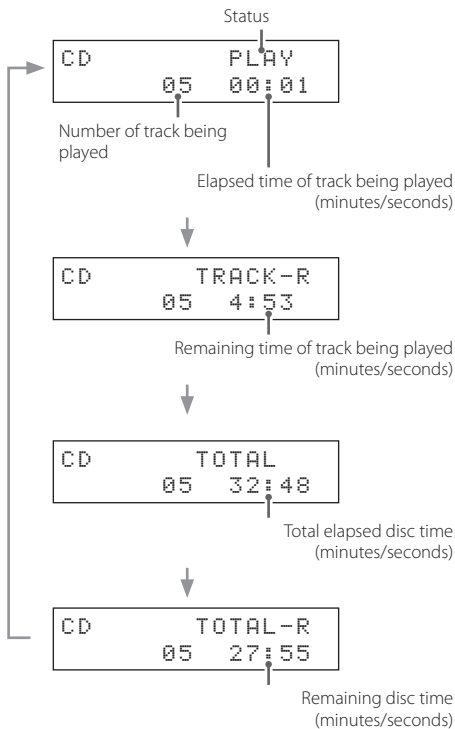
- The display contents shown below are examples.

Audio CD

Stopped



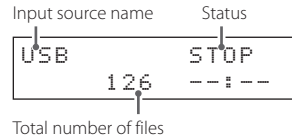
Playing back



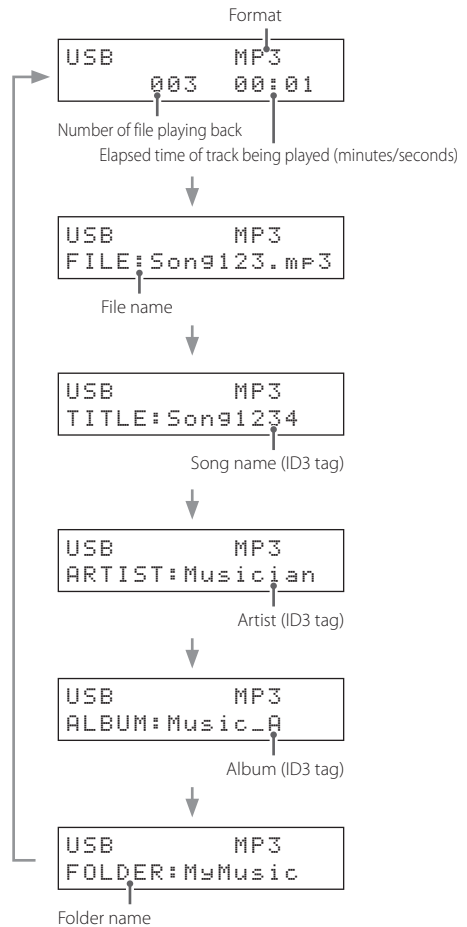
Disc/USB flash drive with audio files

The following examples are of use with a USB flash drive.

Stopped



Playing back



- A maximum of 62 characters, including the header, will scroll across the screen for the folder name, file name and ID3 tags (title, artist, album).

Listening to files on a CD or USB flash drive

The formats that can be played back from each kind of media are as follows.

CD: CD-DA (audio CD), MP3, WMA

USB: WAV, MP3, WMA, AAC

Starting playback

Press the play/pause (▶/||) button.

During playback, PLAY appears on the upper line of the display.

Pausing playback

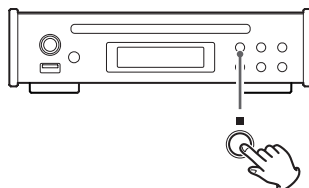
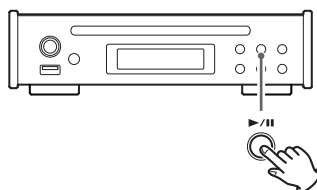
Press the play/pause (▶/||) button to pause playback.

To resume playback from the position where it was paused, press the play/pause (▶/||) button again.

When paused, PAUSE appears on the upper line of the display.

Stopping playback

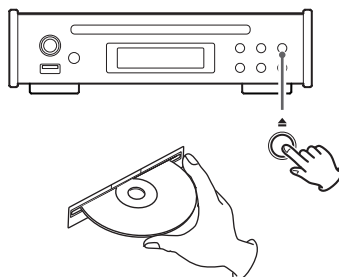
Press the stop (■) button to stop playback.



Ejecting a disc

When playback is stopped, press the eject (▲) button.

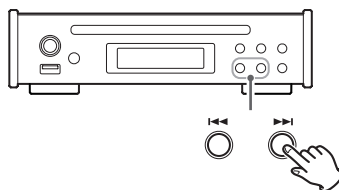
The disc will be partially ejected. Hold the disc by its edges and pull it out.



Skipping to search for a track

Press a skip (◀◀/▶▶) button to skip to the previous or next track.

- During playback, press the ◀◀ button once to return to the beginning of the current track. When you want to play an earlier track, press the ◀◀ button repeatedly until you reach that track.
- During program playback, tracks from earlier or later in the program will be played back.



Searching for part of a track

Press and hold a skip (◀◀/▶▶) button to search backward/forward. Release the button when you find the desired part.

Press a remote control search (◀◀/▶▶) button to search backward/forward. Release the button when you find the desired part.

Direct playback using track numbers (audio CD only)

In addition to using the skip (◀◀/▶▶) buttons to select tracks, you can input a track by number and start playback.

During playback or when stopped, you can use the remote control number buttons to select a track by number.

- During program or random playback, the number buttons cannot be used to select tracks.

Selecting and playing CD/USB tracks

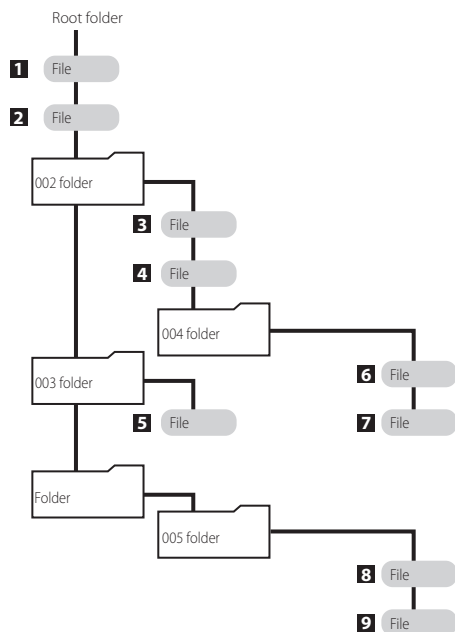
Select tracks on CDs in file mode.

Select tracks on USB flash drives in file or folder mode.

- See "USB Mode" on page 56 for how to set the mode. When the input source is USB, you can also press and hold the stop (■) button to change the mode.

File mode

You can select files in this mode with all folders treated equally regardless of folder level.



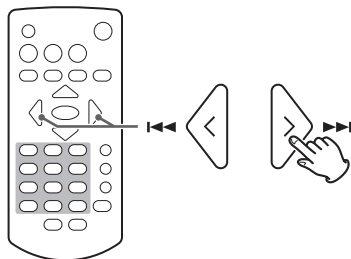
Example: entering track number 7



Example: entering track number 23



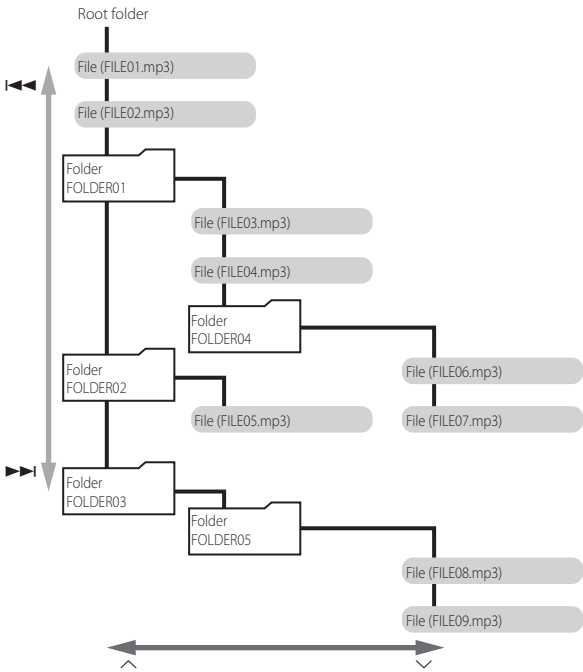
Selecting files



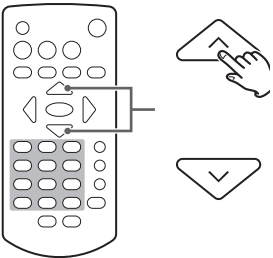
1 – 9 is the file playback order when a CD is loaded or a USB flash drive is connected.

Folder mode

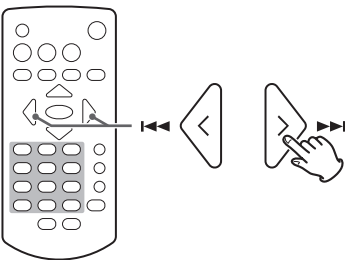
You can select files and folders using the folder hierarchy. In folder mode, the  folder icon appears at the bottom right of the display. The  folder icon also appears before the folder name.



Moving between folders



Selecting files in folders



Listening to files on a CD or USB flash drive (continued)

Folder mode operation examples

- These examples use the file/folder structure shown in the illustration on the previous page.

NOTE

When the input source is changed to USB, the file name will not be shown, but FILE01.mp3 will be selected.

Selecting files/folders on the same level

Press the skip (▶▶) button to select files and folders as shown in the illustrations below. Press the skip (◀◀) button to select them in reverse order.

- The display contents shown are examples.

```
USB      MP3
001  STOP  [Icon]
```

Number of file in selected folder

```
USB FILE02.mp3
001  STOP  [Icon]
```

```
USB 0FOLDER01
001  STOP  [Icon]
```

```
USB 0FOLDER02
001  STOP  [Icon]
```

```
USB 0FOLDER03
001  STOP  [Icon]
```

```
USB FILE01.mp3
001  STOP  [Icon]
```

[Icon] Icon is not blinking.

[Icon] Icon is blinking.

Changing the folder level

Select a folder and press the scroll (v) button or ENTER button to show the files/folders inside the current folder.

Press the scroll (^) button to move up one level and show the files/folders in that folder.

```
USB 0FOLDER01
001  STOP  [Icon]
```

```
USB FILE03.mp3
001  STOP  [Icon]
```

Starting playback

When a file is shown on the upper line, press the scroll (v) button or ENTER button to select that file and start playing it.

```
USB FILE04.mp3
001  STOP  [Icon]
```

```
USB      MP3
002  00:010
```

NOTE

- The folder icon blinks when a file/folder is selected.
- To cancel file/folder selection, press the CLEAR button.

Skip mode

In folder mode, press and hold the ENTER button for 5 seconds to enable skip mode. "S" appears at the right end of the upper line.

Example of display in skip mode

```
USB      S
001  STOP  [Icon]
```

In this mode, the skip (◀◀/▶▶) buttons do not select files. Instead, you can use them to skip, which enables playback without pressing the ENTER button.

Press and hold the ENTER button for 5 seconds again to return to ordinary folder mode. (The "S" disappears.)

NOTE

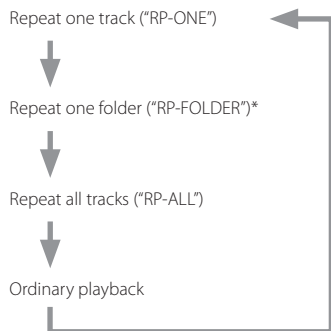
- The file number shown is the number of a file in the selected folder.

Repeat playback

Each time you press the REPEAT button, the repeat mode changes as shown in the illustration to the right.

- During program playback, repeat playback is not possible.
- This cannot be used at the same time as random playback.
- When "Folder" (folder mode) is enabled, both "RP-FOLDER" (repeat one folder) and "RP-ALL" (repeat all files) will function in the same way, only repeating the files in the folder.

To repeat playback of all files on the USB flash drive, change the operation mode to "File" (file mode) and then set the repeat mode to "RP-ALL" (repeat all files) before playback.



*"RP-FOLDER" only appears when in USB folder mode.

Random playback

Press the RANDOM button to turn random playback on/off.

When ON, the tracks on the disc will play back in random order.

Playback will not stop until you press the stop (■) button.

- This cannot be used at the same time as repeat playback.

Program playback

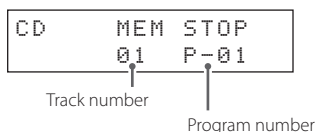
Program playback is only possible with audio CDs.

Using program playback

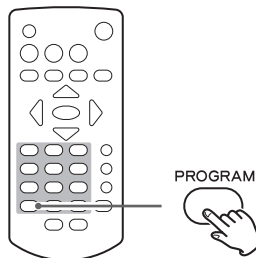
1 Press the PROGRAM button.

MEM and the track number blink.

Display example



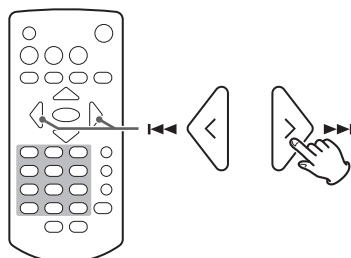
- Press when stopped.



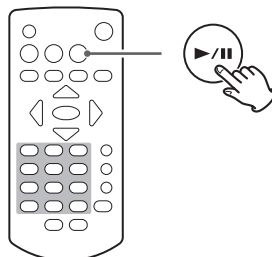
2 Use the skip (◀◀/▶▶) or number buttons to select a track and press the PROGRAM button to add it to the program.

Add all the tracks that you want to the program.

- If no action is taken for 20 seconds, the program will be canceled.



3 Press the play/pause (▶/||) button to start program playback.

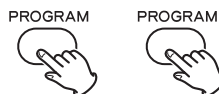


Listening to files on a CD or USB flash drive (continued)

Checking and changing the program

1 Press the PROGRAM button twice.

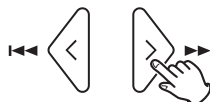
MEM and the program number blink.



2 Use the skip (◀◀/▶▶) buttons to change the program number and check track numbers.

Changing the program

1. Show the track that you want to change.
2. Press the PROGRAM button.
3. Select a track and press the PROGRAM button to add it to the program in place of the original track.



Removing a track from the program

1. Show the track that you want to remove.
2. Press the CLEAR button.

3 Press the play/pause (▶/||) button to start program playback.



Adding tracks to the program

1 Press the PROGRAM button.

MEM and the program number blink.

2 Select a track and press the PROGRAM button to add it to the program.

Repeat to add more tracks as desired.

3 Press the play/pause (▶/||) button to start program playback.

Removing all tracks from the program

1 When stopped, press and hold the **CLEAR** button.

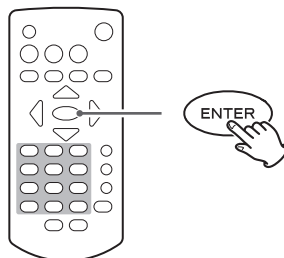
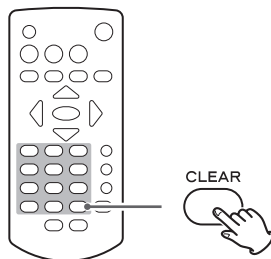
2 When “Program clear?” appears, press the **ENTER** button to remove all tracks from the program.

CD	STOP
Program Clear?	

To cancel the operation, press the stop (■) or CLEAR button.

Any of the following operations will also clear all the tracks from the program.

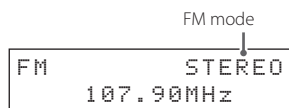
- Ejecting the disc
- Pressing the unit's standby/on (⏻/I) button to put it in standby mode



FM mode

Press the FM MODE button to switch between stereo and mono reception.

Display example



Stereo

Receive stereo FM broadcasts in stereo.

- If reception is poor, switch to Mono.

Mono

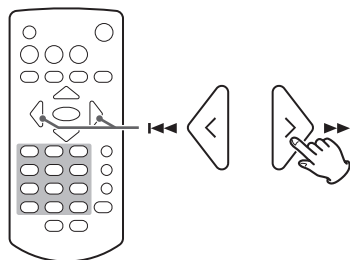
Receive FM broadcasts in mono. When the reception of an FM stereo broadcast is poor, select this mode. The sound becomes mono, but noise is also reduced, making it sound better.

Changing the received frequency

When a preset number is shown, press the stop (■) button to enable frequency selection mode.

Increasing the received frequency

Press the direction (>) button to increase the received frequency one step. Press the search (▶▶) button to automatically search toward higher frequencies.



Decreasing the received frequency

Press the direction (<) button to decrease the received frequency one step. Press the search (◀◀) button to automatically search toward lower frequencies.

Changing the frequency from the main unit

Press the stop (■) button and use the skip (◀◀/▶▶) buttons in frequency selection mode (preset number not shown).

When a preset number appears, use the skip (◀◀/▶▶) buttons to change the preset number.

Broadcast station presets

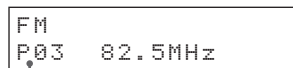
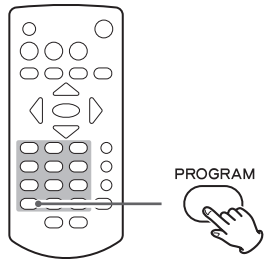
This unit can have up to 20 FM station presets.

Setting presets automatically

Press and hold the remote control PROGRAM button.
The unit will automatically search for radio stations and set them in order, starting with preset 01 (P01). The unit will stop automatically adding presets when 20 have been added or the reception frequency range has been searched completely.

Setting presets manually

- 1** Tune in the station that you want to add as a preset.
- 2** Press the PROGRAM button.
- 3** Use the direction (</>) buttons to select the number to preset and press the ENTER button.



Preset number

RDS (European model only)

The Radio Data System (RDS) is a broadcasting service that allows stations to send additional information along with the regular radio program signal.

- **RDS works on the FM frequency band in Europe only.**

1 Tune in to an FM RDS station (see page 52).

2 Press the remote control RDS button.

Pressing the RDS button cycles through RDS modes as follows:

Program service (PS)

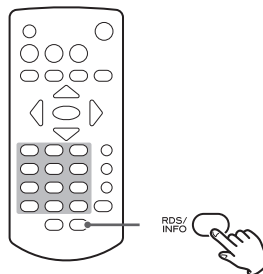
When you select Program service, "PS" will appear to the right of "FM" and then the program service name or station's name will be displayed. If there is no program service data, the frequency will be displayed.

RDS Program type (PTY)

When you select RDS Program type, "PTY" will appear to the right of "FM" and then the program type will be displayed.

RDS Radio text (RT)

When you select RDS Radio text, "RT" will appear to the right of "FM" and then information from the station consisting of up to 64 characters will be displayed.



PTY search

You can search for stations by program type. This function is available only through the RDS services of FM frequency stations in Europe.

1 Press the PTY button.

"PTY SEARCH" appears on the display.

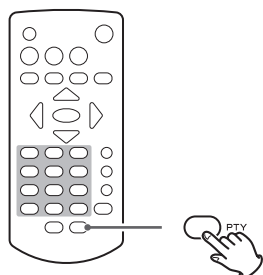
2 Use the direction (</>) buttons to select the desired program.

You can select from 31 program types (PTY).

3 Press the ENTER button.

The unit starts searching.

- When the program type that you have selected is found, searching stops and the program type will be displayed.
- If a matching program type is not found during PTY Search, it will stop at the frequency set before searching started.
- If you want to stop searching, press the PTY button.



FM	PTY SEARCH
< NEWS >	

NEWS:

Brief announcements, events, public opinion, reports and real situations.

AFFAIRS:

Suggestions, including practical announcements other than news, documents, discussion and analysis.

INFO:

Useful and reference information, such as weather forecasts, consumer guides and medical advice.

SPORT:

Sports-related programs.

EDUCATE:

Educational and cultural information.

DRAMA:

All kinds of radio concerts and serial dramas.

CULTURE:

All aspects of national or local culture, including religious events, philosophy, social science, language and theatre.

SCIENCE:

Programs on natural science and technology.

VARIED:

Popular programs such as quizzes, entertainment news, interviews, comedy and satire.

POP M:

Programs of commercial and popular songs, including music sales volumes, etc.

ROCK M:

Modern music generally composed and played by young musicians.

EASY M:

Popular music usually lasting for less than 5 minutes.

LIGHT M:

Classical music, instrumental music, chorus, and light music favored by general audiences.

CLASSICS:

Orchestral music including great operas and symphonies, chamber music and so on.

OTHER M:

Other music styles, including rhythm & blues and reggae.

WEATHER:

Weather reports and forecasts.

FINANCE:

Financial reports, commerce and trading.

CHILDREN:

Children's programs.

SOCIAL:

Social affairs.

RELIGION:

Religious programs.

PHONE IN:

Programs in which the public expresses its views by phone.

TRAVEL:

Travel reports.

LEISURE:

Programs concerning recreational activities.

JAZZ:

Jazz music.

COUNTRY:

Country music.

NATION M:

National music.

OLDIES:

Music from the so-called golden age of popular music.

FOLK M:

Folk music.

DOCUMENT:

Documentaries.

TEST:

Broadcast when testing emergency broadcast equipment or receivers. Not intended for searching or dynamic switching for consumer receivers.

ALARM!:

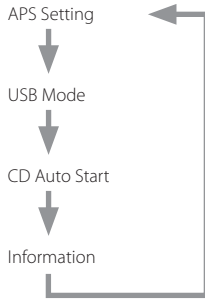
A program with notifications about emergencies and natural disasters.

Settings

1 Press the **MENU** button.

2 Use the direction (</>) buttons to select the item that you want to set and press the **ENTER** button.

Press the ►► button to cycle through the following items.



Press the ◀◀ button to cycle through these items in reverse order.

3 Use the direction (</>) buttons to change the setting, and press the **ENTER** button to confirm the change.

The previous screen will reappear after confirming.

- Press the **MENU** button instead to cancel the setting change.

Display example

```
Menu
< APS Setting >
```

Display example

```
APS Setting
< APS ON >
```

Setting the automatic power saving function (APS Setting)

- When shipped new from the factory, the automatic power saving function is set to OFF in models for the US and Canada and ON in models for Europe.

ON

When the input source is CD/USB, the unit will enter standby if playback is stopped or paused for 30 minutes.

OFF

The unit will not enter standby automatically.

The automatic power saving function setting appears when the unit is turned on.

Display example

```
TEAC PD-301
APS ON
```

USB Mode

- This is set to File (file mode) when shipped new from the factory.

File (file mode)

Select files with all folders treated equally regardless of folder level.

Folder (folder mode)

Select files and folders using the folder hierarchy.

Display example

```
USB Mode
< FILE >
```

CD Auto Start

- This is set to Stop (OFF) when shipped new from the factory.

Stop(OFF)

When a CD is inserted, it will not start automatically playing back.

Playback(ON)

When a CD is inserted and the source is set to CD, playback will start automatically.

Display example

```
CD Auto Start
< Stop(OFF) >
```

Information

This shows the current firmware version.

Display example

```
Information
Ver 1.00
```

Troubleshooting

General

The unit does not turn on.

(The standby/on (⏻/I) button LED does not light.)

- ➔ Check that the power cord is completely plugged into the power outlet. If the outlet is switched, confirm that the switch is in the ON position.
- ➔ Connect a different electrical device to the outlet to confirm that it is supplying power.

Remote control does not work.

- ➔ Point the remote control at the front panel of the unit from a distance of less than about 5 m (16 ft).
- ➔ The remote control will not work if there is an obstruction between it and the main unit. In this case, try changing the position.
- ➔ If the batteries are exhausted, replace both of them with new ones.

A television set or another device operates in error.

- ➔ Some televisions that are able to receive signals from wireless remote controls might be operated in error by this unit's remote control. If this should occur, use the main unit's buttons.

No or very little sound is output.

- ➔ Confirm connections with the amplifier.
- ➔ Confirm connections with the speakers and other devices.

There is noise.

- ➔ Place the unit as far away as possible from TVs, microwave ovens and other devices that have strong magnetism.

Radio

A station cannot be received. The reception is poor.

- ➔ Select a broadcast station.
- ➔ If reception is poor, try repositioning the antenna.
- ➔ If a TV is near the unit, turn the TV off.
- ➔ Keep USB flash drives disconnected from the unit when receiving radio signals. A connected USB flash drive could cause noise or other issues.

Stereo broadcasts become mono.

- ➔ Press the remote control FM MODE button to select stereo.

CD Player

Playback is not possible.

- ➔ If the disc is upside down, reload it with the labeled side up.
- ➔ If the disc is dirty, wipe it clean.
- ➔ Depending on the quality and recording conditions of the disc, some CD-R/CD-RW discs cannot be played back.

- ➔ CD-R/CD-RW discs that have not been finalized cannot be played back.

The sound skips.

- ➔ Vibrations can cause the sound to skip. Install this unit in a stable location.
- ➔ If the disc is dirty, wipe it clean.
- ➔ Do not use discs that are scratched or cracked.

MP3, WMA, AAC and WAV files

Playback is not possible.

- ➔ Check the file extension. Files are recognized by their extensions: ".mp3" for MP3 files, ".wma" for WMA files, ".m4a" for AAC files and ".wav" for WAV files.
- ➔ The MP3/WMA/AAC/WAV file might be damaged.
- ➔ Check the file format. This unit can play MP3, WMA, AAC and WAV files. However, it cannot play WAV and AAC files from a CD (page 59).

"NO USB" appears and the USB flash drive is not recognized.

- ➔ Try formatting the USB flash drive with a computer. This should rewrite the FAT data, making it possible for this unit to recognize it. (WARNING: formatting will erase all files on the USB flash drive.)

The names of tracks, artists and albums are not shown.

- ➔ There is no ID3 tag information for the music file. Use a computer, for example, to prepare MP3/WMA/AAC files with corrected ID3 tag information. ID3 tags cannot be used with WAV files.

Some characters are not shown correctly.

- ➔ If the file information uses Japanese, Chinese or other double-byte characters, playback is possible but the name will not be shown correctly.

"No Music file" appears on the display

- ➔ The disc or USB flash drive does not contain any playable audio files. Load a disc or USB flash drive that contains playable audio files.

Since this unit uses a microcontroller, external noise and other interference can cause the unit to malfunction. If this occurs, unplug the power cord, wait for a while, and then turn the power back on to restart operations.

Specifications

CD Player

Playback media	CD-DA, CD-ROM/R/RW*
	Only 12cm discs can be used
Format	ISO9660 LEVEL 1/2/JOLIET
Maximum number of files	300 (including folders)
Maximum number of folders	50
*Only CD-RW discs in CD-DA format supported	

USB

Supported USB devices	USB mass storage device class
Interface compatibility	USB 2.0 (Full speed) USB 1.1 (High speed) USB3.0
File systems	FAT16, FAT32
Maximum number of files	300 (including folders)
Maximum number of folders	50
USB output voltage	DC 5 V
USB power supply current	500 mA maximum

Playable audio formats

WAV (USB only)	
Extension	“.wav”, “.WAV”
Quantization bit depth	16-bit
Sampling frequency	44.1 kHz, 48 kHz
MP3	
Extension	“.mp3”, “.MP3”
Bit rate	32 kbps – 320 kbps or VBR
Sampling frequency	16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
Supported standards	MPEG-1/2 Audio Layer-3
WMA	
Extension	“.wma”, “.WMA”
Bit rate	32 kbps – 320 kbps or VBR
Sampling frequency	8 kHz, 11.025 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
Supported standard	WMA ver.9 (DRM not supported)
AAC (USB only)	
Extension	“.m4a”, “.M4A”
Bit rate	8 kbps – 320 kbps or VBR
Sampling frequency	8 kHz, 16 kHz, 32 kHz, 11.025 kHz, 22.05 kHz, 44.1 kHz, 12 kHz, 24 kHz, 48 kHz
Supported standard	MPEG4 AAC-LC (Audio Stream)

Tuner

Frequency range	FM
	87.5 MHz to 108.0 MHz

Analog audio output

Connector	RCA connectors (2 channels) × 1
Output impedance	470 Ω or less
Maximum output level (1 kHz/full-scale, into 10 kΩ)	2.0 Vrms
Frequency response	20 Hz – 20 kHz (–3 dB)
S/N ratio	113 dB
Distortion	0.005% (1 kHz)

Digital audio output

COAXIAL digital connector × 1	
Output impedance	75 Ω
Output level	0.5 Vp-p
OPTICAL digital connector × 1	
	TOS (JEITA RC-5720C)
Sampling frequency	44.1 kHz
Quantization bit depth	16-bit

General

Power supply	
Model for Europe	AC 220–240 V (50 Hz, 60 Hz)
Model for USA/Canada	AC 120 V (50 Hz, 60 Hz)
Power consumption	8 W
External dimensions	
	215 × 61 × 232 mm (8 1/2" × 2 1/2" × 9 1/4") (W × H × D, including protrusions)
Weight	2.1 kg (4 3/4 lb)
Operating temperature	+5°C to +35°C
Operating humidity	5% to 85% (no condensation)
Storage temperature	–20°C to +55°C

Included accessories

AC adapter (GPE015A-120125-D)	× 1
Power cord for AC adapter	× 1
RCA audio cable	× 1
Remote control (RC-1323)	× 1
FM antenna	× 1
Owner's manual (this document)	× 1

- Specifications and appearance are subject to change without notice.
- Weight and dimensions are approximate.
- Illustrations in this manual might differ slightly from production models.

INSTRUCTIONS DE SÉCURITÉ IMPORTANTES

ATTENTION

- NE RETIREZ PAS LES CAPOTS EXTERNES OU BOÎTIERS POUR EXPOSER L'ÉLECTRONIQUE. AUCUNE PIÈCE INTERNE N'EST RÉPARABLE PAR L'UTILISATEUR.
 - SI VOUS RENCONTREZ DES PROBLÈMES AVEC CE PRODUIT, CONTACTEZ LE MAGASIN OÙ VOUS AVEZ ACHETÉ L'UNITÉ. N'UTILISEZ PAS LE PRODUIT TANT QU'IL N'A PAS ÉTÉ RÉPARÉ.
 - L'UTILISATION DE COMMANDES, DE RÉGLAGES OU LE SUIVI DE PROCÉDURES AUTRES QUE CE QUI EST DÉCRIT DANS CE DOCUMENT PEUT PROVOQUER UNE EXPOSITION À UN RAYONNEMENT DANGEREUX.
- 1) Lisez ces instructions.
 - 2) Conservez ces instructions.
 - 3) Tenez compte de tous les avertissements.
 - 4) Suivez toutes les instructions.
- (e) N'utilisez pas cet appareil avec de l'eau à proximité.
 - (f) Ne nettoyez l'appareil qu'avec un chiffon sec.
 - (g) Ne bloquez aucune ouverture de ventilation. Installez-le conformément aux instructions du fabricant.
 - (h) N'installez pas l'appareil près de sources de chaleur telles que des radiateurs, bouches de chauffage, poêles ou autres appareils (y compris des amplificateurs) dégageant de la chaleur.
 - (i) Ne neutralisez pas la fonction de sécurité de la fiche polarisée ou de terre. Une fiche polarisée a deux broches, l'une plus large que l'autre. Une fiche de terre a deux broches identiques et une troisième broche pour la mise à la terre. La broche plus large ou la troisième broche servent à votre sécurité. Si la fiche fournie n'entre pas dans votre prise, consultez un électricien pour le remplacement de la prise obsolète.
 - (j) Évitez de marcher sur le cordon d'alimentation et de le pincer, en particulier au niveau des fiches, des prises secteur, et du point de sortie de l'appareil.
 - (k) N'utilisez que des fixations/accessoires spécifiés par le fabricant.
 - (l) Utilisez-le uniquement avec des chariots, socles, trépieds, supports ou tables spécifiés par le fabricant ou vendus avec l'appareil. Si un chariot est utilisé, faites attention à ne pas être blessé par un renversement lors du déplacement de l'ensemble chariot/appareil.
 - (m) Débranchez cet appareil en cas d'orage ou de non utilisation prolongée.
 - (n) Confiez toute réparation à des techniciens de maintenance qualifiés. Une réparation est nécessaire si l'appareil a été endommagé d'une quelconque façon, par exemple si le cordon ou la fiche d'alimentation est endommagé, si du liquide a été renversé sur l'appareil ou si des objets sont tombés dedans, si l'appareil a été exposé à la pluie ou à l'humidité, s'il ne fonctionne pas normalement, ou s'il est tombé.
- L'appareil tire un courant nominal de veille de la prise secteur quand son interrupteur POWER ou STANDBY/ON n'est pas en position ON.
 - La fiche secteur est utilisée comme dispositif de déconnexion et doit donc toujours rester disponible.
 - Des précautions doivent être prises en cas d'utilisation d'écouteurs ou d'un casque avec le produit car une pression sonore excessive (volume trop fort) dans les écouteurs ou dans le casque peut causer une perte auditive.



This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

Les autres noms de société, noms de produit et logos présents dans ce document sont des marques commerciales ou déposées de leurs détenteurs respectifs.

ATTENTION

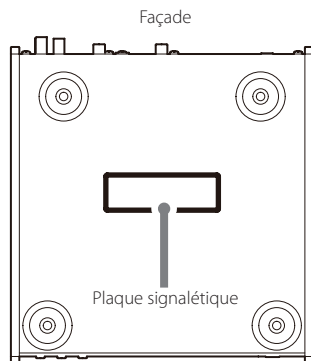
- N'exposez pas cet appareil aux gouttes ni aux éclaboussures.
- Ne placez pas d'objet rempli de liquide sur l'appareil, comme par exemple un vase.
- N'installez pas cet appareil dans un espace confiné comme une bibliothèque ou un meuble similaire.
- L'appareil doit être placé suffisamment près de la prise de courant pour que vous puissiez à tout moment attraper facilement la fiche du cordon d'alimentation.
- Si le produit utilise des piles/batteries (y compris un pack de batteries ou des piles installées), elles ne doivent pas être exposées au soleil, au feu ou à une chaleur excessive.
- **PRÉCAUTION** pour les produits qui utilisent des batteries remplaçables au lithium : remplacer une batterie par un modèle incorrect entraîne un risque d'explosion. Remplacez-les uniquement par un type identique ou équivalent.

⚠ Précautions concernant les piles

Un mauvais emploi des piles peut entraîner leur rupture ou leur fuite, avec pour conséquence un incendie, des blessures ou la salissure des objets proches. Veuillez lire et suivre attentivement les précautions suivantes.

- Veillez à insérer les piles avec leurs pôles positif (+) et négatif (-) correctement orientés.
- Utilisez des piles du même type. N'utilisez jamais des types de pile différents ensemble.
- Si la télécommande doit rester inutilisée durant une période prolongée (plus d'un mois), retirez ses piles pour éviter qu'elles ne coulent.
- Si les piles coulent, essuyez le liquide dans le compartiment des piles et remplacez les piles par des neuves.
- N'utilisez pas de piles d'un type autre que celui spécifié. Ne mélangez pas des piles neuves avec des anciennes et n'utilisez pas ensemble des types de pile différents.
- Ne chauffez pas et ne démontez pas les piles. Ne jetez jamais les piles dans un feu ou dans de l'eau.
- Ne conservez et ne transportez pas les piles avec d'autres objets métalliques. Les piles pourraient entrer en court-circuit, couler ou exploser.
- Ne rechargez jamais une batterie sans avoir vérifié qu'elle peut l'être.
- N'exposez pas les piles à une pression d'air extrêmement basse car cela pourrait entraîner une explosion ou une fuite de liquides ou de gaz inflammables.

La plaque signalétique se trouve sous l'unité comme représenté ci-dessous.



INSTRUCTIONS DE SÉCURITÉ IMPORTANTES (suite)

Informations sur le laser

Ce produit laser est un produit laser grand public selon la norme EN 50689:2021 et est conforme à toutes les exigences relatives aux produits laser grand public, hors produits attrayants pour les enfants.

Ce produit contient un système laser et est répertorié comme PRODUIT LASER DE CLASSE 1 selon la norme IEC 60825-1:2014. Cette classe ne nécessite pas d'attention particulière dans le cadre d'une utilisation normale. Ne démontez rien pour éviter d'être exposé au faisceau laser.

Laser :

Type : EP-C250L

Fabricant : GUANGDONG EVER BRIGHT GROUP CO.,LTD

Puissance laser : moins de 0,30 mW sur la lentille de l'objectif

Longueur d'onde : 792 +8 nm / -12 nm

Modèle pour le Canada

CET APPAREIL NUMÉRIQUE DE LA CLASSE B EST CONFORME À LA NORME NMB-003 DU CANADA

Pour les consommateurs européens

Mise au rebut des équipements électriques et électroniques et des piles et/ou accumulateurs

- (a) Tout équipement électrique/électronique et pile/accumulateur hors d'usage doit être traité séparément de la collecte municipale d'ordures ménagères dans des points de collecte désignés par le gouvernement ou les autorités locales.
- (b) En vous débarrassant correctement des équipements électriques/électroniques et piles/accumulateurs hors d'usage, vous contribuerez à la sauvegarde de précieuses ressources et à la prévention de potentiels effets négatifs sur la santé humaine et l'environnement.
- (c) Le traitement incorrect des équipements électriques/électroniques et piles/accumulateurs hors d'usage peut avoir des effets graves sur l'environnement et la santé humaine en raison de la présence de substances dangereuses dans les équipements.
- (d) Le symbole de déchets d'équipements électriques et électroniques (DEEE), qui représente une poubelle à roulettes barrée d'une croix, indique que les équipements électriques/électroniques et piles/accumulateurs doivent être collectés et traités séparément des déchets ménagers.
- Si une pile ou un accumulateur contient plus que les valeurs de plomb (Pb) et/ou de cadmium (Cd) spécifiées dans la directive 2023/1542 (UE) sur les piles et accumulateurs, alors les symboles chimiques de ces éléments seront indiqués sous le symbole DEEE.
- (e) Des systèmes de retour et de collecte sont disponibles pour l'utilisateur final. Pour des informations plus détaillées sur la mise au rebut des vieux équipements électriques/électroniques et piles/accumulateurs hors d'usage, veuillez contacter votre mairie, le service d'ordures ménagères ou le magasin dans lequel vous avez acquis l'équipement.



Pb, Cd

Modèle pour l'EEE (Espace Économique Européen)



Par la présente, TEAC Corporation déclare que cet équipement radio est en conformité avec la directive 2014/53/UE ainsi qu'avec les autres directives et règlements de la Commission.

Le texte intégral de la déclaration de conformité pour l'UE est disponible à l'adresse internet suivante : veuillez nous contacter par e-mail.

<https://teacsupport.aqipa.com/>

Table des matières

Nous vous remercions d'avoir choisi TEAC.

Lisez ce mode d'emploi avec attention pour tirer les meilleures performances de cette unité. Après l'avoir lu, gardez-le en lieu sûr pour vous y référer ultérieurement.

INSTRUCTIONS DE SÉCURITÉ IMPORTANTES.....	60
Accessoires fournis	64
Avant l'utilisation	64
Utilisation du site international TEAC.....	64
Notes sur les disques	65
Notes concernant les clés USB	66
Nomenclature et fonctions des parties (unité principale) ..	67
Branchements.....	68
Emploi de la télécommande.....	69
Nomenclature et fonctions des parties (télécommande) ..	70
Fonctionnement de base.....	72
Informations affichées	74
Écoute de fichiers d'un CD ou d'une clé USB	75
Écoute de la radio FM.....	82
RDS (modèle européen uniquement)	84
Réglages	86
Guide de dépannage.....	88
Caractéristiques techniques.....	89

- En cas de dysfonctionnement du Produit causé par les bandes ou autres supports (ci-après « Supports ») que vous avez utilisés, la réparation induite n'est pas couverte par la garantie du Produit et doit être effectuée à vos propres frais.
- Il est fortement recommandé d'éviter d'utiliser des Supports n'ayant pas été utilisés depuis des années ou ayant fait au contraire l'objet d'une longue période d'utilisation, ainsi que des Supports présentant des moisissures, des taches, des adhérences, des plis ou des torsions.
- TEAC ne pourra en aucun cas être tenu pour responsable des dommages dus au Support, notamment, mais sans s'y limiter, de la corruption ou de la casse du Produit ou du Support, des bandes coincées dans le Produit, et/ou de la perte totale ou partielle de données découlant de l'utilisation du Support ou qui y est liée. Il en va de même pour les dommages tels que le manque à gagner, les dommages indirects ou consécutifs et/ou les dommages spéciaux.

Il est fortement recommandé de prendre les mesures appropriées pour se préparer à la perte intempestive de données, conformément à la loi sur les droits d'auteur de votre pays ou région.

Accessoires fournis

Vérifiez que vous disposez bien de tous les accessoires indiqués ci-dessous.

Veuillez contacter le magasin dans lequel vous avez acheté cette unité si l'un de ces accessoires manque ou a été endommagé durant le transport.

Adaptateur secteur (GPE015A-120125-D) × 1

Cordon d'alimentation pour adaptateur secteur × 1

Câble audio RCA × 1

Télécommande (RC-1323) × 1

Antenne FM × 1

Mode d'emploi (ce document) × 1

- Voir page 121 pour des informations sur la garantie.

Avant l'utilisation

Précautions concernant l'emplacement

- Évitez de placer l'unité dans des environnements soumis à de hautes températures comme en exposition directe aux rayons solaires ou près d'une source de chaleur. Ne la placez pas non plus sur un amplificateur ou tout autre dispositif dégageant de la chaleur. Cela pourrait causer une décoloration, une déformation ou un mauvais fonctionnement.

Entretien

Essayez les saletés du capot supérieur et des autres surfaces au moyen d'un chiffon doux légèrement humidifié avec un nettoyant neutre dilué.

N'utilisez pas de lingettes de nettoyage imbibées de produits chimiques, de diluant ou de substances similaires car cela pourrait endommager la surface de l'unité.

Par sécurité, débranchez le cordon d'alimentation de la prise secteur avant tout nettoyage.

Utilisation du site international TEAC

Vous pouvez télécharger des mises à jour pour cette unité depuis le site international TEAC :

<https://teac.jp/int/>

Cliquez sur LANGUAGE en haut à droite de la page et sélectionnez la langue désirée pour accéder à une page dans cette langue.

Types de disque lisibles par cette unité

Les CD (12 cm) qui portent le logo Compact Disc Digital Audio.



- Ce logo apparaît sur le disque et sur son emballage.

- Cette unité ne peut pas lire les CD de 8 cm.

Les CD-R et CD-RW correctement enregistrés et finalisés au format CD audio.

Les CD-R sur lesquels ont été gravés des fichiers MP3 ou WMA et qui ont été finalisés.

- Les disques à multiples sessions ne sont pas pris en charge.

Cette unité ne peut pas lire de disques d'un type autre que ceux ci-dessus.

⚠ Si vous essayez de lire tout autre type de disque avec cette unité, des bruits forts risquant d'endommager les haut-parleurs et d'altérer votre audition peuvent être produits. N'essayez jamais de lire un type de disque autre que ceux indiqués ci-dessus.

- Fichiers WMA
Les formats Windows Media Audio professionnel (WMA Pro) et Windows Media Audio Lossless (WMA Lossless) ne sont pas pris en charge.
- Selon la qualité du disque et les conditions de l'enregistrement, la lecture peut ne pas être possible.
- Cette unité ne peut pas lire les types de disque suivants.
CD vidéo
Super Audio CD
DVD vidéo
DVD audio
DVD-ROM

⚠ Si vous chargez un DVD vidéo, DVD audio, DVD-ROM ou disque similaire dans cette unité, l'unité essaiera de le lire et tournera à haute vitesse. Si vous chargez par erreur un tel disque, le disque peut être endommagé, aussi n'essayez pas de le retirer avant qu'il ait cessé de tourner.

- Cette unité peut être dans l'incapacité de correctement lire des CD à dispositif anti-copie, des disques doubles (DualDisc) ou d'autres CD spéciaux qui ne se conforment

pas à la norme CD Red Book. Le fonctionnement et la qualité sonore ne peuvent pas être garantis si des disques spéciaux sont utilisés dans cette unité. Si la lecture d'un disque spécial cause des problèmes, contactez le vendeur du disque.

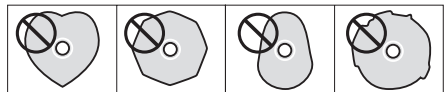
CD-R/CD-RW

Cette unité peut lire des CD-R/CD-RW enregistrés au format CD audio (CD-DA) et des CD-R contenant des fichiers au format MP3 ou WMA.

- Pour lire un disque créé par un enregistreur de CD, vérifiez bien à le finaliser.
- Selon la qualité du disque et les conditions de l'enregistrement, la lecture peut ne pas être possible. Pour des détails, voir le mode d'emploi de l'appareil que vous utilisez.
- Si vous avez des questions quant à la gestion d'un CD-R ou CD-RW, contactez directement son vendeur.

Précautions d'emploi

- N'utilisez pas de disques fendus car ils pourraient endommager l'unité.
- Ne posez pas d'étiquette ou d'autres matériaux sur les disques. N'utilisez pas de disques desquels ont été retirés de l'adhésif, des auto-collants ou matériaux similaires car leur surface peut conserver des résidus collants. Les disques dont par exemple les auto-collants laissent échapper de la colle sur leurs bords sont aussi à éviter. L'emploi d'un tel disque dans l'unité peut entraîner le blocage du disque ou des dommages pour l'unité.
- Pour écrire sur le côté inscriptible du disque, employez un marqueur permanent à pointe feutre. L'emploi d'un stylo à bille ou autre à pointe dure peut endommager le disque, le rendant illisible.
- N'utilisez jamais de stabilisateurs de CD du commerce. Cela pourrait rendre le disque illisible ou endommager l'unité.
- N'employez jamais de disques ayant une forme irrégulière, dont des disques en forme de cœur ou octogonaux, car ils peuvent endommager l'unité.



- Pour sortir un disque de son boîtier, tout en pressant sur le centre du boîtier, saisissez le disque par sa tranche. Ne touchez pas la face du disque où sont encodées les données (côté sans inscription).

Si un disque ne se charge pas correctement

Si un disque est coincé ou difficile à insérer, ne forcez pas sur le disque. Pressez la touche EJECT (▲) et retirez le disque avant d'essayer de le réinsérer (forcer sur un disque peut endommager l'unité).

Rangement des disques

- Les disques doivent être rangés dans leurs boîtiers quand ils ne sont pas utilisés. Ne pas le faire peut entraîner des déformations et des rayures.
- Ne laissez pas les disques dans des lieux exposés directement à la lumière du soleil ou qui sont très humides ou très chauds. Cela risquerait de provoquer une déformation ou une dégradation des disques, les rendant inutilisables.
- Les CD-R et CD-RW sont plus sensibles aux effets de la chaleur et des rayons ultraviolets que les CD ordinaires. Pour cette raison, ne les laissez pas de façon prolongée dans des endroits exposés directement à la lumière du soleil ou par exemple près d'appareils dégageant de la chaleur.
- Nettoyez toujours les disques avant de les ranger. Ne pas nettoyer un disque sale risque d'entraîner des sauts de lecture ou une dégradation de la qualité sonore.

Nettoyage des disques

- Si la face du disque où sont encodées les données (face sans inscription) est salie par des empreintes de doigt ou de la poussière, utilisez un chiffon doux pour essuyer la surface d'un mouvement allant du centre vers le bord extérieur.



- N'employez jamais de nettoyants pour disque, traitements antistatiques, diluants ou produits chimiques similaires pour nettoyer les disques. De tels produits chimiques pourraient abîmer la surface du disque.

Cette unité peut utiliser des clés USB.*

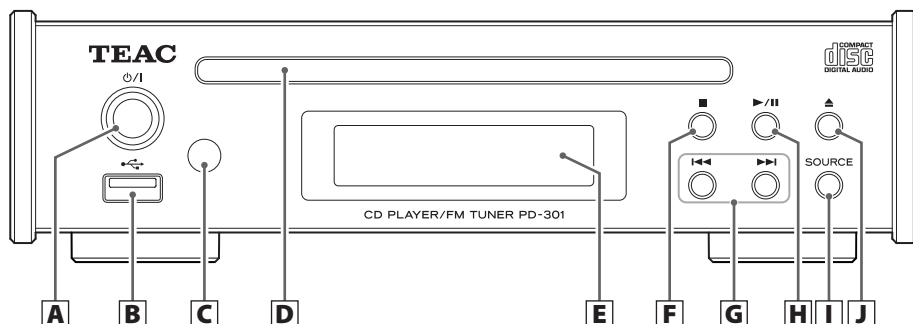
*Les ports USB de cette unité ne prennent en charge que les mémoires flash USB (aussi appelées « clés USB »). Ils ne prennent pas en charge les disques durs USB standards.

- Pour les clés USB, les formats FAT16 et FAT32 sont pris en charge.
- Cette unité ne prend pas en charge les concentrateurs (hub) USB ni les appareils à fonctions de concentrateur USB. Ne connectez jamais de tels appareils à cette unité.

ATTENTION

- Si le support connecté n'est pas pris en charge, « Media Error! » (Erreur de support) s'affiche sur l'écran de cette unité.
- Cette unité ne peut pas lire les fichiers audio si une protection des droits d'auteur est utilisée.
- Ne connectez pas d'ordinateur aux ports USB de cette unité.
L'audio venant d'ordinateurs ne peut pas entrer par les ports USB de cette unité.
- Cette unité peut ne pas être en mesure d'utiliser des supports chargés dans un lecteur de carte USB.
- Selon la clé USB et son contenu, la lecture des données peut prendre un certain temps.
- Selon la clé USB, l'unité peut ne pas être en mesure de lire correctement ses données ou de l'alimenter.
- En ce qui concerne l'utilisation de clés USB, sachez que notre société n'assumera aucune responsabilité en cas de perte ou de modifications des données, de clé USB endommagée ou de survenue d'autres dommages.
- Nous vous recommandons de faire une copie de sauvegarde des données enregistrées sur une clé USB avant d'utiliser cette dernière avec cette unité.
- Cette unité ne prend pas en charge les clés USB disposant de fonctions de sécurité.

Nomenclature et fonctions des parties (unité principale)



A Touche de mise en veille/service (⏻)

Appuyez sur cette touche pour mettre l'unité en marche ou en veille. Quand l'unité est allumée, le pourtour de la touche est allumé en bleu.

- Quand cette unité est en mode de veille, elle consomme un courant de veille. Pour cette raison, nous utilisons le terme « en veille » plutôt que « éteinte ».

B Port USB

Pour brancher une clé USB à l'unité.

- Ne reliez pas le port USB de cette unité à un ordinateur ou appareil similaire. Le son venant d'ordinateurs ne peut pas entrer par ce port USB.

C Récepteur du signal de télécommande

Reçoit les signaux de la télécommande. Lorsque vous utilisez la télécommande, pointez-la vers ce capteur.

D Fente pour disque

Insérez-y un disque. Après qu'un disque ait été partiellement inséré, l'unité le tire automatiquement à l'intérieur.

E Écran

Affiche diverses informations.

F Touche Stop (■)

Appuyez sur cette touche en cours de lecture pour l'arrêter.

Quand la FM est choisie comme source d'entrée, cette touche sert à alterner entre réglage de fréquence et présélections (presets).

G Touches de saut (⏮/⏭)

Servent à sauter à la piste précédente ou suivante. En cours de lecture, maintenez une de ces touches pressée pour une recherche en arrière/avant.

H Touche Lecture/Pause (▶/⏸)

Appuyez à l'arrêt ou en pause pour lancer la lecture. Utilisez cette touche pour interrompre la lecture et la mettre en pause.

I Touche SOURCE

Utilisez cette touche pour choisir la source d'entrée.

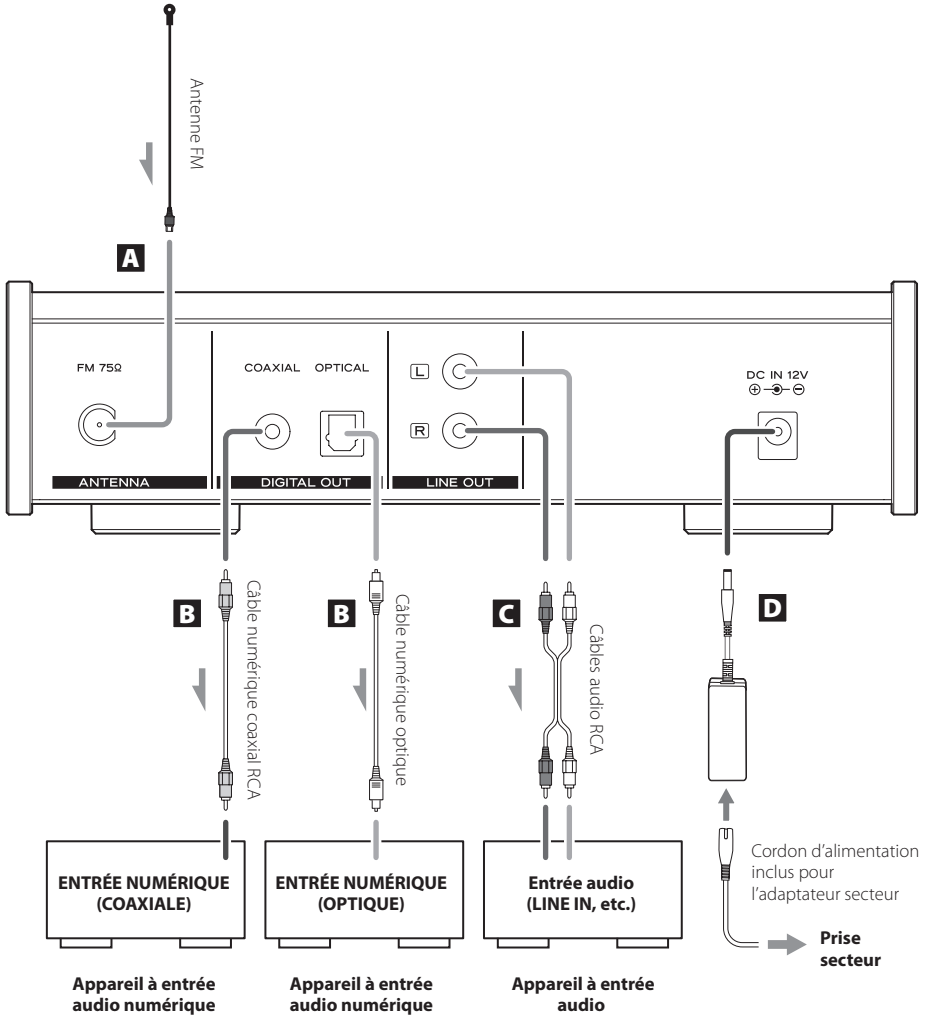
J Touche d'éjection (▲)

Appuyez sur cette touche pour partiellement éjecter le disque. Prenez le disque par la tranche et sortez-le.

Branchements

⚠ Une fois tous les branchements faits, raccordez la fiche du cordon d'alimentation à une prise secteur.

- Lisez les modes d'emploi de tous les appareils que vous comptez employer avec cette unité.
- Ne regroupez pas les câbles de connexion avec des cordons d'alimentation. Cela pourrait entraîner des bruits.
- Assurez-vous que chaque fiche est bien enfoncée.



A Antenne FM

Pour recevoir une émission FM, déployez cette antenne et positionnez-la pour la meilleure réception. Après avoir déplacé cette unité, réajustez la position de l'antenne.

B Prises de sortie audio numérique

Elles produisent le signal audio numérique. Raccordez-les aux prises d'entrée audio numérique d'un appareil pouvant recevoir de l'audio numérique.

COAXIAL : câble numérique coaxial RCA

OPTICAL : câble numérique optique (TOS)

C Prises de sortie audio analogique

Elles produisent 2 canaux audio analogiques. Branchez-y un amplificateur stéréo ou des enceintes amplifiées.

Utilisez des câbles audio RCA pour les branchements. Reliez la prise R de cette unité à la prise de droite (R ou équivalente) de l'amplificateur et la prise L de cette unité à la prise gauche (L ou équivalente) de l'amplificateur.

D Connecteur d'alimentation CC (DC IN 12V)

Une fois tous les autres branchements terminés, branchez l'adaptateur secteur GPE015A-120125-D fourni à ce connecteur et connectez le cordon d'alimentation à l'adaptateur.

Enfin, branchez la fiche du cordon d'alimentation de l'adaptateur secteur dans une prise secteur.

⚠ N'utilisez aucun cordon d'alimentation autre que celui fourni avec cette unité. L'utilisation d'autres cordons d'alimentation peut entraîner un incendie ou un choc électrique. Débranchez le cordon de la prise secteur en cas de non-utilisation prolongée de l'unité.

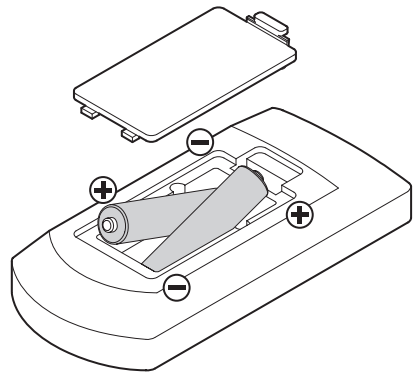
Précautions d'emploi

⚠ Un mauvais emploi des piles peut entraîner leur rupture ou leur fuite, avec pour conséquence un incendie, des blessures ou la salissure des objets proches. Veuillez attentivement lire et respecter les précautions en page 61.

- Pour utiliser la télécommande, pointez-la vers le capteur de télécommande de l'unité principale dans un rayon maximal de 5 m. Ne placez pas d'obstacles entre l'unité principale et la télécommande.
- La télécommande peut ne pas fonctionner si le capteur de signal de télécommande de l'unité principale est exposé à la lumière du soleil ou à une forte source lumineuse. Dans ce cas, essayez de déplacer l'unité principale.
- Sachez que l'emploi de cette télécommande peut entraîner le déclenchement involontaire d'opérations sur d'autres appareils contrôlables par rayons infrarouges.

Installation des piles

Ouvrez l'arrière de la télécommande et insérez deux piles AAA dans le compartiment avec leurs pôles $\oplus$ et $\ominus$ orientés selon les indications. Remplacez le couvercle.

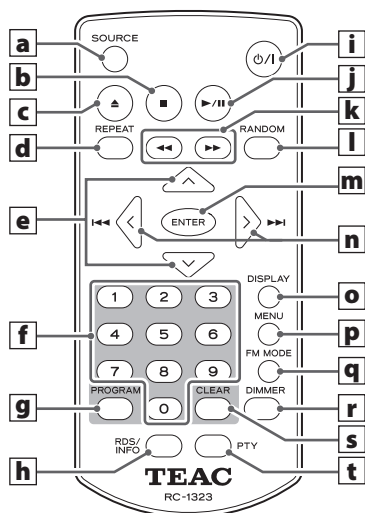


Quand faut-il remplacer les piles ?

Si la portée de fonctionnement de la télécommande se réduit, c'est que les piles sont déchargées. Dans ce cas, remplacez-les par des neuves.

Jetez les piles usagées conformément à leurs instructions ou aux directives établies par votre municipalité.

Nomenclature et fonctions des parties (télécommande)



Quand l'unité principale et la télécommande ont toutes les deux des touches ayant les mêmes fonctions, les instructions de ce mode d'emploi se réfèrent à une seule d'entre elles, mais l'autre peut être utilisée de la même façon.

a Touche SOURCE

Utilisez cette touche pour choisir la source d'entrée.

b Touche STOP (■)

Appuyez sur cette touche en cours de lecture pour l'arrêter.

c Touche d'éjection (▲)

Appuyez sur cette touche pour partiellement éjecter le disque. Prenez le disque par la tranche et sortez-le.

d Touche REPEAT

Sert à la répétition ou lecture en boucle.

e Touches de défilement [^/~]

Avec USB comme source d'entrée et le mode dossier (Folder) activé, elles servent à sélectionner les dossiers. Avec FM comme source d'entrée, elles servent à changer les numéros de preset.

f Touches numériques

Servent par exemple à sélectionner et à programmer des pistes.

g Touche PROGRAM

Avec CD comme source d'entrée, elle sert à la lecture du programme.

Avec FM comme source d'entrée, elle sert avec les stations de radio prééglées (presets).

h Touche RDS/INFO

En mode FM, elle sert à sélectionner un mode RDS. Veuillez ignorer « INFO » sur la télécommande (la fonction INFO ne concerne pas cette unité). Cette touche n'a aucune fonction sur le modèle pour les USA/le Canada.

i Touche de mise en veille/service (⏻/I)

Appuyez sur cette touche pour allumer l'unité ou la mettre en veille. Quand l'unité est allumée, le pourtour de la touche de mise en veille/service de l'unité principale est allumé en bleu.

j Touche Lecture/Pause (▶/II)

Appuyez à l'arrêt ou en pause pour lancer ou reprendre la lecture.

Appuyez durant la lecture pour la mettre en pause.

k Touches de recherche (◀◀/▶▶)

Avec CD/USB comme source d'entrée, appuyez sur une de ces touche durant la lecture pour une recherche respectivement vers l'arrière/l'avant.

Avec FM comme source d'entrée, appuyez sur l'une de ces touches pour lancer la sélection automatique de station.

l Touche RANDOM

Sert à la lecture aléatoire.

m Touche ENTER

Sert à confirmer après saisie d'un numéro de piste.

n Touches de saut (◀◀/▶▶)

Touches de direction (</>)

Avec CD/USB comme source d'entrée et le mode fichier (File) activé, ces touches servent à sauter à la piste précédente ou suivante.

Avec USB comme source d'entrée et le mode dossier (Folder) activé, ces touches servent à sélectionner les fichiers.

Avec FM comme source d'entrée, ces touches permettent d'augmenter/abaisser la fréquence de réception.

Maintenez pressée une de ces touches durant au moins une seconde pour lancer la sélection automatique de station.

o Touche DISPLAY

Appuyez sur cette touche pour changer ce que l'écran affiche.

p Touche MENU

Appuyez sur cette touche pour passer en mode de réglage.

q Touche FM MODE

Lors de la réception d'une émission FM, cette touche sert à alterner entre stéréo et mono.

r Touche DIMMER

Sert à régler la luminosité de l'écran.

s Touche CLEAR

Sert à effacer les pistes programmées.

t Touche PTY

Utilisez-la pour rechercher des stations par type de programme (PTY).

Cette touche n'a aucune fonction sur le modèle pour les USA/le Canada.

Sélection de la source d'entrée

- 1 Appuyez sur la touche de mise en veille/service (⏻/⏻) pour allumer l'unité.**

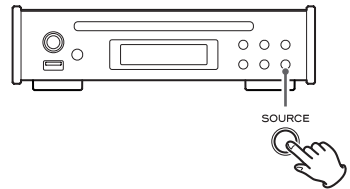
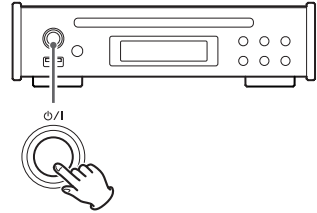
Quand l'unité est allumée, le pourtour de la touche est allumé en bleu.

ATTENTION

Pour éviter la survenue de bruits forts soudains, allumez l'amplificateur en dernier.

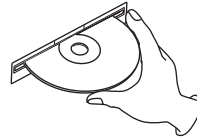
- 2 Appuyez sur la touche SOURCE pour sélectionner la source d'entrée.**

Appuyez plusieurs fois sur la touche SOURCE pour passer en revue les entrées comme indiqué ci-dessous.



Lecture d'un CD

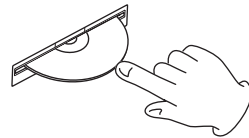
- 1 Tenez le disque par sa tranche avec sa face imprimée vers la haut et insérez-le partiellement.**



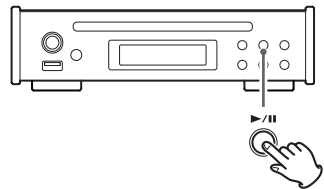
- 2 Poussez le disque sans pour autant l'enfoncer complètement. Il sera automatiquement avalé par la fente.**

Si un disque est coincé ou difficile à insérer, ne forcez pas sur le disque. Appuyez sur la touche EJECT (▲) et retirez le disque avant d'essayer de le réinsérer (forcer sur un disque peut endommager l'unité).

- La source d'entrée deviendra le CD (sauf si la lecture USB est active).

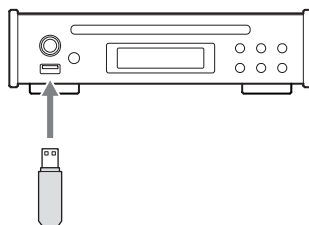


- 3 Appuyez sur la touche Lecture/Pause (▶/⏸).**



Lecture de fichiers depuis une clé USB

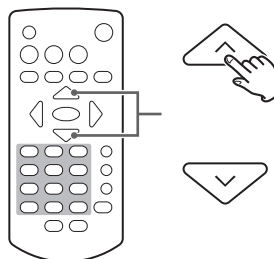
- 1** Branchez une clé USB au port USB.
- 2** Utilisez les touches de saut (◀◀/▶▶) pour sélectionner une piste.
- 3** Appuyez sur la touche Lecture/Pause (▶/||).



Sélection de stations FM

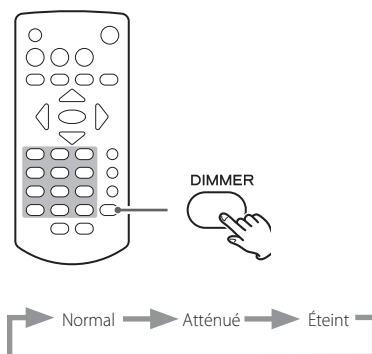
Utilisez les touches de défilement (∧/∨) de la télécommande pour sélectionner des stations préréglées.

Si les stations préréglées ne correspondent pas à celles diffusées dans votre région, suivez les instructions de « Réglage automatique des presets » en page 83.



Dimmer

Appuyez sur la touche DIMMER de la télécommande pour passer en revue les niveaux de luminosité de l'écran.



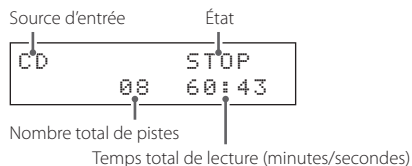
Le nom de la source d'entrée s'affiche en haut à gauche de l'écran.

Appuyez sur la touche DISPLAY pour changer les informations affichées à l'écran.

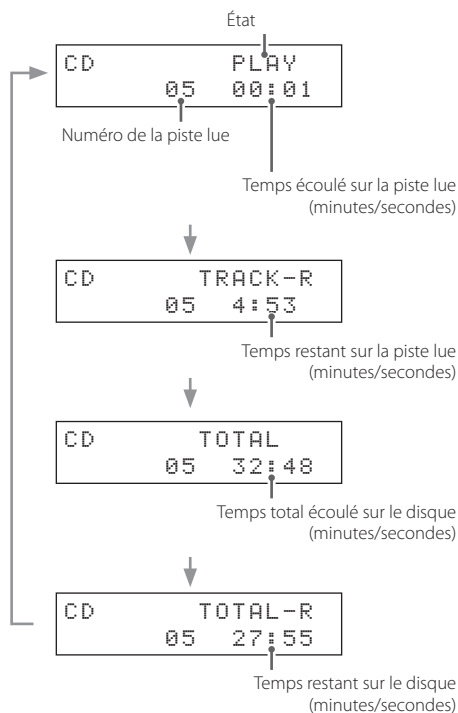
- Les contenus d'écran représentés ci-dessous sont des exemples.

CD audio

À l'arrêt



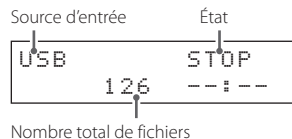
En lecture



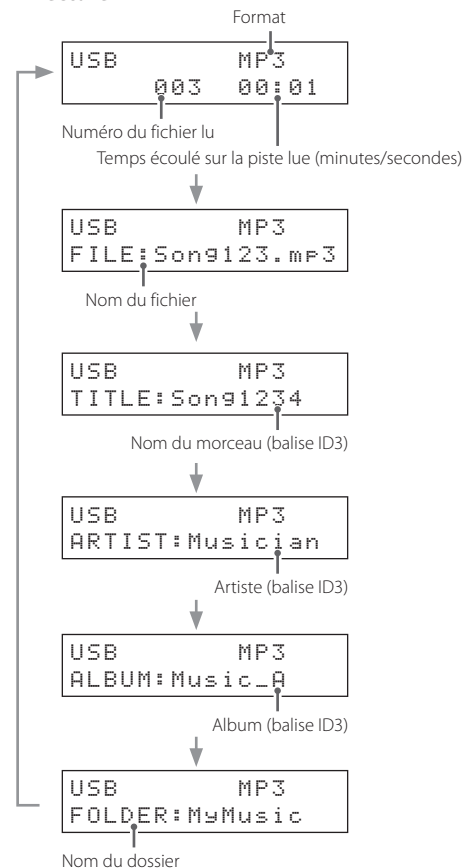
Disque/clé USB avec des fichiers audio

Les exemples suivants concernent l'utilisation d'une clé USB.

À l'arrêt



En lecture



- 62 caractères au maximum, en-tête y compris, défileront dans l'écran pour le nom de dossier, le nom de fichier et les balises ID3 (titre, artiste, album).

Écoute de fichiers d'un CD ou d'une clé USB

Les formats lisibles depuis chaque type de support sont les suivants.

CD : CD-DA (CD audio), MP3, WMA

USB : WAV, MP3, WMA, AAC

Lancement de la lecture

Appuyez sur la touche Lecture/Pause (▶/||).

Pendant la lecture, PLAY apparaît sur la ligne supérieure de l'écran.

Mise en pause de la lecture

Appuyez sur la touche Lecture/Pause (▶/||) pour mettre la lecture en pause.

Pour reprendre la lecture depuis l'endroit où elle a été mise en pause, appuyez à nouveau sur la touche Lecture/Pause (▶/||).

En pause, PAUSE apparaît sur la ligne supérieure de l'écran.

Arrêt de la lecture

Appuyez sur la touche Stop (■) pour arrêter la lecture.

Éjection d'un disque

Avec la lecture à l'arrêt, appuyez sur la touche d'éjection (▲).

Le disque sera partiellement éjecté. Saisissez le disque par sa tranche et sortez-le.

Saut de recherche d'une piste

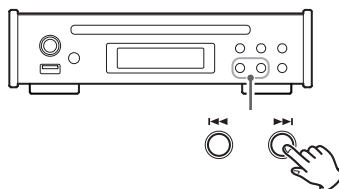
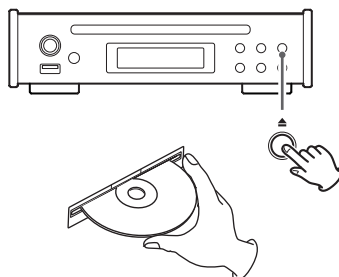
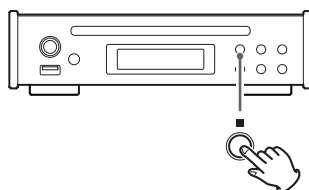
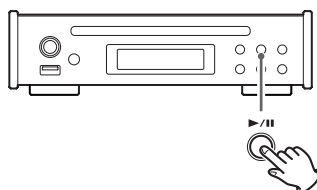
Appuyez sur une touche de saut (◀◀/▶▶) pour sauter à la piste précédente ou suivante.

- Durant la lecture, appuyez une fois sur la touche ◀◀ pour revenir au début de la piste actuelle. Lorsque vous désirez lire une piste antérieure, appuyez plusieurs fois sur la touche ◀◀ jusqu'à ce que vous ayez atteint cette piste.
- Durant la lecture de programme, ce sont les pistes antérieures ou ultérieures du programme qui seront lues.

Recherche d'un passage de piste

Maintenez pressée une touche de saut (◀◀/▶▶) pour rechercher en arrière ou en avant. Relâchez la touche lorsque vous avez trouvé le passage désiré.

Appuyez sur une touche de recherche de la télécommande (◀◀/▶▶) pour une recherche en avant/arrière. Relâchez la touche lorsque vous avez trouvé le passage désiré.



Lecture directe au moyen des numéros de piste (CD audio uniquement)

En plus de pouvoir sélectionner les pistes au moyen des touches de saut (◀◀/▶▶), vous pouvez saisir un numéro de piste et lancer sa lecture.

Durant la lecture ou à l'arrêt, vous pouvez utiliser les touches numériques de la télécommande pour sélectionner une piste par son numéro.

- Durant la lecture programmée ou aléatoire, les touches numériques ne peuvent pas servir à sélectionner des pistes.

Sélection et lecture des pistes sur CD/USB

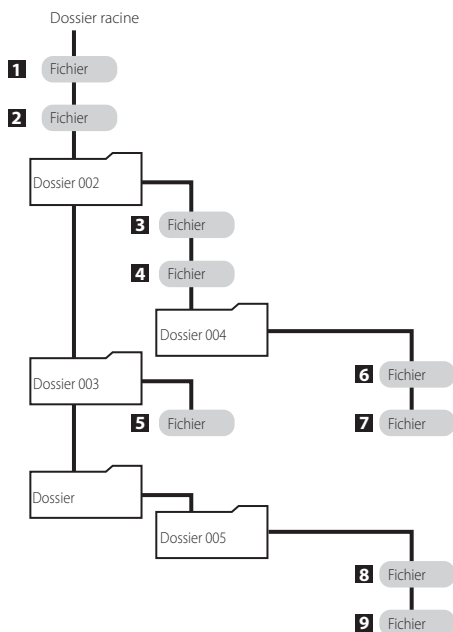
Sélectionnez les pistes des CD en mode fichier (File).

Sélectionnez les pistes des clés USB en mode fichier (File) ou dossier (Folder).

- Voir « USB Mode (mode USB) » en page 86 pour la façon de régler le mode. Avec USB comme source d'entrée, vous pouvez également maintenir pressée la touche Stop (■) pour changer de mode.

Mode fichier (File)

Dans ce mode, vous pouvez sélectionner les fichiers sans tenir compte des dossiers qui sont tous traités sur un pied d'égalité, quel que soit le niveau de chacun.



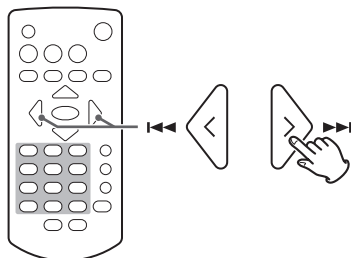
Exemple : saisie du numéro de piste 7



Exemple : saisie du numéro de piste 23



Sélection de fichiers



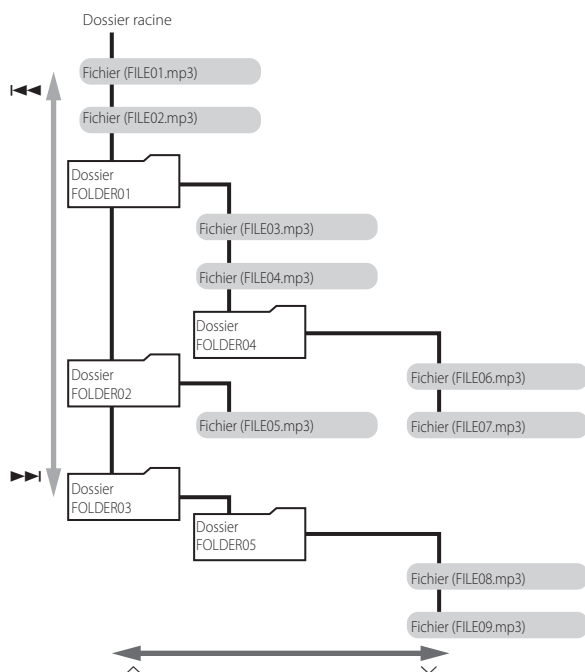
1 - 9 est l'ordre de lecture des fichiers quand un CD est chargé ou quand une clé USB est connectée.

Mode dossier (Folder)

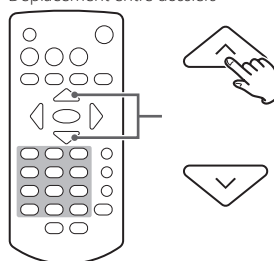
Vous pouvez sélectionner des fichiers et des dossiers en utilisant la hiérarchie des dossiers.

En mode dossier, l'icône de dossier  apparaît en bas à droite de l'écran.

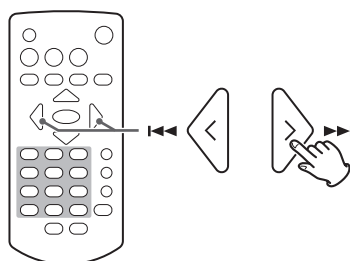
L'icône de dossier  apparaît aussi avant le nom d'un dossier.



Déplacement entre dossiers



Sélection de fichiers dans des dossiers



Écoute de fichiers d'un CD ou d'une clé USB (suite)

Exemples de fonctionnement en mode dossier (Folder)

- Ces exemples utilisent la structure de fichiers/dossiers donnée dans l'illustration de la page précédente.

NOTE

Quand on passe à l'USB comme source d'entrée, le nom du fichier ne s'affiche pas, mais FILE01.mp3 est sélectionné.

Sélection de fichiers/dossiers au même niveau

Appuyez sur la touche de saut (▶▶) pour sélectionner les fichiers et les dossiers comme indiqué dans les illustrations ci-dessous. Appuyez sur la touche de saut (◀◀) pour les sélectionner dans l'ordre inverse.

- Les affichages représentés sont des exemples.

```
USB      MP3
001  STOP  [ ]
```

Numéro du fichier dans le dossier sélectionné

```
USB FILE02.mp3
001  STOP  [ ]
```

```
USB 0FOLDER01
001  STOP  [ ]
```

```
USB 0FOLDER02
001  STOP  [ ]
```

```
USB 0FOLDER03
001  STOP  [ ]
```

```
USB FILE01.mp3
001  STOP  [ ]
```

[] L'icône ne clignote pas.

[] L'icône clignote.

Changement de niveau de dossier

Sélectionnez un dossier et appuyez sur la touche de défilement (v) ou la touche ENTER pour afficher les fichiers/dossiers que contient le dossier sélectionné.

Appuyez sur la touche de défilement (^) pour remonter d'un niveau et afficher les fichiers/dossiers contenus par ce dossier.

```
USB 0FOLDER01
001  STOP  [ ]
```

```
USB FILE03.mp3
001  STOP  [ ]
```

Lancement de la lecture

Lorsqu'un fichier est affiché en ligne supérieure, appuyez sur la touche de défilement (v) ou sur la touche ENTER pour sélectionner ce fichier et lancer sa lecture.

```
USB FILE04.mp3
001  STOP  [ ]
```

```
USB      MP3
002  00:010
```

NOTE

- L'icône de dossier clignote quand un fichier/dossier est sélectionné.
- Pour annuler la sélection de fichier/dossier, appuyez sur la touche CLEAR.

Mode de saut

En mode dossier (Folder), maintenez pressée la touche ENTER durant 5 secondes pour activer le mode de saut. « S » s'affiche à l'extrême droite de la ligne supérieure.

Exemple d'affichage en mode de saut

```
USB      S
001  STOP  [ ]
```

Dans ce mode, les touches de saut (◀◀/▶▶) ne sélectionnent pas les fichiers. À la place, vous pouvez les employer pour sauter, ce qui permet la lecture sans avoir à appuyer sur la touche ENTER.

Maintenez à nouveau la touche ENTER pressée durant 5 secondes pour revenir au mode dossier normal (le « S » disparaît.)

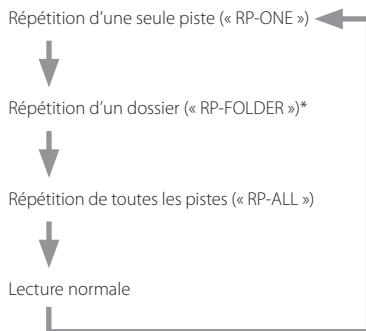
NOTE

- Le numéro de fichier affiché est le numéro d'un fichier du dossier sélectionné.

Lecture en boucle

Chaque fois que vous appuyez sur la touche REPEAT, le mode de lecture en boucle change comme ci-contre.

- Durant la lecture de programme, la lecture en boucle n'est pas possible.
- Ce type de lecture ne peut pas être utilisé en même temps que la lecture aléatoire.
- Lorsque « Folder » (mode dossier) est activé, « RP-FOLDER » (répétition d'un dossier) et « RP-ALL » (répétition de tous les fichiers) fonctionnent de la même manière, en ne répétant que les fichiers du dossier. Pour répéter la lecture de tous les fichiers de la clé USB, passez en mode « File » (mode fichier) et réglez le mode de répétition sur « RP-ALL » (répétition de tous les fichiers) avant la lecture.



*« RP-FOLDER » n'apparaît qu'en mode dossier USB.

Lecture aléatoire

Appuyez sur la touche RANDOM pour activer/désactiver la lecture aléatoire.

Si elle est activée, les pistes du disque sont lues en ordre aléatoire.

La lecture ne s'arrêtera que lorsque vous appuierez sur la touche Stop (■).

- Ce type de lecture ne peut pas être utilisé en même temps que la lecture en boucle.

Lecture de programme

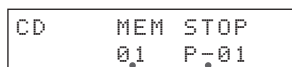
La lecture de programme n'est possible qu'avec des CD audio.

Emploi de la lecture de programme

1 Appuyez sur la touche PROGRAM.

MEM et le numéro de piste clignotent.

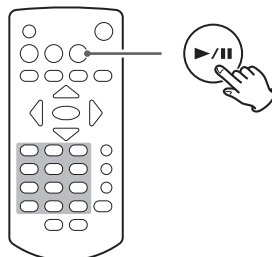
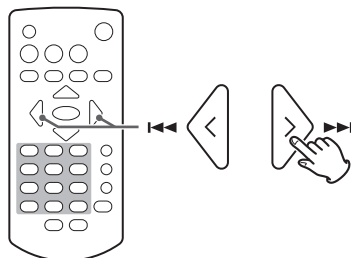
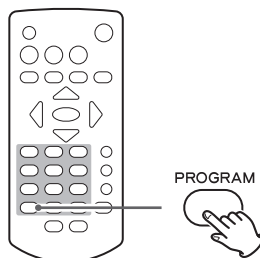
Exemple d'affichage



Numéro de piste

Position dans le programme

- Appuyez à l'arrêt.



2 Utilisez les touches de saut (◀◀/▶▶) ou les touches numériques pour sélectionner une piste et appuyez sur la touche PROGRAM pour ajouter cette piste au programme.

Ajoutez toutes les pistes désirées au programme.

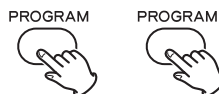
- Après 20 secondes sans action, le programme est annulé.

3 Appuyez sur la touche Lecture/Pause (►/||) pour lancer la lecture du programme.

Vérification et modification du programme

1 Appuyez deux fois sur la touche PROGRAM.

MEM et le numéro de position dans le programme clignotent.



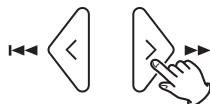
2 Utilisez les touches de saut (◀◀/▶▶) pour vous déplacer dans les pistes du programme et vérifier les numéros de piste.

Modification du programme

1. Affichez la piste programmée que vous souhaitez changer.
2. Appuyez sur la touche PROGRAM.
3. Sélectionnez une piste et appuyez sur la touche PROGRAM pour l'ajouter au programme à la place de la piste d'origine.

Retrait d'une piste dans le programme

1. Affichez la piste programmée que vous souhaitez retirer du programme.
2. Appuyez sur la touche CLEAR.



3 Appuyez sur la touche Lecture/Pause (▶/II) pour lancer la lecture du programme.



Ajout de pistes au programme

1 Appuyez sur la touche PROGRAM.

MEM et le numéro de position dans le programme clignotent.

2 Sélectionnez une piste et appuyez sur la touche PROGRAM pour l'ajouter au programme.

Répétez l'opération pour ajouter d'autres pistes si désiré.

3 Appuyez sur la touche Lecture/Pause (▶/II) pour lancer la lecture du programme.

Retrait de toutes les pistes du programme

1 À l'arrêt ou durant la lecture, maintenez pressée la touche **CLEAR**.

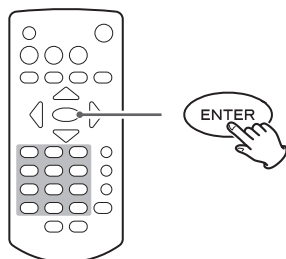
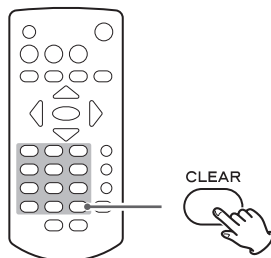
2 Lorsque « **Program clear?** » (Effacement du programme ?) apparaît, appuyez sur la touche **ENTER** pour retirer toutes les pistes du programme.

CD	STOP
Program Clear?	

Pour annuler l'opération, appuyez sur la touche Stop (■) ou la touche **CLEAR**.

N'importe laquelle des opérations suivantes retirera aussi toutes les pistes du programme.

- Éjection du disque
- Appui sur la touche de mise en veille/service (⏻/I) de l'unité pour la mettre en veille



Mode FM

Appuyez sur la touche FM MODE pour faire alterner la réception entre stéréo et mono.

Stéréo

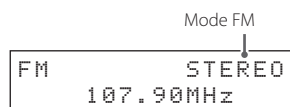
Les émissions FM stéréo sont reçues en stéréo.

- Si la réception est mauvaise, passez en mono.

Mono

Les émissions FM sont reçues en mono. Lorsque la réception d'une émission FM stéréo est médiocre, sélectionnez ce mode. Le son devient mono, mais le bruit est également réduit, ce qui améliore le son.

Exemple d'affichage



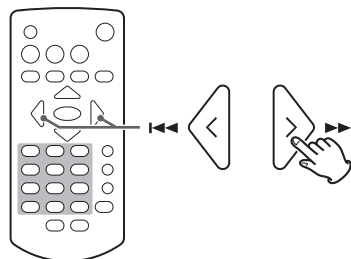
Changement de la fréquence de réception

Lorsqu'un numéro de présélection (preset) est affiché, appuyez sur la touche Stop (■) pour activer le mode de sélection de fréquence.

Augmentation de la fréquence de réception

Appuyez sur la touche de direction (>) pour augmenter d'un palier la fréquence de réception.

Appuyez sur la touche de recherche (>>) pour une recherche automatique dans les fréquences plus élevées.



Diminution de la fréquence de réception

Appuyez sur la touche de direction (<) pour diminuer d'un palier la fréquence de réception.

Appuyez sur la touche de recherche (<<) pour une recherche automatique dans les fréquences plus basses.

Changement de la fréquence depuis l'unité principale

Appuyez sur la touche Stop (■) et utilisez les touches de saut (I◀◀/▶▶I) en mode de sélection de fréquence (numéro de preset non affiché).

Lorsqu'un numéro de preset apparaît, utilisez les touches de saut (I◀◀/▶▶I) pour changer de numéro de preset.

Préréglages (presets) de stations de radio

Cette unité peut mémoriser jusqu'à 20 stations FM.

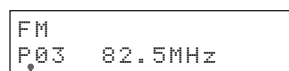
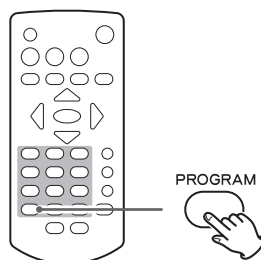
Réglage automatique des presets

Maintenez pressée la touche PROGRAM de la télécommande.

L'unité recherche automatiquement les stations de radio et les mémorise dans l'ordre à partir du preset 01 (P01). L'unité arrête automatiquement l'ajout de presets quand elle en a mémorisé 20 ou lorsque toute la plage des fréquences de réception a été balayée.

Réglage manuel de presets

- 1** Calez-vous sur la station que vous souhaitez ajouter comme preset.
- 2** Appuyez sur la touche PROGRAM.
- 3** Avec les touches de direction (</>), sélectionnez le numéro de preset voulu pour la mémorisation et appuyez sur la touche ENTER.



Numéro de preset (préréglage)

RDS (modèle européen uniquement)

Le système RDS (Radio Data System) est un service de diffusion qui permet aux stations d'envoyer des informations supplémentaires en même temps que le programme radio normal.

- **Le RDS ne fonctionne sur la bande de fréquences FM qu'en Europe.**

1 Réglez la réception sur une station FM RDS (voir page 82).

2 Appuyez sur la touche RDS de la télécommande.

Appuyer sur la touche RDS passe en revue les modes RDS comme suit :

Affichage du nom de la station (Program service ou PS)

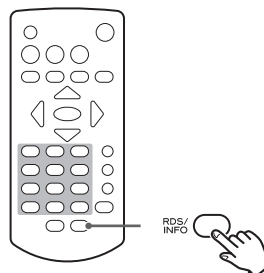
Lorsque vous sélectionnez l'affichage du nom de la station, « PS » apparaît à droite de « FM » puis le nom du service de programme ou de la station s'affiche. S'il n'y a pas de données de service de programme, c'est la fréquence qui s'affiche.

Affichage du type de programme RDS (PTY)

Lorsque vous sélectionnez l'affichage du type de programme RDS, « PTY » apparaît à droite de « FM » puis le type de programme s'affiche.

Affichage du texte radio RDS (RT)

Lorsque vous sélectionnez l'affichage du texte radio RDS, « RT » apparaît à droite de « FM » puis les informations de station composées au maximum de 64 caractères s'affichent.



Recherche d'un type de programme (PTY)

Vous pouvez rechercher des stations par type de programme. Cette fonction n'est disponible que sur les services RDS des stations FM en Europe.

1 Appuyez sur la touche PTY.

« PTY SEARCH » s'affiche.

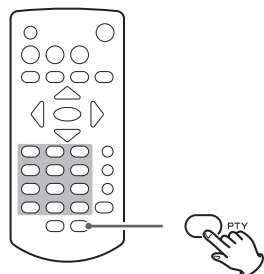
2 Utilisez les touches de direction (</>) pour sélectionner le type de programme désiré.

Vous pouvez choisir parmi 31 types de programme (PTY).

3 Appuyez sur la touche ENTER.

L'appareil lance la recherche.

- Quand le type de programme que vous avez sélectionné est trouvé, la recherche s'arrête et le type de programme est affiché.
- Si aucun programme du type sélectionné n'est trouvé durant la recherche PTY, cette dernière s'arrête à la fréquence de laquelle a démarré la recherche.
- Si vous voulez arrêter la recherche, appuyez sur la touche PTY.



FM	PTY SEARCH
< NEWS	>

NEWS (nouvelles) :

Communiqués, événements, sondages, reportages, situations vécues.

AFFAIRS (informations générales) :

Suggestions incluant des annonces pratiques autres qu'actualités, documents, débats, analyses, etc.

INFO (informations pratiques) :

Informations utiles et de référence telles que prévisions météo, guides du consommateur et conseils médicaux.

SPORT :

Émissions sportives.

EDUCATE (éducation) :

Informations culturelles et éducatives.

DRAMA (théâtre) :

Tous types de concerts et séries dramatiques radiodiffusés.

CULTURE :

Tous les aspects de la culture locale ou nationale, y compris les événements religieux, la philosophie, les sciences humaines, les langues et le théâtre.

SCIENCE :

Émissions sur les sciences de la nature et la technologie.

VARIED (variétés) :

Émissions grand public telles que jeux, variétés, interviews, émissions comiques et satiriques.

POP M (musique de variétés) :

Émissions de musique, de variétés, ou hit-parade, etc.

ROCK M (musique rock) :

Musique moderne, généralement composée et interprétée par de jeunes musiciens.

EASY M (musique facile) :

Musique grand public durant généralement moins de 5 minutes.

LIGHT M (musique légère) :

Musique classique, instrumentale, chorale, et musique légère s'adressant au grand public.

CLASSICS (musique classique) :

Musique orchestrale incluant opéras, symphonies, musique de chambre, etc.

OTHER M (autres styles musicaux) :

Autres styles musicaux dont Rhythm & Blues et reggae.

WEATHER (météo) :

Informations et prévisions météorologiques.

FINANCE :

Informations financières, commerciales, boursières.

CHILDREN (enfants) :

Émissions pour enfants.

SOCIAL :

Vie collective et sociale.

RELIGION :

Émissions à caractère religieux.

PHONE IN (débats publics) :

Émissions au cours desquelles les auditeurs s'expriment en direct.

TRAVEL (voyages) :

Émissions à caractère touristique.

LEISURE (loisirs) :

Émissions sur les activités de loisirs.

JAZZ :

Musique de jazz.

COUNTRY :

Musique country.

NATION M :

Musique militaire et patriotique.

OLDIES (âge d'or) :

Tubes de ce que l'on appelle l'âge d'or de la musique pop.

FOLK M :

Musique folk.

DOCUMENT :

Documentaires.

TEST :

Émission pour tester les équipements de diffusion ou récepteurs de secours. Non destinée à la recherche ou la commutation dynamique sur des récepteurs grand public.

ALARM! :

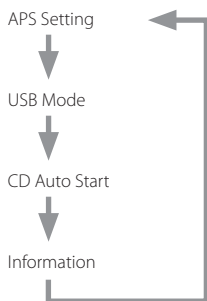
Programme avec avis d'alerte ou de catastrophe naturelle.

Réglages

1 Appuyez sur la touche MENU.

2 Utilisez les touches de direction (</>) pour sélectionner le paramètre que vous souhaitez régler et appuyez sur la touche ENTER.

Appuyez sur la touche ►► pour passer en revue les paramètres suivants.



Appuyez sur la touche ◀◀ pour passer en revue ces paramètres dans l'ordre inverse.

3 Utilisez les touches de direction (</>) pour changer le réglage, et appuyez sur la touche ENTER pour confirmer le changement.

L'écran précédent réapparaît après confirmation.

- Appuyez à la place sur la touche MENU pour annuler le changement de réglage.

Exemple d'affichage

```
Menu
< APS Setting >
```

Exemple d'affichage

```
APS Setting
< APS ON >
```

Réglage de la fonction d'économie automatique d'énergie (APS Setting)

- À sa sortie d'usine, la fonction d'économie automatique d'énergie est réglée sur OFF dans les modèles pour les USA et le Canada et sur ON dans les modèles pour l'Europe.

ON

Avec CD/USB comme source d'entrée, après 30 minutes d'arrêt ou de pause de lecture, l'unité passe en veille.

OFF

L'unité ne passe pas automatiquement en veille.

Le réglage de la fonction d'économie automatique d'énergie s'affiche à la mise sous tension de l'unité.

Exemple d'affichage

```
TEAC PD-301
APS ON
```

USB Mode (mode USB)

- Il est réglé sur File (mode fichier) en sortie d'usine.

File (mode fichier)

Les fichiers se sélectionnent de façon équivalente dans tous les dossiers, quel que soit le niveau de dossier.

Folder (mode dossier)

Les fichiers et dossiers se sélectionnent selon la hiérarchie des dossiers.

Exemple d'affichage

```
USB Mode
< FILE >
```

CD Auto Start (lecture automatique de CD)

- Ce paramètre est réglé sur Stop (OFF) en sortie d'usine.

Stop(OFF)

Quand un CD est inséré, sa lecture ne démarre pas automatiquement.

Playback(ON)

Quand un CD est inséré et que le CD est la source choisie, la lecture démarre automatiquement.

Exemple d'affichage

```
CD Auto Start  
< Stop(OFF) >
```

Information

Affiche la version actuelle du firmware.

Exemple d'affichage

```
Information  
Ver 1.00
```

Générales

L'unité ne s'allume pas.

(Le voyant de la touche de mise en veille/service (⏻/I) ne s'allume pas.)

- ➔ Vérifiez que le cordon d'alimentation est enfoncé à fond dans la prise secteur. Si la prise a un commutateur, vérifiez que celui-ci est en position ON.
- ➔ Branchez un autre appareil électrique à la prise pour vérifier qu'elle fournit bien du courant.

La télécommande ne fonctionne pas.

- ➔ Pointez la télécommande vers la face avant de l'unité à une distance de moins de 5 m environ.
- ➔ La télécommande ne fonctionnera pas s'il y a un obstacle entre elle et l'unité principale. Dans ce cas, essayez de changer de position.
- ➔ Si les piles sont déchargées, remplacez les deux par des neuves.

Un téléviseur ou un autre appareil réagit par erreur.

- ➔ La télécommande de cette unité peut déclencher par erreur certains téléviseurs capables de recevoir des signaux de télécommandes sans fil. Si cela se produit, utilisez les touches de l'unité principale.

Il n'y a pas de son ou seul un son très faible sort.

- ➔ Vérifiez les branchements avec l'amplificateur.
- ➔ Vérifiez les branchements avec les enceintes et autres appareils.

Il y a du bruit.

- ➔ Éloignez autant que possible l'unité des téléviseurs, fours à micro-ondes et autres appareils à fort champ magnétique.

Radio

Une station ne peut pas être captée. La réception est mauvaise.

- ➔ Sélectionnez une station de radio.
- ➔ Si la réception est mauvaise, tentez de bouger l'antenne.
- ➔ S'il y a un téléviseur près de l'unité, éteignez-le.
- ➔ Ne gardez pas de clé USB branchée à l'unité quand vous recevez des signaux radio. Une clé USB connectée peut causer du bruit ou d'autres problèmes.

Les émissions stéréo deviennent mono.

- ➔ Appuyez sur la touche FM MODE de la télécommande pour sélectionner stéréo.

Lecteur de CD

La lecture n'est pas possible.

- ➔ Si le disque est à l'envers, rechargez-le avec sa face sérigraphiée vers le haut.
- ➔ Si le disque est sale, nettoyez-le.

- ➔ Selon la qualité et les conditions d'enregistrement du disque, certains CD-R/CD-RW peuvent ne pas être lisibles.

- ➔ Les CD-R/CD-RW non finalisés ne peuvent pas être lus.

Le son saute.

- ➔ Des vibrations peuvent faire sauter le son. Installez cette unité dans un endroit stable.
- ➔ Si le disque est sale, nettoyez-le.
- ➔ N'utilisez pas de disques rayés ou fissurés.

Fichiers MP3, WMA, AAC et WAV

La lecture n'est pas possible.

- ➔ Vérifiez l'extension du fichier. Les fichiers sont identifiés par leur extension : « .mp3 » pour les fichiers MP3, « .wma » pour les fichiers WMA, « .m4a » pour les fichiers AAC et « .wav » pour les fichiers WAV.
- ➔ Le fichier MP3/WMA/AAC/WAV peut être endommagé.
- ➔ Vérifiez le format du fichier. Cette unité peut lire les fichiers MP3, WMA, AAC et WAV. Par contre, elle ne peut pas lire de fichiers WAV et AAC depuis un CD (page 89).

« NO USB » s'affiche et la clé USB n'est pas reconnue.

- ➔ Essayez de formater la clé USB avec un ordinateur. Cela devrait y réenregistrer les données FAT, permettant à l'unité de la reconnaître. (AVERTISSEMENT : le formatage effacera tous les fichiers présents sur la clé USB.)

Les noms de piste, d'artiste et d'album ne s'affichent pas.

- ➔ Le fichier musical ne contient pas de balise ID3 d'information. Utilisez par exemple un ordinateur pour préparer des fichiers MP3/WMA/AAC avec des informations de balise ID3 correctes.
- Les balises ID3 ne peuvent pas être utilisées avec des fichiers WAV.

Certains caractères ne s'affichent pas correctement.

- ➔ Si des informations de fichier utilisent des caractères japonais, chinois ou autres à double octet, la lecture est possible mais le nom ne sera pas affiché correctement.

« No Music file » s'affiche.

- ➔ Le disque ou la clé USB ne contient aucun fichier audio lisible. Chargez un disque ou une clé USB contenant des fichiers audio lisibles.

Comme cette unité utilise un microcontrôleur, du bruit ou d'autres interférences externes peuvent entraîner son mauvais fonctionnement. Si cela se produit, débranchez le cordon d'alimentation, attendez un instant puis rallumez pour relancer les opérations.

Caractéristiques techniques

Lecteur de CD

Support de lecture	CD-DA, CD-ROM/R/RW*
Seuls des disques de 12 cm peuvent être employés	
Format	ISO9660 LEVEL 1/2/JOLIET
Nombre maximal de fichiers	300 (dossiers compris)
Nombre maximal de dossiers	50
*Les seuls CD-RW pris en charge sont ceux au format CD-DA	

USB

Périphériques USB pris en charge	
classe de périphériques de stockage de masse USB	
Compatibilité d'interface	USB 2.0 (pleine vitesse)
	USB 1.1 (haute vitesse)
	USB 3.0
Systèmes de fichiers	FAT16, FAT32
Nombre maximal de fichiers	300 (dossiers compris)
Nombre maximal de dossiers	50
Tension de sortie USB	CC 5 V
Courant d'alimentation USB	500 mA maximum

Formats audio lisibles

WAV (USB uniquement)	
Extension	« .wav », « .WAV »
Résolution de quantification	16 bits
Fréquence d'échantillonnage	44,1 kHz, 48 kHz
MP3	
Extension	« .mp3 », « .MP3 »
Débit binaire	32 kbit/s – 320 kbit/s ou débit variable (VBR)
Fréquence d'échantillonnage	16 kHz, 22,05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44,1 kHz, 48 kHz
Norme prise en charge	MPEG-1/2 Audio Layer-3
WMA	
Extension	« .wma », « .WMA »
Débit binaire	32 kbit/s – 320 kbit/s ou débit variable (VBR)
Fréquence d'échantillonnage	8 kHz, 11,025 kHz, 16 kHz, 22,05 kHz, 32 kHz, 44,1 kHz, 48 kHz
Norme prise en charge	WMA ver.9 (DRM non pris en charge)
AAC (USB uniquement)	
Extension	« .m4a », « .M4A »
Débit binaire	8 kbit/s – 320 kbit/s ou débit variable (VBR)
Fréquence d'échantillonnage	8 kHz, 16 kHz, 32 kHz, 11,025 kHz, 22,05 kHz, 44,1 kHz, 12 kHz, 24 kHz, 48 kHz
Norme prise en charge	MPEG4 AAC-LC (flux audio)

Tuner (syntoniseur)

Plage de fréquences	
FM	87,5 MHz à 108,0 MHz

Sortie audio analogique

Connecteur	RCA (2 canaux) × 1
Impédance de sortie	470 Ω ou moins
Niveau maximal de sortie (1 kHz, pleine échelle, sous 10 kΩ)	2,0 Vrms
Réponse en fréquence	20 Hz – 20 kHz (–3 dB)
Rapport signal/bruit	113 dB
Distorsion	0,005% (1 kHz)

Sortie audio numérique

Connecteur numérique COAXIAL × 1	
Impédance de sortie	75 Ω
Niveau de sortie	0,5 Vc-c
Connecteur numérique OPTICAL × 1	
	TOS (JEITA RC-5720C)
Fréquence d'échantillonnage	44,1 kHz
Résolution de quantification	16 bits

Générales

Alimentation électrique	
Modèle Europe	CA 220–240 V (50 Hz, 60 Hz)
Modèle USA/Canada	CA 120 V (50 Hz, 60 Hz)
Consommation électrique	8 W
Dimensions externes	215 × 61 × 232 mm (L × H × P, hors saillies)
Poids	2,1 kg
Température de fonctionnement	+5 °C à +35 °C
Hygrométrie de fonctionnement	5 % à 85 % (sans condensation)
Température de stockage	–20 °C à +55 °C

Accessoires fournis

Adaptateur secteur (GPE015A-120125-D) × 1
Cordon d'alimentation pour adaptateur secteur × 1
Câble audio RCA × 1
Télécommande (RC-1323) × 1
Antenne FM × 1
Mode d'emploi (ce document) × 1

- Caractéristiques techniques et aspect sont sujets à changements sans préavis.
- Le poids et les dimensions sont des valeurs approchées.
- Les illustrations de ce mode d'emploi peuvent légèrement différer des modèles de production.

INSTRUCCIONES IMPORTANTES DE SEGURIDAD

PRECAUCIÓN

- NO quite las carcasas externas ni deje al aire la electrónica. ¡EN EL INTERIOR NO HAY PIEZAS QUE EL USUARIO PUEDA MANIPULAR!
- SI experimenta problemas con este producto, Póngase en contacto con el establecimiento donde adquirió la unidad para solicitar servicio técnico. NO utilice el aparato hasta que haya sido reparado.
- EL USO DE CONTROLES, AJUSTES O PROCEDIMIENTOS QUE NO SEAN LOS ESPECIFICADOS EN ESTE MANUAL PUEDE CAUSAR EXPOSICIÓN A RADIACIONES PELIGROSAS.

- 1) Lea estas instrucciones.
- 2) Conserve estas instrucciones.
- 3) Cumpla con lo indicado en los avisos.
- 4) Siga todas las instrucciones.
- 5) No utilice este aparato cerca del agua.
- 6) Límpielo solo con un trapo seco.
- 7) No bloquee ninguna de las ranuras de ventilación. Instale este aparato de acuerdo con las instrucciones del fabricante.
- 8) No instale este aparato cerca de fuentes de calor como radiadores, calentadores, hornos u otros aparatos (incluyendo amplificadores) que produzcan calor.
- 9) No elimine el sistema de seguridad que supone el enchufe polarizado o con toma de tierra. Un enchufe polarizado tiene dos bornes, uno más ancho que el otro. Uno con toma de tierra tiene dos bornes iguales y una tercera lámina para la conexión a tierra. El borne ancho o la lámina se incluyen para su seguridad. Si el enchufe que venga con la unidad no encaja en su salida de corriente, haga que un electricista cambie su salida anticuada.
- 10) Evite que el cable de corriente quede de forma que pueda ser pisado o quedar retorcido o aplastado, especialmente en los enchufes, receptáculos o en el punto en el que salen del aparato.
- 11) Use solo accesorios / complementos especificados por el fabricante.
- 12) Utilice este aparato solo con un soporte, trípode o bastidor especificado por el fabricante o que se venda con el propio aparato. Cuando utilice un bastidor con ruedas, tenga



cuidado al mover la combinación de aparato/bastidor para evitar que vuelque y puedan producirse daños.

- 13) Desconecte este aparato de la corriente durante las tormentas eléctricas o cuando no lo vaya a usar durante un periodo de tiempo largo.
 - 14) Dirija cualquier posible reparación solo al servicio técnico oficial. Este aparato deberá ser reparado si se ha dañado de alguna forma, como por ejemplo si el cable de corriente o el enchufe están rotos, si ha sido derramado algún líquido sobre la unidad o algún objeto ha sido introducido en ella, si ha quedado expuesto a la lluvia o la humedad, si no funciona normalmente o si ha caído al suelo en algún momento.
- Este aparato libera corriente nominal no válida para el funcionamiento a través de la toma de corriente, aún cuando el interruptor de encendido y activación (POWER o STANDBY/ON) no esté en la posición de encendido (ON).
 - El enchufe que se conecta a la red es el dispositivo de desconexión, por lo que deberá permanecer siempre en perfecto estado de uso.
 - Deberá llevar cuidado si utiliza auriculares con este producto, ya que una excesiva presión sonora (volumen) procedente de los mismos puede causar pérdidas de audición.

PRECAUCIÓN

- No exponga este aparato a salpicaduras ni goteras.
- No coloque objetos que contengan líquidos, como por ejemplo jarrones, sobre el aparato.
- No instale este aparato en lugares cerrados tales como estanterías o similares.
- Este aparato debe situarse lo suficientemente cerca de una toma de electricidad como para poder alcanzar fácilmente el cable de corriente en cualquier momento.
- Si el producto utiliza pilas (esto incluye las pilas instaladas y los "packs" de pilas), se evitará su exposición directa al sol, al fuego o a cualquier otra fuente de calor excesivo.
- PRECAUCIÓN con los productos que emplean baterías de litio reemplazables: existe peligro de explosión si la batería se reemplaza por otra de tipo incorrecto. Reemplácela sólo por otra igual o de tipo equivalente.

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

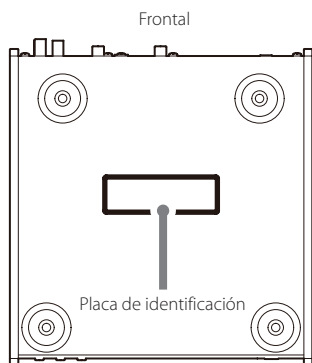
Los nombres de otras compañías, nombres de productos y logos que aparecen en este documento son marcas comerciales o registradas de sus respectivos propietarios.

Precauciones con respecto a las pilas

Un mal uso de las pilas puede hacer que se rompan o que tengan fugas y ello causar fuego, lesiones u oxidación en los objetos cercanos. Por favor, lea y observe las siguientes precauciones cuidadosamente.

- Asegúrese de introducir las pilas siempre con la correcta orientación de los polos positivo (+) y negativo (-).
- Use pilas del mismo tipo. Nunca utilice juntas pilas de tipos diferentes.
- Si no va a utilizar el mando a distancia durante mucho tiempo (más de un mes), quite las pilas para evitar que se sulfaten y tengan fugas.
- Si las pilas presentan fugas, limpie el líquido que haya caído en el compartimento y sustituya las pilas por otras nuevas.
- No utilice pilas que no sean del tipo especificado. No mezcle pilas nuevas con viejas ni utilice juntas pilas de tipos distintos.
- No caliente ni desarme las pilas. Nunca tire pilas al fuego ni al agua.
- No transporte ni almacene pilas con otros objetos metálicos. Las pilas podrían producir cortocircuitos, perder líquido o explotar.
- Nunca recargue una pila si no está completamente seguro de que es una pila recargable.
- No exponga las pilas a una presión atmosférica extremadamente baja, ya que esto podría causar una explosión o fuga de líquidos o gases inflamables.

La placa de identificación está situada en la parte inferior de la unidad como muestra la ilustración.



Información sobre el láser

Este producto láser es un producto láser de consumo conforme a la norma EN 50689:2021 y cumple con todos los requisitos de los productos láser de consumo a excepción de los productos atractivos para niños.

Este producto contiene un sistema láser y está clasificado como PRODUCTO LÁSER DE CLASE 1 de acuerdo con la norma IEC 60825-1:2014. Esta clase no requiere especial atención en un uso normal. No lo desarme para evitar la exposición al rayo láser.

Láser:

Tipo: EP-C250L

Fabricante: GUANGDONG EVER BRIGHT GROUP CO.,LTD

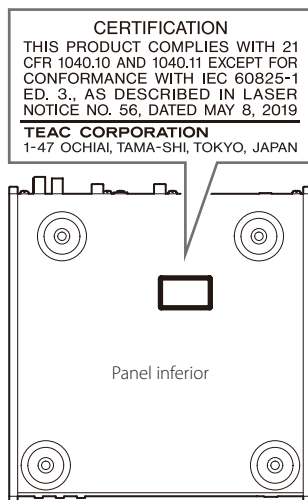
Potencia láser: Inferior a 0,30 mW en la lente del objetivo

Longitud de onda: 792 +8 nm / -12 nm

Modelo para EE. UU.

Este producto ha sido diseñado y fabricado de acuerdo con las normativas de la FDA, "título 21, CFR, capítulo 1, subcapítulo J, basado en el Acta de Control de Radiaciones para la Salud y la Seguridad de 1968", y está clasificado como producto láser de Clase I. No se produce radiación láser invisible peligrosa porque la radiación láser invisible emitida en el interior de este producto queda completamente confinada dentro de la carcasa protectora.

La etiqueta exigida por esta normativa es la siguiente:



Modelo para EE.UU.

Declaración de conformidad del suministrador

Número de modelo: PD-301

Marca comercial: TEAC

Parte responsable:

Por favor, póngase en contacto con nosotros a través de la siguiente dirección: <https://teac.jp/int/support/usa/contact>
Este dispositivo cumple con el apartado 15 de las Normas de la FCC. Su funcionamiento está sujeto a las dos siguientes condiciones: (1) este dispositivo no puede causar interferencias perjudiciales y (2) este dispositivo debe aceptar cualquier interferencia recibida, incluidas interferencias que puedan causar anomalías de funcionamiento.



Información

Se ha comprobado que este equipo cumple con los límites establecidos para los dispositivos digitales de Clase B, de acuerdo con el apartado 15 de las Normas de la FCC. Estos límites están diseñados para proporcionar una protección razonable contra interferencias perjudiciales en instalaciones residenciales. Este equipo genera, utiliza y puede irradiar energía de radiofrecuencia y, si no se instala y se utiliza de acuerdo con las instrucciones, puede causar interferencias perjudiciales en las comunicaciones por radio. Sin embargo, no se puede garantizar que dichas interferencias no se produzcan en instalaciones particulares. Si este equipo causa interferencias perjudiciales en la recepción de radio o televisión, que se comprueban apagando y encendiendo el equipo, se recomienda al usuario que intente corregirla mediante una o varias de las siguientes medidas:

- Reoriente o recolocque el equipo y/o la antena receptora.
- Aumente la separación entre el equipo y el receptor.
- Conecte el equipo a una toma de electricidad situada en un circuito eléctrico diferente al del receptor.
- Consulte al distribuidor o solicite ayuda a un técnico de radio/TV con experiencia.

PRECAUCIÓN

Cualquier cambio o modificación efectuada en este equipo que no haya sido expresamente aprobada por la parte responsable del cumplimiento de los requisitos exigidos podría invalidar el derecho del usuario a utilizar el equipo.

Para consumidores europeos

Deshacerse de aparatos eléctricos, electrónicos, pilas/baterías y acumuladores

- (a) Todos los aparatos eléctricos y electrónicos, y pilas/baterías y acumuladores gastados, deben ser eliminados separados del resto de basura común y únicamente en los “puntos limpios” o bajo los procedimientos especificados por el gobierno o autoridades municipales locales.
- (b) Con la eliminación correcta de los equipos eléctricos y electrónicos, y de pilas/baterías y acumuladores gastados, estará ayudando a conservar recursos muy valiosos y a evitar los posibles efectos negativos en la salud humana y en el medio ambiente.
- (c) La eliminación incorrecta de los equipos eléctricos y electrónicos, y pilas/baterías y acumuladores, puede producir efectos muy dañinos en el medio ambiente y en la salud humana a causa de las sustancias peligrosas que pueden encontrarse en estos equipos.
- (d) El símbolo de Eliminación de Aparatos Eléctricos y Electrónicos (WEEE en inglés), identificado por cubos de basura con ruedas tachados, indican que los equipos eléctricos y electrónicos, y las pilas/baterías y acumuladores, deben ser eliminados de forma totalmente independiente con respecto a la basura doméstica.
- Si una pila/batería o un acumulador contienen más cantidad de los valores especificados de plomo (Pb) y/o cadmio (Cd) según está definido en la Directiva relativa a baterías (UE) 2023/1542, entonces los símbolos químicos correspondientes a estos elementos estarán indicados debajo del símbolo WEEE.
- (e) Existen sistemas para la eliminación y recogida a disposición del usuario final. Si necesita más información sobre cómo deshacerse de aparatos eléctricos y electrónicos antiguos, así como de pilas/baterías y acumuladores, póngase en contacto con su ayuntamiento, con la correspondiente empresa del servicio de recogida de residuos o con el establecimiento donde adquirió ese aparato.



Modelo para el Espacio Económico Europeo (EEE)



Por la presente comunicación, TEAC Corporation declara que este tipo de equipo de radio cumple con los requisitos de la Directiva 2014/53/UE, y de las restantes directivas de la Unión Europea y reglamentos de la Comisión.

El texto completo de la declaración de conformidad con la normativa de la UE está disponible en la siguiente dirección de Internet (por favor, utilice el correo electrónico para ponerse en contacto con nosotros):

<https://teacsupport.aqipa.com/>

Índice

Gracias por elegir TEAC.

Lea detenidamente este manual para obtener el mejor rendimiento posible de esta unidad. Después de leerlo, guárdelo en un lugar seguro para futuras consultas.

INSTRUCCIONES IMPORTANTES DE SEGURIDAD	90
Accesorios incluidos	94
Antes de su utilización	94
Web internacional de TEAC	94
Notas sobre los discos	95
Notas sobre las unidades flash USB	96
Nombres y funciones de las partes (unidad principal)	97
Conexiones	98
Uso del mando a distancia	99
Nombres y funciones de las partes (mando a distancia) ..	100
Funcionamiento básico	102
Información de la pantalla	104
Escuchar archivos de un CD o una unidad flash USB	105
Escuchar la radio de FM	112
RDS (solo modelo para Europa)	114
Ajustes de configuración	116
Solución de posibles fallos	118
Especificaciones	119

- En caso de una avería o fallo del Producto producida por una cinta u otro soporte (a los que denominaremos, en general, "Soporte") que utilice, la posible reparación no quedará cubierta por la garantía del Producto si no que será considerada como reparación general.

- Le recomendamos que evite utilizar Soportes que no hayan sido utilizados durante mucho tiempo o que hayan sido usados excesivamente o aquellos con muescas, manchas, que estén pegajosos, doblados, rayados o rotos.
- TEAC nunca se hará responsable de los posibles daños causados por los Soportes, incluyendo (pero sin limitación alguna) a los daños o roturas del Producto o del Soporte, los posibles enganches de cintas en el Producto y/o la pérdida de datos tanto completa como parcial que se pueda producir por el uso de este tipo de Soportes. Esto mismo es aplicable a los daños emergentes como pueden ser pérdida de ingresos, daños indirectos o lucro cesante, y/o daños especiales.

Es recomendable que tome las medidas adecuadas para prevenir una posible pérdida de datos inesperada y que tenga a mano el Acta de derechos de autor de su país o región.

Accesorios incluidos

Compruebe que todos los accesorios enumerados a continuación están incluidos en la caja.

Por favor, póngase en contacto con el establecimiento donde adquirió esta unidad en caso de que alguno de estos accesorios falte o haya sufrido desperfectos durante el transporte.

Adaptador de corriente (GPE015A-120125-D) × 1

Cable de corriente para el adaptador de corriente × 1

Cable de audio RCA × 1

Mando a distancia (RC-1323) × 1

Antena de FM × 1

Manual del usuario (este documento) × 1

- Consulte la página 121 si desea información sobre la garantía.

Antes de su utilización

Precauciones de emplazamiento

- No coloque la unidad en entornos donde la temperatura sea alta, como por ejemplo donde reciba luz solar directa o cerca de una fuente de calor, ni tampoco sobre un amplificador o cualquier otro dispositivo que genere calor. Si lo hace, puede causar que se decolore, se deforme o se estropee.

Mantenimiento

Limpie la suciedad de la cubierta superior y del resto de paneles con un paño suave que haya sido ligeramente humedecido con un líquido limpiador neutro diluido.

No utilice toallitas con tratamientos químicos, disolvente o sustancias similares porque pueden dañar la superficie de esta unidad.

Por seguridad, desconecte el cable de corriente de la toma de electricidad antes de proceder a la limpieza.

Web internacional de TEAC

Las actualizaciones correspondientes a esta unidad se pueden descargar desde la web internacional de TEAC:

<https://teac.jp/int/>

Haga clic en "LANGUAGE" en la parte superior derecha de la pantalla y seleccione el idioma que desee para acceder a la página en el idioma correspondiente.

Tipos de discos que pueden reproducirse en esta unidad

Discos CD (12 cm) con el logo "Compact Disc Digital Audio"



- Este logo aparece en las etiquetas y cajas de los discos.
- Esta unidad no puede reproducir discos CD de 8 cm.

Discos CD-R y CD-RW correctamente grabados y finalizados en formato de CD Audio.

Discos CD-R grabados con archivos MP3 o WMA y finalizados.

- Esta unidad no admite discos multisesión.

Esta unidad no puede reproducir discos que no sean los mencionados anteriormente.

⚠ Si intenta reproducir otros tipos de discos con esta unidad, pueden producirse ruidos a alto volumen capaces de dañar los altavoces o afectar a sus oídos. Nunca intente reproducir otros tipos de discos distintos a los mencionados más arriba.

- Archivos WMA
Esta unidad no es compatible con los formatos Windows Media Audio Professional (WMA Pro) y Windows Media Audio Lossless (WMA Lossless).
- Dependiendo de la calidad del disco y las condiciones de la grabación, podría no ser posible la reproducción.
- Esta unidad no puede leer ni reproducir los siguientes tipos de discos:
 - Discos Vídeo CD
 - Discos Super Audio CD
 - Discos DVD Vídeo
 - Discos DVD Audio
 - Discos DVD-ROM

⚠ Si carga un disco DVD Vídeo, DVD Audio, DVD-ROM o similar en esta unidad, la unidad intentará reproducirlo y girará a alta velocidad. Si carga accidentalmente un disco de este tipo, el disco podría dañarse, por lo que no intente quitarlo hasta que deje de girar.

- Esta unidad podría no ser capaz de reproducir correctamente discos CD con control de copia, discos duales u otros discos CD especiales que no cumplan el estándar del Libro Rojo del CD. No se puede garantizar ni el

funcionamiento ni la calidad del sonido si se utilizan discos especiales en esta unidad. En caso de que la reproducción de un disco especial cause problemas, póngase en contacto con quien le vendió el disco.

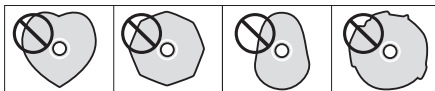
Discos CD-R/CD-RW

Esta unidad puede reproducir discos CD-R/CD-RW que hayan sido grabados en formato de CD Audio (CD-DA) y discos CD-R que contengan archivos en formato MP3 o WMA.

- Para poder reproducir un disco creado en una grabadora de CD, primero asegúrese de que está finalizado.
- Dependiendo de la calidad del disco y de las condiciones de grabación, podría no ser posible la reproducción. Para más información, consulte el manual de instrucciones del dispositivo que esté utilizando.
- Si tiene dudas sobre el manejo de un disco CD-R o CD-RW, póngase en contacto con el fabricante o vendedor del disco directamente.

Precauciones de uso

- No utilice discos rotos o agrietados porque pueden dañar la unidad.
- No coloque etiquetas ni otros materiales en los discos. No utilice discos que hayan tenido pegada cinta adhesiva, pegatinas o materiales similares aunque se les haya quitado, ya que pueden quedar restos pegajosos en la superficie del disco. También deberá evitar los discos que tengan pegatinas con restos de pegamento en sus bordes, por ejemplo. Si utiliza tales discos en esta unidad, podrían quedarse pegados o dañar la unidad.
- Cuando escriba algo en el lado de la etiqueta de un disco, utilice un rotulador de tinta permanente con punta de fieltro. Si utiliza un bolígrafo, lápiz o pluma con punta dura, puede dañar el disco y hacerlo irreproducible.
- Nunca utilice estabilizadores de CD de los que se pueden comprar en establecimientos comerciales, ya que pueden hacer que el disco sea irreproducible o dañar la unidad.
- Nunca utilice discos con formas irregulares, incluyendo los de forma de corazón y los octogonales, ya que pueden dañar la unidad.



- Para sacar un disco de su caja, sujételo por los bordes a la vez que presiona hacia abajo sobre el centro de la caja. No toque la cara del disco que tiene los datos grabados (el lado sin rotular).

Si un disco no se carga correctamente

Si un disco se queda atrapado o tiene problemas para introducirlo, no lo empuje ni lo fuerce. Pulse el botón EJECT (▲) y saque el disco antes de intentar volver a meterlo. Empujar un disco forzándolo puede dañar la unidad.

Cómo guardar los discos

- Los discos deben guardarse en su caja cuando no se estén utilizando, ya que de otro modo pueden deformarse o rayarse.
- No deje los discos en sitios donde estén expuestos directamente a la luz solar o muy húmedos o calurosos, ya que pueden deformarse o estropearse, convirtiéndose en irreproducibles.
- Los discos CD-R y CD-RW son más sensibles a los efectos del calor y de los rayos ultravioleta que los discos CD normales. Por ello, no debe dejarlos durante mucho tiempo en sitios donde estén expuestos directamente a la luz solar ni cerca de aparatos que generen calor, por ejemplo.
- Limpie siempre los discos antes de guardarlos. Si guarda un disco sin limpiar, en su próxima reproducción puede saltar o perder calidad de sonido.

Cómo limpiar los discos

- Si la cara del disco que contiene los datos codificados (el lado sin rotular) se ensucia con huellas de dedos o polvo, utilice un paño suave para limpiar su superficie desde el centro hacia los bordes.



- Nunca utilice productos limpiadores de discos, tratamientos antiestáticos, disolventes o sustancias químicas similares para limpiar los discos, ya que dichas sustancias pueden estropear su superficie.

Esta unidad puede utilizar unidades flash USB.*

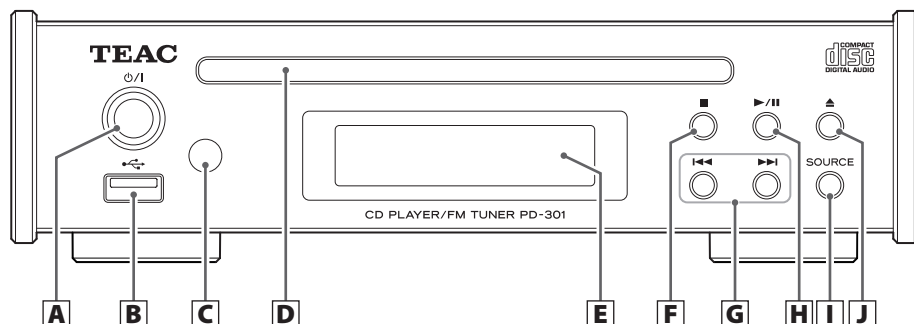
* Los puertos USB de esta unidad solo admiten unidades flash USB (también conocidas como "pen drives" o "lápiz USB" o "pinchos"). No admiten discos duros USB estándar.

- Compatible con unidades flash USB con formatos FAT16 y FAT32.
- Esta unidad no es compatible con concentradores (hubs) USB ni con dispositivos que actúen como distribuidores USB. Nunca conecte dichos dispositivos a esta unidad.

ATENCIÓN

- Si el soporte de almacenamiento conectado no es compatible, en la pantalla de esta unidad aparecerá "Media Error!" (error de soporte!).
- Esta unidad no puede reproducir archivos de audio que tengan protección de "copyright" (derechos de autor).
- No conecte ningún ordenador a los puertos USB de esta unidad.
No se puede introducir audio procedente de ordenadores a través de los puertos USB de esta unidad.
- Puede ocurrir que esta unidad no sea capaz de utilizar soportes de almacenamiento cargados en un lector de tarjetas USB.
- Dependiendo de la unidad flash USB y de su contenido, la lectura de los datos puede llevar un tiempo.
- Dependiendo de la unidad flash USB, esta unidad podría no ser capaz de leer sus datos correctamente o no suministrarle alimentación adecuadamente.
- Cuando utilice unidades flash USB, debe tener en cuenta que nuestra empresa no se responsabiliza en caso de que se pierdan o alteren datos, se estropee la unidad flash USB o se produzca cualquier otro daño.
- Recomendamos hacer una copia de seguridad de la información guardada en una unidad flash USB antes de utilizarla con esta unidad.
- Esta unidad no admite unidades flash USB con funciones de seguridad.

Nombres y funciones de las partes (unidad principal)



A Botón de reposo/encendido (⏻/⏻)

Pulse este botón para encender la unidad y para ponerla en reposo. Cuando la unidad está encendida, el anillo que rodea el botón se ilumina en azul.

- Cuando esta unidad está en modo de reposo, consume corriente de reposo. Por este motivo utilizamos el término "en reposo" y no "apagada".

B Puerto USB

Conecte aquí una unidad flash USB.

- No conecte el puerto USB de esta unidad a un ordenador o dispositivo similar. No se puede introducir audio procedente de ordenadores a través de este puerto USB.

C Receptor de señal del mando a distancia

Aquí se reciben las señales del mando a distancia. Cuando utilice el mando a distancia, apunte con él hacia aquí.

D Ranura de disco

Inserte aquí un disco. Una vez que lo haya introducido parcialmente, la unidad lo arrastrará automáticamente hacia dentro.

E Pantalla

En ella se muestra diversa información.

F Botón de parada (■)

Púlselo durante la reproducción para pararla.

Cuando la fuente de entrada es FM, se utiliza para cambiar entre el modo de frecuencias y el modo de presintonías.

G Botones de salto (⏮/⏭)

Se utilizan para saltar a la pista anterior o siguiente. Durante la reproducción, púlselo y manténgalo pulsado para buscar hacia atrás/hacia delante.

H Botón de reproducción/pausa (▶/⏸)

Púlselo con la reproducción parada o en pausa para comenzar la reproducción.

Utilícelo para poner en pausa la reproducción durante la misma.

I Botón SOURCE

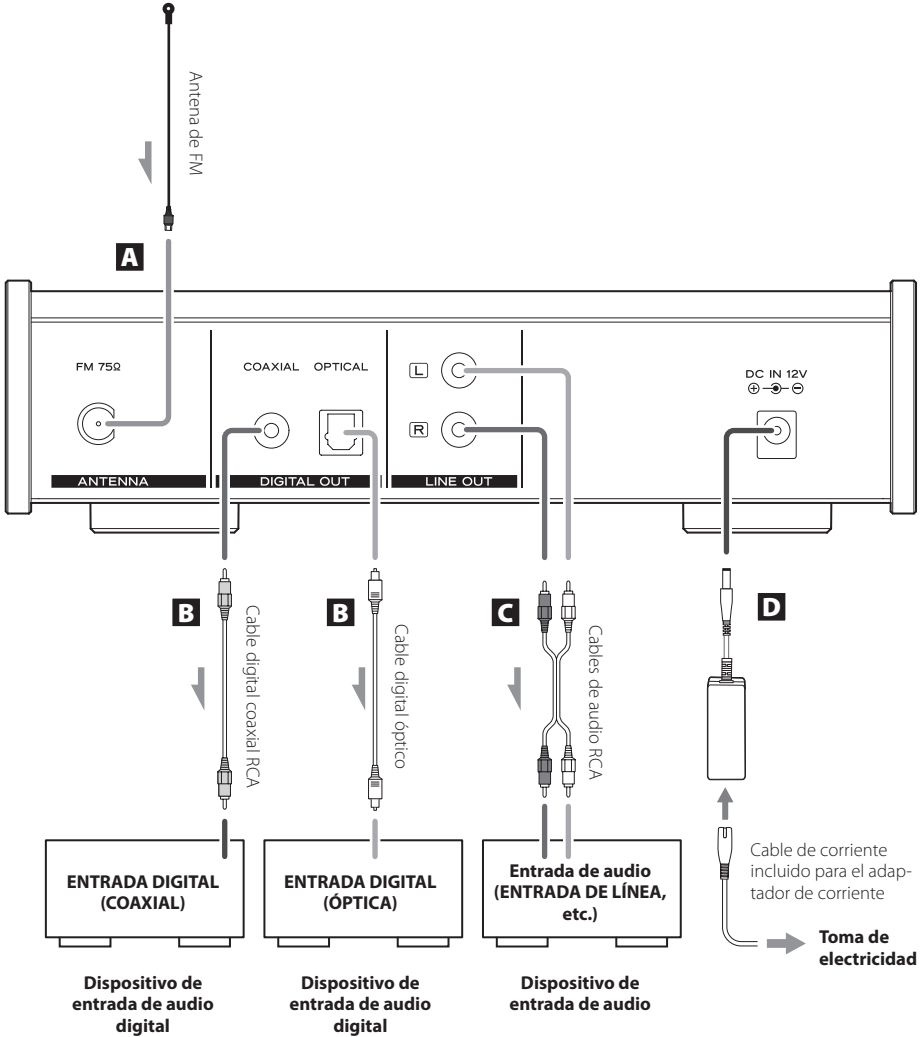
Utilice este botón para seleccionar la fuente de entrada.

J Botón de expulsión (⏏)

Púlselo para expulsar el disco parcialmente. Sujete el disco por los bordes y tire de él hacia afuera.

⚠ Una vez completadas todas las conexiones, enchufe el cable de corriente a la toma de electricidad.

- Lea las instrucciones de cada dispositivo que vaya a utilizar con esta unidad.
- No mezcle ni agrupe los cables de las conexiones con cables de corriente porque puede originarse ruido.
- Asegúrese de que todos los conectores están insertados correctamente.



A Antena de FM

Para recibir emisiones de FM, extienda esta antena y colóquela de modo que se obtenga la mejor recepción.

Si mueve la unidad, vuelva a reajustar la posición de la antena.

B Terminales de salida de audio digital

Por ellos sale el audio digital. Conéctelos a los terminales de entrada de audio de dispositivos que puedan recibir audio digital.

COAXIAL: cable digital coaxial RCA.

OPTICAL: cable digital óptico (TOS).

C Conectores de salida de audio analógico

Por ellos salen 2 canales de audio analógico. Conecte aquí un amplificador estéreo o unos altavoces autoamplificados.

Utilice cables de audio RCA para hacer estas conexiones. Conecte el terminal R (derecho) de esta unidad al terminal derecho (R) (o equivalente) del amplificador, y el terminal L (izquierdo) de esta unidad al terminal izquierdo (L) (o equivalente) del amplificador.

D Entrada de corriente continua (DC IN 12V)

Una vez completadas todas las conexiones, conecte el adaptador de corriente alterna GPE015A-120125-D a este terminal y conecte el cable de corriente del adaptador al adaptador.

A continuación, enchufe el cable de corriente del adaptador a una toma de electricidad.

⚠ No utilice ningún otro cable de corriente que no sea el incluido con esta unidad. El uso de otros cables de corriente pueden provocar fuego o una descarga eléctrica. Desenchufe el cable de corriente de la toma de electricidad cuando no vaya a utilizar la unidad durante un largo periodo de tiempo.

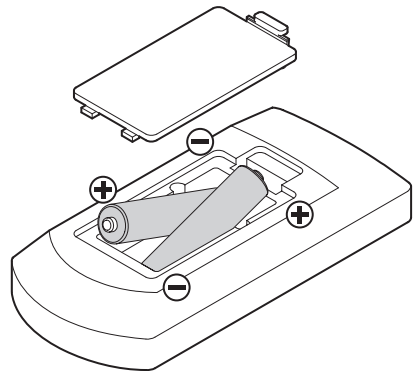
Precauciones de uso

⚠ Un mal uso de las pilas podría provocar que se rompan o que tengan fugas, y ello causar un incendio, lesiones u oxidación de materiales cercanos. Por favor, lea atentamente y observe las precauciones que encontrará en página 91.

- Cuando utilice el mando a distancia, apunte con él hacia el receptor de la señal del mando a distancia que hay en la unidad principal, a una distancia de 5 m o menos. No coloque obstáculos entre la unidad principal y el mando a distancia.
- El mando a distancia puede no funcionar si el receptor de la señal del mando a distancia que hay en la unidad principal está expuesto a la luz solar directamente o a una luz intensa. Si esto ocurre, intente mover de sitio la unidad.
- Lleve cuidado ya que el uso de este mando a distancia podría causar el funcionamiento involuntario de otros dispositivos que pueden ser controlados por rayos infrarrojos.

Instalación de las pilas

Quite la tapa de la parte posterior del mando a distancia e inserte dos pilas AAA en el compartimento con sus indicadores $\oplus$ y $\ominus$ orientados como se muestra en la figura. Vuelva a colocar la tapa.

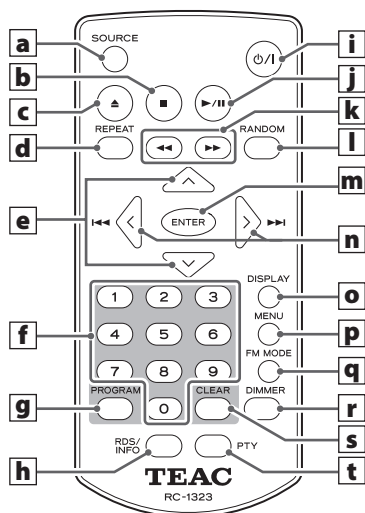


Cuándo cambiar las pilas

Si la distancia de funcionamiento del mando a distancia disminuye, las pilas están gastadas. En ese caso, reemplácelas por unas nuevas.

Deshágase de las pilas usadas de acuerdo con las instrucciones que aparezcan en ellas, o según los requisitos establecidos por las normas locales.

Nombres y funciones de las partes (mando a distancia)



Cuando tanto la unidad principal como el mando a distancia tienen botones con las mismas funciones, la instrucciones de este manual se refieren solo a uno de dichos botones, pero el otro se puede utilizar de la misma manera.

a Botón SOURCE

Use este botón para seleccionar la fuente de entrada.

b Botón de parada (■)

Púlselo durante la reproducción para pararla.

c Botón de expulsión (▲)

Púlselo para expulsar el disco parcialmente. Sujete el disco por los bordes y tire de él hacia afuera.

d Botón REPEAT

Utilícelo para la reproducción repetida.

e Botones de desplazamiento (▲/▼)

Cuando la fuente de entrada es USB y está activado el modo de carpetas, se utilizan para seleccionar carpetas. Cuando la fuente de entrada es FM, se utilizan para cambiar el número de presintonía.

f Botones numéricos

Se utilizan, por ejemplo, para seleccionar y programar pistas.

g Botón PROGRAM

Cuando la fuente de entrada es CD, se utilizan con la reproducción programada.

Cuando la fuente de entrada es FM, se utilizan con las presintonías de emisoras de radio.

h Botón RDS/INFO

Cuando la fuente de entrada es FM, utilice este botón para seleccionar un modo RDS. ignore "INFO" en el mando a distancia (la función INFO no está operativa en esta unidad). Este botón no tiene ninguna función en el modelo para EE. UU./Canadá.

i Botón de reposo/encendido (⏻/⏻)

Pulse este botón para encender la unidad y para ponerla en reposo. Cuando la unidad está encendida, el anillo que rodea el botón de reposo/encendido de la unidad principal se ilumina en azul.

j Botón de reproducción/pausa (▶/II)

Púlselo con la reproducción parada o en pausa para comenzar o reanudar la reproducción.

Úselo durante la reproducción para ponerla en pausa.

k Botones de búsqueda (◀◀/▶▶)

Cuando la fuente de entrada es CD/USB, pulsándolos durante la reproducción se busca hacia delante/hacia atrás.

Cuando la fuente de entrada es FM, pulsándolos se inicia la selección de emisoras automática.

l Botón RANDOM

Se utiliza para la reproducción aleatoria.

m Botón ENTER

Se utiliza para confirmar después de introducir un número de pista.

n Botones de salto (I◀◀/▶▶I)

Botones de dirección (</>)

Cuando la fuente de entrada es CD/USB y está activado el modo de archivos, se utilizan para saltar a la pista anterior o siguiente.

Cuando la fuente de entrada es USB y está activado el modo de carpetas, se usan para seleccionar archivos.

Si la fuente de entrada es FM, se utilizan para disminuir/incrementar la frecuencia recibida.

Pulse y mantenga pulsado durante al menos un segundo para comenzar automáticamente la selección de emisoras.

o Botón DISPLAY

Púlselo para cambiar la información de la pantalla.

p Botón MENU

Púlselo para entrar en el modo de ajustes de configuración.

q Botón FM MODE

Cuando se reciba una emisión de FM, utilícelo para cambiar entre estéreo y mono.

r Botón DIMMER

Se utiliza para ajustar el brillo de la pantalla.

s Botón CLEAR

Se utiliza para borrar pistas programadas.

t Botón PTY

Se usa para buscar emisoras por tipo de programa (PTY).

Este botón no tiene ninguna función en el modelo para EE. UU./Canadá.

Selección de la fuente de entrada

- 1 Pulse el botón de encendido/reposo (⏻/⏻) para encender la unidad.**

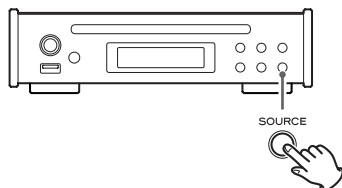
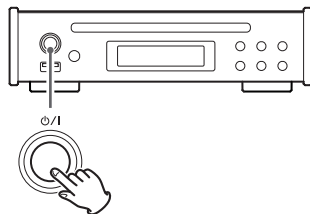
Cuando la unidad está encendida, el anillo que rodea el botón se ilumina en azul.

PRECAUCIÓN

Para evitar ruidos repentinos a alto volumen, encienda el amplificador lo último.

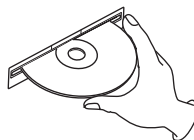
- 2 Pulse el botón SOURCE para seleccionar la fuente de entrada.**

Pulse el botón SOURCE repetidamente para recorrer cíclicamente las entradas como se muestra a continuación:



Reproducción de un CD

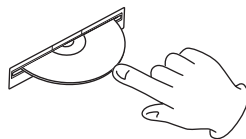
- 1 Sujete el disco por sus bordes con el lado rotulado hacia arriba e introdúzcalo parcialmente.**



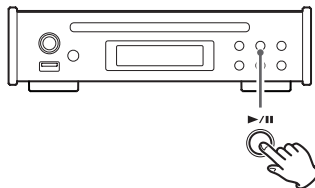
- 2 Empuje el disco hacia dentro hasta justo antes de que desaparezca. Será arrastrado automáticamente hacia el interior de la ranura.**

Si un disco se queda atrapado o tiene problemas para introducirlo, no lo empuje ni lo fuerce. Pulse el botón EJECT (▲) y saque el disco antes de intentar volver a meterlo. Empujar un disco forzándolo puede dañar la unidad.

- La fuente de entrada cambiará a CD (a menos que esté activa la reproducción por USB).

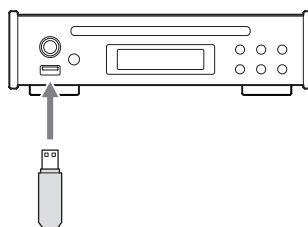


- 3 Pulse el botón de reproducción/pausa (▶/⏸).**



Reproducción de archivos desde una unidad flash USB.

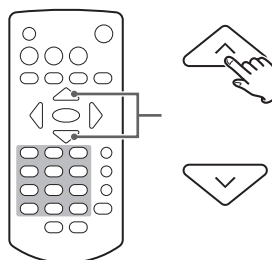
- 1** Conecte una unidad flash USB al puerto USB.
- 2** Utilice los botones de salto (|◀◀/▶▶|) seleccionar una pista.
- 3** Pulse el botón de reproducción/pausa (▶/II).



Selección de emisoras de FM

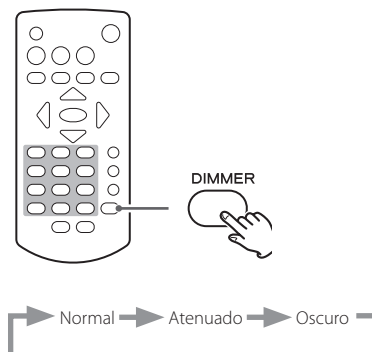
Utilice los botones de desplazamiento del mando a distancia (^/∨) para seleccionar emisoras presintonizadas.

Si las emisoras actualmente presintonizadas no coinciden con emisoras existentes en su zona, siga las instrucciones que encontrará en "Ajuste automático de presintonías" en la página 113.



Atenuador

Pulse el botón DIMMER del mando a distancia para recorrer cíclicamente los niveles de brillo de la pantalla.



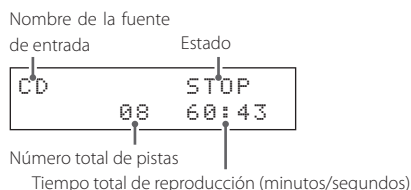
El nombre de la fuente de entrada aparece en la parte superior izquierda de la pantalla.

Pulse el botón DISPLAY para cambiar la información que aparece en la pantalla.

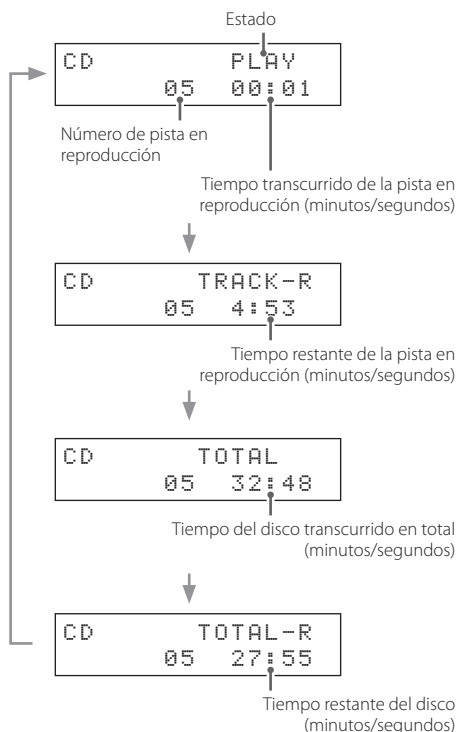
- Los contenidos de pantalla que se muestran a continuación son ejemplos.

CD Audio

Reproducción parada



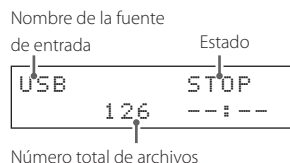
Reproducción en marcha



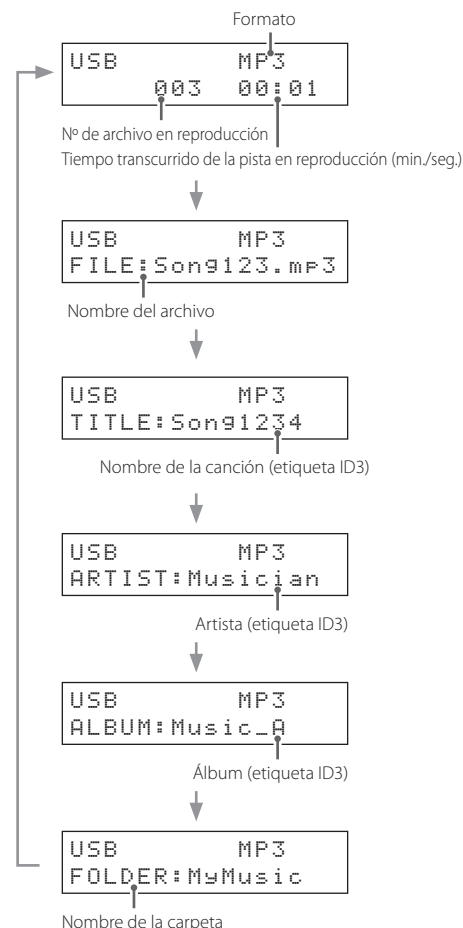
Disco/unidad flash USB con archivos de audio

Los siguientes ejemplos corresponden a una unidad flash USB.

Reproducción parada



Reproducción en marcha



- Un máximo de 62 caracteres, incluida la cabecera, recorrerán la pantalla para indicar el nombre de carpeta, nombre de archivo y etiquetas ID3 (título, artista, álbum).

Escuchar archivos de un CD o una unidad flash USB

Los formatos que se pueden reproducir en cada uno de estos tipos de soporte son los siguientes:

CD: CD-DA (CD Audio), MP3, WMA.

USB: WAV, MP3, WMA, AAC.

Comenzar la reproducción

Pulse el botón de reproducción/pausa (▶/||).

Durante la reproducción, en la línea superior de la pantalla aparece PLAY.

Poner en pausa la reproducción

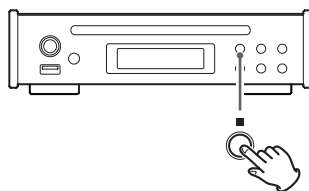
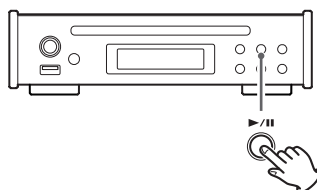
Pulse el botón de reproducción/pausa (▶/||) para poner la reproducción en pausa.

Para reanudar la reproducción desde donde se puso en pausa, pulse otra vez el botón de reproducción/pausa (▶/||).

Cuando la reproducción está en pausa, en la línea superior de la pantalla aparece PAUSE.

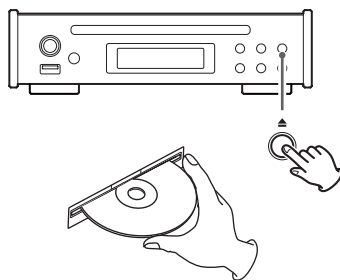
Parar la reproducción

Pulse el botón de parada (■) para parar la reproducción.



Expulsar un disco

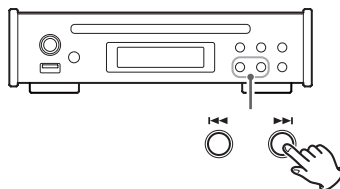
Con la reproducción parada, pulse el botón de expulsión (▲). El disco será expulsado parcialmente. Sujételo por los bordes y tire hacia afuera.



Saltar para buscar una pista

Pulse uno de los botones de salto (◀◀/▶▶) para saltar a la pista anterior o siguiente.

- Durante la reproducción, pulse el botón ◀◀ una vez para volver al principio de la pista actual. Si quiere reproducir una pista anterior, pulse el botón ◀◀ repetidamente hasta llegar a la pista que desee.
- Durante la reproducción programada, se reproducirán las pistas de antes y de después en el programa.



Buscar una parte de una pista

Pulse y mantenga pulsado un botón de salto (◀◀/▶▶) para buscar hacia atrás/hacia delante. Suéltelo cuando encuentre la parte que desee.

Pulse uno de los botones de búsqueda (◀/▶) del mando a distancia para buscar hacia delante/hacia atrás. Suéltelo cuando encuentre la parte que desee.

Reproducción directa utilizando los números de pista (solo CD Audio)

Además de utilizar los botones de salto (◀◀/▶▶) para seleccionar pistas, también puede introducir un número de pista y comenzar la reproducción. Durante la reproducción o con ella parada, puede usar los botones numéricos del mando a distancia para seleccionar una pista por su número.

- Durante la reproducción programada o aleatoria no se pueden utilizar los botones numéricos para seleccionar pistas.

Seleccionar y reproducir pistas en un CD/USB

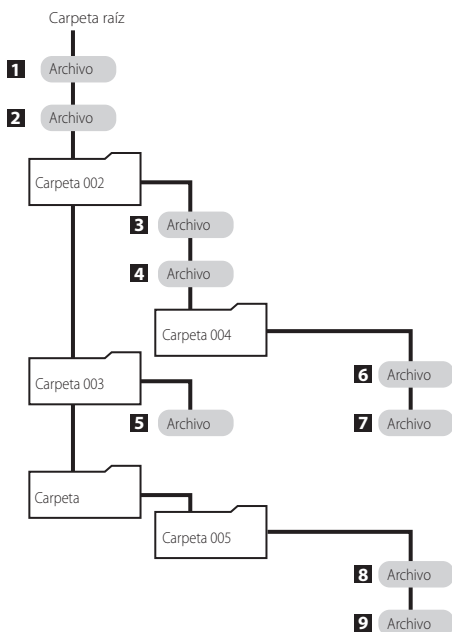
La selección de pistas de un CD se realiza bajo el modo de archivos.

La selección de pistas de una unidad flash USB se puede realizar bajo el modo de archivos o bajo el modo de carpetas.

- Consulte "USB Mode (modo USB)" en la página 116 para ver cómo se seleccionan los modos. Cuando la fuente de entrada sea USB, también puede pulsar y mantener pulsado el botón de parada (■) para cambiar el modo.

Modo de archivos (File)

En este modo se pueden seleccionar archivos tratando por igual todas las carpetas, sin tener en cuenta el nivel de cada carpeta.



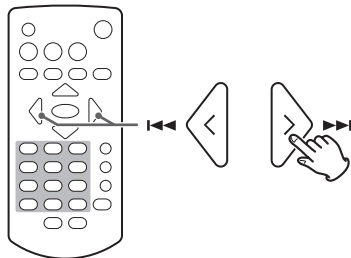
Ejemplo: Introducción del número de pista 7



Ejemplo: Introducción del número de pista 23



Selección de archivos

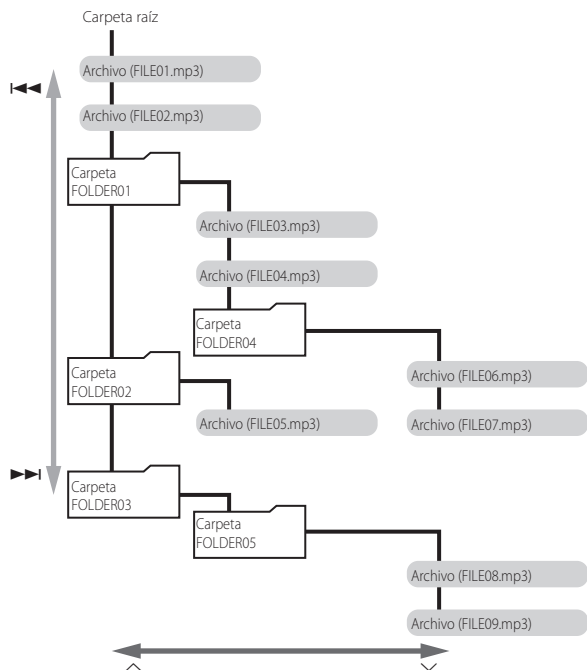


1 – 9 es el orden de reproducción cuando se carga un CD o se conecta una unidad flash USB.

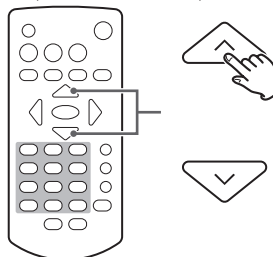
Modo de carpetas (Folder)

Se pueden seleccionar archivos y carpetas siguiendo la jerarquía de carpetas.

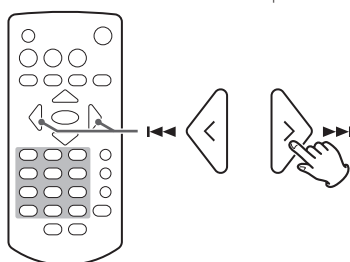
En el modo de carpetas, aparece un icono de carpeta  en la parte inferior derecha de la pantalla. También aparece el icono de carpeta  antes del nombre de una carpeta.



Desplazamiento entre carpetas



Selección de archivos dentro de carpetas



Escuchar archivos de un CD o de una unidad flash USB (continuación)

Ejemplos de funcionamiento del modo de carpetas

- En estos ejemplos se utiliza la estructura de archivos/carpetas mostrada en la ilustración de la página anterior.

NOTA

Cuando la fuente de entrada se cambia a USB, no se muestra el nombre de archivo, pero se selecciona FILE01.mp3.

Seleccionar archivos/carpetas del mismo nivel

Pulse el botón de salto (▶▶) para seleccionar archivos y carpetas como se muestra en las ilustraciones a continuación. Pulse el botón de salto (◀◀) para seleccionarlas en el orden inverso.

- Los contenidos de pantalla que se muestran a continuación son ejemplos:

```
USB      MP3
      001  STOP  [icon]
```

Número de archivo en la carpeta seleccionada

```
USB FILE02.mp3
      001  STOP  [icon]
```

```
USB FOLDER01
      001  STOP  [icon]
```

```
USB FOLDER02
      001  STOP  [icon]
```

```
USB FOLDER03
      001  STOP  [icon]
```

```
USB FILE01.mp3
      001  STOP  [icon]
```

El icono [icon] no está parpadeando.

El icono [icon] está parpadeando.

Cambiar de nivel de carpetas

Seleccione una carpeta y pulse el botón de desplazamiento (✓) o el botón ENTER para mostrar los archivos/carpetas que hay dentro de la carpeta actual.

Pulse el botón de desplazamiento (^) para subir un nivel y que se muestren los archivos/carpetas que hay dentro de esa carpeta.

```
USB FOLDER01
      001  STOP  [icon]
```

```
USB FILE03.mp3
      001  STOP  [icon]
```

Comenzar la reproducción

Cuando aparezca un archivo en la línea superior, pulse el botón de desplazamiento (✓) o el botón ENTER para seleccionar dicho archivo y comenzar su reproducción.

```
USB FILE04.mp3
      001  STOP  [icon]
```

```
USB      MP3
      002  00:010
```

NOTA

- El icono de carpeta parpadea cuando se selecciona un archivo/carpeta.
- Para cancelar la selección de archivos/carpetas, pulse el botón CLEAR.

Modo de salto

En el modo de carpetas, pulse y mantenga pulsado el botón ENTER durante cinco segundos para activar el modo de salto. "S" aparecerá en el extremo derecho de la línea superior.

Ejemplo de pantalla en el modo de salto

```
USB      001  STOP  S
```

En este modo, los botones de salto (◀◀/▶▶) no seleccionan archivos. En su lugar, puede utilizarlos para saltar, lo que permite la reproducción sin pulsar el botón ENTER.

Pulse y mantenga pulsado el botón ENTER durante cinco segundos otra vez para volver al modo de carpetas normal (desaparecerá la "S").

NOTA

- El número de archivo que se muestra es el número de archivo dentro de la carpeta seleccionada.

Reproducción repetida

Cada vez que pulse el botón REPEAT, el modo de repetición cambiará como se muestra en la ilustración de la derecha.

- Durante la reproducción programada no es posible la repetición repetida.
- La reproducción repetida no se puede utilizar al mismo tiempo que la reproducción aleatoria.
- Cuando está activada la opción "Folder" (modo de carpetas), tanto "RP-FOLDER" (repetir una carpeta) como "RP-ALL" (repetir todos los archivos) funcionarán de la misma manera, repitiendo únicamente los archivos de la carpeta.

Para repetir la reproducción de todos los archivos de la unidad flash USB, cambie el modo de funcionamiento a "File" (modo de archivos) y, a continuación, establezca el modo de repetición en "RP-ALL" (repetir todos los archivos) antes de iniciar la reproducción.

Repetir una pista ("RP-ONE")

Repetir una carpeta ("RP-FOLDER")*

Repetir todas las pistas ("RP-ALL")

Reproducción normal

*"RP-FOLDER" (repetir una carpeta) solo aparece en el modo de carpetas USB.

Reproducción aleatoria

Pulse el botón RANDOM para activar/desactivar la reproducción aleatoria. Con ella activada, las pistas del disco se reproducirán en orden aleatorio.

La reproducción no se parará hasta que pulse el botón de parada (■).

- La reproducción aleatoria no se puede utilizar al mismo tiempo que la reproducción repetida.

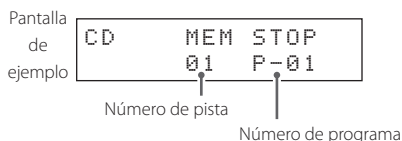
Reproducción programada

La reproducción programada solo es posible con discos CD Audio.

Uso de la reproducción programada

1 Pulse el botón PROGRAM.

MEM y el número de pista parpadearán.



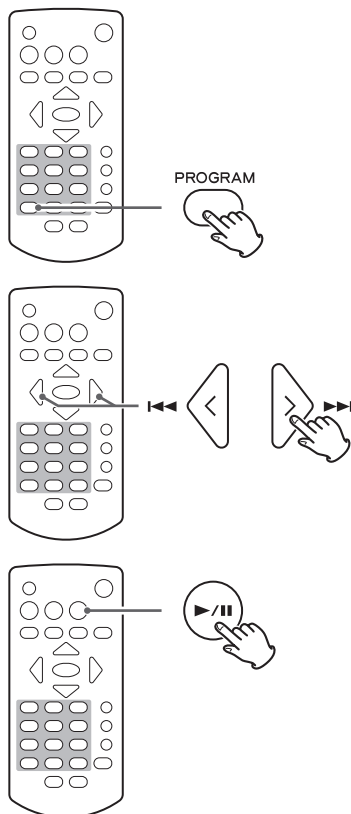
- Púlselo con la reproducción parada.

2 Utilice los botones de salto (◀◀/▶▶) o los botones numéricos para seleccionar una pista y pulse el botón PROGRAM para añadirla al programa.

Puede añadir al programa todas las pistas que desee.

- Si no se lleva a cabo ninguna acción durante 20 segundos, la programación se cancelará.

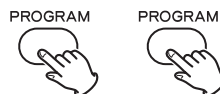
3 Pulse el botón de reproducción/pausa (▶/||) para comenzar la reproducción.



Comprobar y cambiar el programa

1 Pulse el botón PROGRAM dos veces.

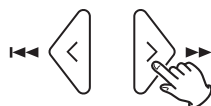
MEM y el número de programa parpadearán.



2 Utilice los botones de salto (◀◀/▶▶) para cambiar el número de programa y comprobar los números de pista.

Cambiar el programa

1. Muestre en pantalla la pista que desee cambiar.
2. Pulse el botón PROGRAM.
3. Seleccione una pista y pulse el botón PROGRAM para añadirla al programa en el lugar de la pista original.



Eliminar una pista del programa

1. Muestre en pantalla la pista que desee eliminar.
2. Pulse el botón CLEAR.

3 Pulse el botón de reproducción/pausa (▶/II) para comenzar la reproducción programada.



Añadir pistas a un programa

1 Pulse el botón PROGRAM.

MEM y el número de programa parpadearán.

2 Seleccione una pista y pulse el botón PROGRAM para añadirlo al programa.

Repita el proceso para añadir tantas pistas como desee.

3 Pulse el botón de reproducción/pausa (▶/II) para comenzar la reproducción del programa.

Eliminar todas las pistas de un programa

1 Con la reproducción parada, pulse y mantenga pulsado el botón CLEAR.

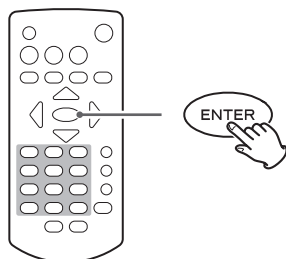
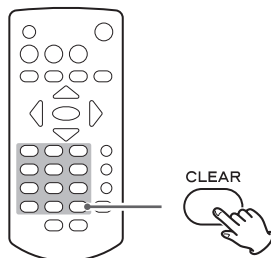
2 Cuando aparezca "Program clear?" (¿borrar programa?), pulse el botón ENTER para eliminar todas las pistas del programa.

CD	STOP
Program Clear?	

Para cancelar la operación, pulse el botón de parada (■) o el botón CLEAR.

Cualquiera de las siguientes operaciones también borrarán todas las pistas del programa:

- Expulsar el disco.
- Pulsar el botón de reposo/encendido (⏻/⏻) de la unidad para ponerla en modo de reposo.



Modo de FM

Pulse el botón FM MODE para cambiar entre modo de recepción en estéreo y en mono.

Stereo (Estéreo)

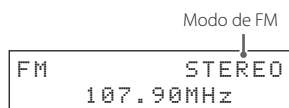
Se reciben en estéreo las emisiones de FM estéreo.

- Si la recepción no es buena, cambie a Mono.

Mono

Se reciben las emisiones de FM mono. Cuando la recepción de emisiones de FM estéreo no sea buena, seleccione este modo. El sonido se hará monoaural, pero también se reducirá el ruido y mejorará el sonido.

Pantalla de ejemplo



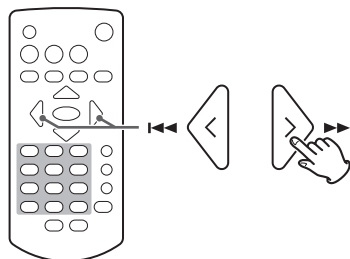
Cambiar la frecuencia recibida

Cuando en la pantalla se muestre un número de presintonía, pulse el botón de parada (■) para activar el modo de selección de frecuencias.

Aumentar la frecuencia recibida

Pulse el botón de dirección (>) para incrementar en un paso la frecuencia recibida.

Pulse el botón de búsqueda (▶▶) para buscar automáticamente frecuencias más altas.



Disminuir la frecuencia recibida

Pulse el botón de dirección (<) para disminuir en un paso la frecuencia recibida.

Pulse el botón de búsqueda (◀◀) para buscar automáticamente frecuencias más bajas.

Cambiar la frecuencia desde la unidad principal

Pulse el botón de parada (■) y utilice los botones de salto (◀◀/▶▶) en el modo de selección de frecuencias (no se muestra en pantalla el número de presintonía).

Cuando aparezca en la pantalla un número de presintonía, utilice los botones de salto (◀◀/▶▶) para cambiar el número de presintonía.

Emisoras presintonizadas

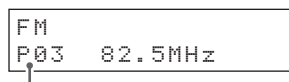
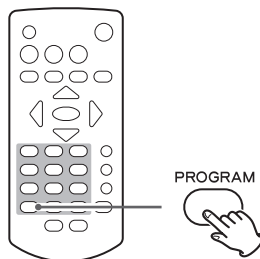
En esta unidad se pueden presintonizar hasta un máximo de 20 emisoras de FM.

Ajuste automático de presintonías

Pulse y mantenga pulsado el botón PROGRAM del mando a distancia. La unidad buscará automáticamente emisoras de radio y las ordenará empezando por la presintonía 01 (P01). La unidad dejará automáticamente de añadir presintonías cuando haya añadido 20 o cuando haya terminado de buscar en todo el rango de frecuencias de recepción.

Ajuste manual de presintonías

- 1** Sintonice la emisora que desee añadir como presintonía.
- 2** Pulse el botón PROGRAM.
- 3** Utilice los botones de dirección (</>) para seleccionar el número donde se va a presintonizar y pulse el botón ENTER.



Número de presintonía

RDS (solo modelo para Europa)

El Sistema de Datos por Radio (RDS) es un servicio de radiodifusión que permite a las emisoras enviar información adicional junto con las señales de la programación de radio convencional.

- El sistema RDS solo funciona en la banda de frecuencias de FM de Europa.

1 Sintonice una emisora de FM con RDS (consulte la página 112).

2 Pulse el botón RDS del mando a distancia.

Pulsando el botón RDS se recorren cíclicamente los modos RDS como sigue:

Servicio de programa (PS)

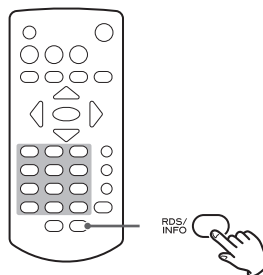
Cuando se selecciona "Servicio de programa", "PS" aparece en la pantalla a la derecha de "FM", y después aparece el nombre del servicio de programa o el nombre de la emisora. Si no hay datos de servicio de programa, aparece la frecuencia.

Tipo de programa RDS (PTY)

Cuando se selecciona "Tipo de programa RDS", "PTY" aparece en la pantalla a la derecha de "FM", y después aparece el tipo de programa.

Texto por radio RDS (RT)

Cuando se selecciona "Texto por radio RDS", "RT" aparece en la pantalla a la derecha de "FM", y después aparece información de la emisora hasta un máximo de 64 caracteres.



Búsqueda PTY

Se pueden buscar emisoras por el tipo de programa. Esta función está disponible solo a través de los servicios RDS de las emisoras de FM de Europa.

1 Pulse el botón PTY.

"PTY SEARCH" (búsqueda PTY) aparecerá en la pantalla.

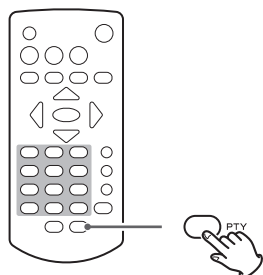
2 Utilice los botones de dirección (</>) para seleccionar el programa deseado.

Puede elegir entre 31 tipos de programas (PTY).

3 Pulse el botón ENTER.

La unidad comenzará la búsqueda.

- Una vez encontrado el tipo de programa que haya seleccionado, finalizará la búsqueda y aparecerá en la pantalla el tipo de programa.
- Si durante la búsqueda PTY no se encuentra ningún tipo de programa que coincida con el tipo seleccionado, se detendrá en la frecuencia desde la que empezó la búsqueda.
- Si desea detener la búsqueda, pulse el botón PTY.



FM	PTY SEARCH
< NEWS >	

NEWS:

Noticias breves, convocatorias, opinión pública, informes, situaciones reales.

AFFAIRS:

Sugerencias, incluyendo mensajes prácticos al margen de las noticias, documentos de actualidad, debates y análisis.

INFO:

Información útil o de referencia, tales como previsión meteorológica, guías de consumo y consejos médicos.

SPORT:

Programas relacionados con el deporte.

EDUCATE:

Información educativa y cultural.

DRAMA:

Todo tipo de series dramáticas y conciertos.

CULTURE:

Todos los aspectos de la cultura nacional o local, incluyendo actos religiosos, filosofía, ciencias sociales, lenguaje y teatro.

SCIENCE:

Programas sobre ciencias naturales y tecnología.

VARIED:

Programas populares como concursos, noticias de entretenimiento, entrevistas, comedias y sátiras.

POP M:

Programas sobre música comercial, popular, incluyendo listas de éxitos y superventas de discos, etc.

ROCK M:

Música moderna generalmente compuesta e interpretada por jóvenes.

EASY M:

Canciones populares que normalmente duran menos de cinco minutos.

LIGHT M:

Música clásica, instrumental, coral y ligera, dirigida a un público generalista.

CLASSICS:

Música orquestal, grandes óperas y sinfonías, música de cámara, etc.

OTHER M:

Otros estilos musicales, incluyendo rhythm & blues y reggae.

WEATHER:

Información y previsión meteorológica.

FINANCE:

Información financiera, comercial y bursátil.

CHILDREN:

Programas infantiles.

SOCIAL:

Temas y acontecimientos sociales.

RELIGION:

Programas religiosos.

PHONE IN:

Programas en los que los oyentes participan y expresan sus opiniones por teléfono.

TRAVEL:

Información sobre viajes.

LEISURE:

Programas sobre actividades recreativas.

JAZZ:

Música de jazz.

COUNTRY:

Música country.

NATION M:

Música nacional.

OLDIES:

Música de la llamada época dorada de la música popular.

FOLK M:

Música folk.

DOCUMENT:

Documentales.

TEST:

Se emiten cuando se prueban señales de emergencia de equipos emisores y receptores. No tienen como función la búsqueda ni la sintonización dinámica en los receptores de los consumidores.

ALARM!:

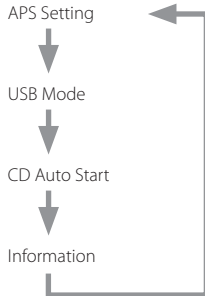
Programas que notifican mensajes sobre emergencias e información sobre desastres naturales.

Ajustes de configuración

1 Pulse el botón MENU.

2 Use los botones de dirección (</>) para seleccionar el apartado que desee configurar y pulse el botón ENTER.

Pulse el botón ►► para recorrer cíclicamente los siguientes apartados:



Pulse el botón ◀◀ para recorrer cíclicamente estos apartados en orden inverso.

3 Use los botones de dirección (</>) para cambiar el ajuste y pulse el botón ENTER para confirmar el cambio.

Después de confirmar, reaparecerá la pantalla anterior.

- Por el contrario, para cancelar el cambio del ajuste, pulse el botón MENU.

Pantalla de ejemplo

```
Menu
< APS Setting >
```

Pantalla de ejemplo

```
APS Setting
< APS ON >
```

APS Setting (ajuste de la función de ahorro de energía automático)

- Cuando la unidad sale de fábrica, la función de ahorro de energía automático está ajustada en "OFF" (desactivada) en los modelos para EE. UU. y Canadá, y en "ON" (activada) en los modelos para Europa.

ON (activada)

Cuando la fuente de entrada sea CD/USB, la unidad entrará en reposo si se para la reproducción o se pone en pausa durante 30 minutos.

OFF (desactivada)

La unidad no entrará en modo de reposo automáticamente.

El ajuste de la función de ahorro de energía automático aparece en la pantalla cuando se enciende la unidad.

Pantalla de ejemplo

```
TEAC PD-301
APS ON
```

USB Mode (modo USB)

- La unidad sale de fábrica ajustada en "File" (modo de archivos).

File (modo de archivos)

Los archivos se seleccionan tratando por igual todas las carpetas, sin tener en cuenta el nivel de cada carpeta.

Folder (modo de carpetas)

Los archivos y carpetas se seleccionan utilizando la jerarquía de carpetas.

Pantalla de ejemplo

```
USB Mode
< FILE >
```

CD Auto Start (comienzo automático de CD)

- La unidad sale de fábrica ajustada en "Stop (OFF)".

Stop (OFF) (parar-función desactivada)

Cuando se inserta un CD, no se inicia la reproducción automáticamente.

Playback (ON) (reproducir-función activada)

Cuando se inserta un CD y la fuente está puesta en CD, se inicia la reproducción automáticamente.

Pantalla de ejemplo

```
CD Auto Start
< Stop(OFF) >
```

Information (información)

Muestra la versión de firmware actual.

Pantalla de ejemplo

```
Information
Ver 1.00
```

Solución de posibles fallos

General

La unidad no se enciende (el LED del botón de reposo/encendido (⏻/1) no se ilumina).

- ➔ Compruebe que el cable de corriente está completamente enchufado en la toma de electricidad. Si la toma de electricidad tiene un interruptor de encendido/apagado, confirme que el interruptor está en la posición de encendido.
- ➔ Conecte otro dispositivo eléctrico a la toma de electricidad para confirmar que esta suministra corriente.

El mando a distancia no funciona.

- ➔ Apunte con el mando a distancia hacia el panel frontal de la unidad desde una distancia inferior a 5 m aproximadamente.
- ➔ El mando a distancia no funcionará si hay algún obstáculo entre él y la unidad principal. En ese caso, pruebe a cambiar de posición.
- ➔ Si las pilas están gastadas, cámbielas por unas nuevas.

Errores de funcionamiento en una TV u otro dispositivo.

- ➔ Algunas televisiones capaces de recibir señales de mandos a distancia inalámbricos pueden presentar errores de funcionamiento causados por el mando a distancia de esta unidad. Si se da el caso, utilice los botones de la unidad principal.

No se escucha sonido o se escucha muy bajo.

- ➔ Compruebe las conexiones del amplificador.
- ➔ Compruebe las conexiones con los altavoces y con el resto de dispositivos.

Hay ruido.

- ➔ Coloque la unidad lo más alejada posible de televisiones, hornos microondas y otros dispositivos que emitan ondas electromagnéticas.

Radio

No se recibe una emisora. La recepción no es buena.

- ➔ Seleccione una emisora.
- ➔ Si la recepción no es buena, intente reubicar la antena.
- ➔ Si hay una TV cerca de la unidad, apague la TV.
- ➔ Desconecte las unidades flash USB de la unidad cuando reciba señales de radio. Una unidad flash USB conectada podría causar ruido u otros problemas.

Las emisiones en estéreo se convierten en mono.

- ➔ Pulse el botón FM MODE del mando a distancia para seleccionar el modo estéreo.

CD Player

La reproducción no es posible.

- ➔ Si el disco está al revés, vuelva a cargarlo con el lado de la etiqueta hacia arriba.

- ➔ Si el disco está sucio, límpielo.
- ➔ Dependiendo de la calidad del disco y de las condiciones de grabación, es posible que algunos discos CD-R/CD-RW no puedan reproducirse.
- ➔ Los discos CD-R/CD-RW que no hayan sido finalizados no pueden reproducirse.

El sonido salta.

- ➔ Las vibraciones pueden hacer que el sonido salte. Instale esta unidad en un lugar estable.
- ➔ Si el disco está sucio, límpielo.
- ➔ No utilice discos rayados o rotos.

Archivos MP3, WMA, AAC y WAV

La reproducción no es posible.

- ➔ Compruebe la extensión del archivo. Los archivos se reconocen por su extensión: ".mp3" para los archivos MP3, ".wma" para los archivos WMA, ".m4a" para los archivos AAC y ".wav" para los archivos WAV.
- ➔ El archivo MP3/WMA/AAC/WAV podría estar dañado.
- ➔ Compruebe el formato de archivo. Esta unidad reproduce archivos MP3, WMA, AAC y WAV, pero no reproduce archivos WAV y AAC de un CD (página 119).

Aparece "NO USB" y no se reconoce la unidad flash USB.

- ➔ Intente formatear la unidad flash USB con un ordenador. Esta acción debería reescribir los datos FAT, de forma que esta unidad pueda reconocerla (ADVERTENCIA: La acción de formatear borrará todos los datos de la unidad flash USB).

Los nombres de las pistas, artistas y álbumes no aparecen en la pantalla.

- ➔ No hay información de etiqueta ID3 para ese archivo de música. Utilice un ordenador, por ejemplo, para preparar los archivos MP3/WMA/AAC con su información de etiqueta ID3 corregida. Las etiquetas ID3 no pueden usarse con archivos WAV.

Algunos caracteres no se muestran bien en la pantalla.

- ➔ Si la información del archivo tiene caracteres japoneses, chinos u otros caracteres de doble byte, puede reproducirse, pero su nombre no se mostrará correctamente.

"No Music file" aparece en la pantalla.

- ➔ El disco o la unidad flash USB no tiene ningún archivo de música reproducible. Cargue un disco o una unidad flash USB con archivos de música reproducibles.

Dado que esta unidad utiliza un microcontrolador, ruidos externos y otras interferencias pueden hacer que la unidad no funcione bien. Si esto ocurre, desenchufe el cable de corriente, espere un minuto y vuelva a encender la unidad para restablecer el funcionamiento.

Especificaciones

Reproductor de CD

Soportes de reproducción	CD-DA, CD-ROM/R/RW*
	Solo se pueden utilizar discos de 12cm
Formato	ISO9660 NIVEL 1/2/JOLIET
Número máximo de archivos	300 (incluidas carpetas)
Número máximo de carpetas	50
* Discos CD-RW solo compatibles en formato CD-DA	

USB

Dispositivos USB admitidos	Dispositivos de almacenamiento masivo
Interfaces compatibles	USB 2.0 (velocidad total)
	USB 1.1 (alta velocidad)
	USB 3.0
Sistemas de archivos	FAT16, FAT32
Número máximo de archivos	300 (incluidas carpetas)
Número máximo de carpetas	50
Voltaje de salida USB	5 V CC
Corriente de alimentación USB	500 mA máximo

Formatos de audio reproducibles

WAV (USB solo)	
Extensión	".wav", ".WAV"
Profundidad de bits de cuantización	16 bits
Frecuencia de muestreo	44.1 kHz, 48 kHz
MP3	
Extensión	".mp3", ".MP3"
Velocidad de bits	32 kbps – 320 kbps o VBR
Frecuencia de muestreo	16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
Estándares admitidos	MPEG-1/2 audio capa 3
WMA	
Extensión	".wma", ".WMA"
Velocidad de bits	32 kbps – 320 kbps o VBR
Frecuencia de muestreo	8 kHz, 11.025 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
Estándar admitido	WMA ver. 9 (no compatible con DRM)
AAC (USB solo)	
Extensión	".m4a", ".M4A"
Velocidad de bits	8 kbps – 320 kbps o VBR
Frecuencia de muestreo	8 kHz, 16 kHz, 32 kHz, 11.025 kHz, 22.05 kHz, 44.1 kHz, 12 kHz, 24 kHz, 48 kHz
Estándar admitido	MPEG4 AAC-LC (streaming de audio)

Sintonizador

Rango de frecuencias	FM
	De 87.5 MHz a 108.0 MHz

Salida de audio analógico

Terminales	RCA (2 canales) × 1
Impedancia de salida	470 Ω o menos
Nivel de salida máximo (1 kHz/escala completa, 10 kΩ)	2.0 Vrms
Respuesta de frecuencias	De 20 Hz a 20 kHz (–3 dB)
Relación señal/ruido	113 dB
Distorsión	0.005 % (1 kHz)

Salida de audio digital

Terminal digital COAXIAL × 1	Impedancia de salida
	75 Ω
	Nivel de salida
	0.5 Vp-p
Terminal digital ÓPTICO × 1	TOS (JEITA RC-5720C)
Frecuencia de muestreo	44.1 kHz
Profundidad de bits de cuantización	16 bits

General

Alimentación	
Modelo para Europa	CA 220–240 V (50 Hz, 60 Hz)
Modelo para EE. UU./Canadá	CA 120 V (50 Hz, 60 Hz)
Consumo de corriente	8 W
Dimensiones externas	215 × 61 × 232 mm (ancho × alto × profundo, incluidos salientes)
Peso	2,1 kg
Temperatura de funcionamiento	De +5 °C a +35 °C
Humedad de funcionamiento	De 5 % a 85 % (sin condensación)
Temperatura de almacenamiento	De –20 °C a +55 °C

Accesorios incluidos

Adaptador de corriente (GPE015A-120125-D) × 1
Cable de corriente para el adaptador de corriente × 1
Cable de audio RCA × 1
Mando a distancia (RC-1323) × 1
Antena de FM × 1
Manual del usuario (este documento) × 1
- Las especificaciones y el diseño están sujetos a cambios sin previo aviso. - El peso y las dimensiones son aproximados. - Las ilustraciones de este manual pueden diferir ligeramente de los modelos de producción.

WARRANTY/GARANTIE/GARANTÍA

In the United States/Canada/Aux États-Unis/Canada

Model/Modèle: **PD-301**

Serial No./N° de série

Owner's address/Adresse du propriétaire

Date of purchase/Date d'achat

Dealer's name/Nom du revendeur

Owner's name/Nom du propriétaire

Dealer's address/Adresse du revendeur

Sample

Length of Warranty

The parts and labor warranty will be effective for one (1) year from the date of the original purchase for products not used for commercial purposes. For products used commercially, the warranty is ninety (90) days for magnetic heads and optical pickups, one (1) year for all other parts and ninety (90) days for labor.

Who Is Covered Under This Warranty

This warranty is valid only in the United States or Canada, dependent upon the country in which original purchase was made, and enforceable only by the original purchaser within the country in which the purchase was made. This warranty is not valid if the product was purchased through an unauthorized dealer.

What Is Not Covered Under This Warranty

- Damage to or deterioration of the external cabinet.
- Damage resulting from accident, misuse, abuse, or neglect.
- Damage resulting from failure to follow instructions contained in the products owners' manual or otherwise provided with the product.
- Damage occurring during shipment of the product (Claims must be presented to the carrier).
- Damage resulting from the repair or attempted repair by anyone other than TEAC or an authorized TEAC service station.
- Damage resulting from modification or attempted modification of product not authorized by TEAC.
- Damage resulting from causes other than product defects, including lack of technical skills, competence, or experience of the user.
- Damage to any unit that has been altered or which the serial number has been defaced, modified or removed.

What TEAC Will Pay For

TEAC will pay all labor and material expenses for items covered by the warranty. Payment of shipping charges is covered in the next section.

How To Obtain Warranty Service

Your unit must be serviced by an authorized TEAC service station within the country in which the product was purchased. If you are unable to locate an authorized service station in your area, please contact TEAC at the applicable address shown at the end of this warranty statement. PLEASE DO NOT RETURN YOUR UNIT TO TEAC WITHOUT OUR PRIOR AUTHORIZATION. You must pay shipping charges if it is necessary to ship the product for service. However, if the necessary repairs are covered by warranty, we will pay the return shipping charges to any destination within the country in which the product was purchased. Whenever warranty service is required, you must present the original dated sales receipt, or other proof indicating the purchase place and date, as proof of warranty coverage.

LIMITATION OF IMPLIED WARRANTIES

ALL IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ARE LIMITED IN DURATION TO THE LENGTH OF THIS WARRANTY.

EXCLUSION OF DAMAGES

TEAC'S LIABILITY FOR ANY DEFECTIVE PRODUCT IS LIMITED TO REPAIR OR REPLACEMENT OF THE PRODUCT, AT TEAC'S OPTION. TEAC SHALL NOT BE LIABLE FOR DAMAGE BASED UPON INCONVENIENCE, LOSS OF USE OF THE PRODUCT, INTERRUPTED OPERATION, COMMERCIAL LOSS OR LOST PROFITS, OR ANY OTHER DAMAGES, WHETHER INCIDENTAL, CONSEQUENTIAL, PUNITIVE OR OTHERWISE.

SOME STATES OR PROVINCES DO NOT ALLOW LIMITATIONS ON HOW LONG AN IMPLIED WARRANTY LASTS AND/OR DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OR LIMITATION OF INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, SO THE ABOVE LIMITATIONS AND EXCLUSIONS MAY NOT APPLY TO YOU.

THIS WARRANTY GIVES YOU SPECIFIC RIGHTS, AND MAY VARY FROM SOME OF THE RIGHTS PROVIDED BY LAW. THESE RIGHTS MAY VARY FROM STATE TO STATE OR PROVINCE TO PROVINCE.

Continued on the next page ➔

WARRANTY/GARANTIE/GARANTÍA (continued)

Durée de la garantie

La garantie pièces et main d'œuvre sera valable un (1) an à compter de la date d'achat initial des produits non utilisés dans un but commercial. Pour les produits à utilisation commerciale, la garantie des têtes magnétiques et capteurs optiques est de quatre-vingt dix (90) jours, elle est d'un (1) an pour les autres pièces et quatre-vingt dix (90) jours pour la main d'œuvre.

Bénéficiaire de la garantie

Cette garantie n'est valable qu'aux États-Unis et au Canada, selon le pays d'achat initial, et ne s'applique qu'à l'acquéreur initial dans le pays d'achat.

Cette garantie n'est pas valable si le produit a été acheté auprès d'un revendeur non autorisé.

Ce qui n'est pas couvert par cette garantie

- Les dommages ou détériorations du boîtier externe.
- Les dommages résultant d'un accident, d'une mauvaise utilisation, d'un abus ou d'une négligence.
- Les dommages résultant du non-respect des instructions contenues dans le mode d'emploi du produit ou fournies avec le produit.
- Les dommages survenus durant le transport du produit (les réclamations doivent être adressées au transporteur).
- Les dommages résultant d'une réparation ou tentative de réparation effectuée par toute personne extérieure au service après-vente TEAC ou agréé par TEAC.
- Les dommages résultant d'une modification ou tentative de modification de produit non autorisée par TEAC.
- Les dommages résultant de causes autres que des défauts de produit, y compris le manque d'aptitude technique, de compétence ou d'expérience de l'utilisateur.
- Les dommages de toute unité ayant été modifiée ou dont le numéro de série a été effacé, modifié ou retiré.

Frais pris en charge par TEAC

TEAC prendra en charge tous les frais de pièces et main d'œuvre pour les articles couverts par la garantie. Les frais d'expédition sont évoqués dans la section suivante.

Comment obtenir une intervention sous garantie

Votre unité doit être réparée par un service après-vente agréé par TEAC dans le pays d'achat du produit. Si vous ne trouvez pas de service après-vente agréé dans votre région, veuillez contacter TEAC à l'adresse appropriée donnée à la fin de cette garantie. VEUILLEZ NE PAS RENVOYER VOTRE UNITÉ CHEZ TEAC SANS NOTRE AUTORISATION PRÉALABLE. Si le produit doit être renvoyé pour réparation, les frais d'expédition sont à votre charge. Toutefois, si les réparations nécessaires sont couvertes par la garantie, nous prendrons à notre charge les frais de retour vers toute destination dans le pays d'achat du produit. Lorsqu'une réparation sous garantie est requise, vous devez présenter comme preuve de couverture par la garantie la facture d'achat originale datée ou une autre preuve d'achat mentionnant le lieu et la date d'achat.

LIMITATION DES GARANTIES IMPLICITES

TOUTES LES GARANTIES IMPLICITES, Y COMPRIS LES GARANTIES DE QUALITÉ MARCHANDE ET D'ADÉQUATION À UN USAGE PARTICULIER, SONT LIMITÉES À LA DURÉE DE CETTE GARANTIE.

EXCLUSION DE DOMMAGES

LA RESPONSABILITÉ DE TEAC VIS-À-VIS DE TOUT PRODUIT DÉFECTUEUX EST LIMITÉE À LA RÉPARATION OU AU REMPLACEMENT DU PRODUIT, AU GRÉ DE TEAC. TEAC NE POURRA ÊTRE TENU POUR RESPONSABLE DE QUELCONQUES DOMMAGES SE RAPPORTANT AU DÉRANGEMENT, À LA PERTE D'USAGE DU PRODUIT, À L'INTERRUPTION DE L'UTILISATION, AUX PERTES COMMERCIALES OU DE PROFITS, NI D'AUCUN AUTRE DOMMAGE, QU'IL SOIT ACCESSOIRE, INDIRECT, PUNITIF OU AUTRE.

CERTAINS ÉTATS OU PROVINCES N'AUTORISENT PAS DE LIMITATIONS DE DURÉE D'UNE GARANTIE IMPLICITE ET/OU N'AUTORISENT PAS L'EXCLUSION OU LA LIMITATION DES DOMMAGES ACCESSOIRES OU INDIRECTS, AUQUEL CAS LES LIMITATIONS ET EXCLUSIONS CI-DESSUS PEUVENT NE PAS VOUS ÊTRE APPLICABLES.

CETTE GARANTIE VOUS DONNE DES DROITS SPÉCIFIQUES QUI PEUVENT ÊTRE DIFFÉRENTS DE CERTAINS DROITS OCTROYÉS PAR LA LOI. CES DROITS PEUVENT VARIER D'UN ÉTAT À L'AUTRE OU D'UNE PROVINCE À L'AUTRE.

Europe/Europa

This product is subject to the legal warranty regulations of the country of purchase. In case of a defect or a problem, please contact the dealer where you bought the product.

Ce produit est sujet aux réglementations concernant la garantie légale dans le pays d'achat. En cas de défaut ou de problème, veuillez contacter le revendeur chez qui vous avez acheté le produit.

Las condiciones de garantía de este aparato están sujetas a las disposiciones legales sobre garantía del país en el que ha sido adquirido. En caso de garantía, debe dirigirse al establecimiento donde adquirió el aparato.

In countries/regions other than the USA, Canada and Europe

This warranty gives you specific legal rights, and you may also have other rights that vary by country, state or province. If you have a warranty claim or request, please contact the dealer where you bought the product.

该保证书赋予了顾客特定的合法权利,并且因国家,州或省等地域的不同,顾客可能拥有其他权利。如需申请或要求保修,请与购买本产品的销售店进行联系。

保証書

品名	CD プレーヤー / FM チューナー		
おおよび形名	PD-301		
機番			
保証期間	本体	1 年	
お買上日	年	月	日
お客様	お名前	様	
	ご住所		
	電話	()	

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

販売店	所	名称 (印)
	電話	()

見本

無料修理規定

- 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合は、ティアック修理センターが無料修理いたします。
 - 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
 - ご転居、ご贈答品等でお買上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
 - 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
 - ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - 接続している他の機器に起因する故障および損傷
 - 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
 - メンテナンス
 - 本書の提示がない場合
 - 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名 (印) の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- ※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの (保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。
- ※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間についての詳細は、取扱説明書をご覧ください。

ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47 <https://teac.jp/jp/>



この製品のお取り扱い等についてのお問い合わせ

AV お客様相談室

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

042-356-9235 携帯電話、IP 電話をご利用の場合

0570-000-701 固定電話をご利用の場合



固定電話をご利用の場合

FAX : 042-356-9242

受付時間は、10:00 ~ 12:00/13:00 ~ 17:00 です。
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせ

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858

04-2901-1033 携帯電話、IP 電話をご利用の場合

0570-000-501 固定電話をご利用の場合



固定電話をご利用の場合

FAX : 04-2901-1036

受付時間は、9:30 ~ 12:00/13:00 ~ 17:00 です。
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

● 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

TEAC

TEAC CORPORATION

1-47 Ochiai, Tama-shi, Tokyo 206-8530, Japan
<https://teac.jp/int/>

The serial number for this product is printed on the nameplate on the bottom of the unit.
Please write it here and retain this for your records.

Model name: PD-301

Serial number



0425 MA-4042A